

# ザ・フクオカ 第4号

2022年度 FIUHW 自己点検・評価資料



福岡国際医療福祉大学

# 目 次

<b>1. 大学の建学の精神、教育理念と概要</b>	<b>1</b>
1.1 建学の精神	1
1.2 大学の基本理念	1
1.3 5つの教育目標	1
1.4 所在地	1
1.5 沿革	1
1.6 組織図	1
1.7 各学科の入学定員	2
1.8 入試状況・在籍状況	2
1.9 学年暦	5
<b>2. 各職種の現状</b>	<b>6</b>
2.1 理学療法士	6
2.2 作業療法士	8
2.3 視能訓練士	10
2.4 看護師	12
2.5 言語聴覚士	13
<b>3. 教育内容</b>	<b>14</b>
3.1 大学のポリシー	14
3.2 カリキュラムの内容	17
<b>4. 大学生活</b>	<b>18</b>
4.1 学生生活	18
4.2 表彰	18
4.3 奨学金関係	18
4.4 クラブ及びサークル	19
4.5 国家試験状況・就職状況	20
<b>5. 委員会及び研究</b>	<b>21</b>
5.1 委員会組織と委員	21
5.2 Good Teaching 賞、FD・SD 研修、研究費受給	23
<b>6. 国際関係</b>	<b>28</b>
6.1 留学生・研修生	28
6.2 国際学術活動	28
6.3 他の国際活動	28
6.4 海外保健福祉事情	28
<b>7. 地域貢献</b>	<b>30</b>
7.1 地域公開講座	30
7.2 ボランティア	30
<b>8. 教員と業績</b>	<b>31</b>
8.1 学長・副学長	31
8.2 医療学部 理学療法学科	34
8.3 医療学部 作業療法学科	45
8.4 医療学部 視能訓練学科	55
8.5 看護学部 看護学科	65
8.6 言語聴覚専攻科	82
<b>9. 大学・関連施設</b>	<b>84</b>

## 1. 大学の建学の精神、教育理念と概要

### 1. 1 建学の精神

生命の尊厳、生命の平等

### 1. 2 大学の基本理念

福岡国際医療福祉大学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざす。

### 1. 3 5つの教育目標

チームワーク：「チーム医療」「チームケア」に貢献できる専門性の高い人材を養成する。

専門性：保健、医療、福祉分野の高度化・専門化に対応できるとともに、それぞれの分野で指導となり得る人材を養成する。

国際性：国内はもとより国際社会でも活躍できる、総合的な臨床能力を持った人材を養成する。

人格形成：知識や技術に偏向しない、バランスのとれた豊かな人間性とコミュニケーション能力を持った人材を養成する。

実践力：時代のニーズに適合し、地域医療にも貢献できる、実践力のある人材を養成する。

### 1. 4 所在地

本館【医療学部】 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40  
TEL：092-832-1200（代表） FAX：092-832-1167  
1号館【看護学部】 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 1-7-4  
2号館【看護学部】 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 2-4-16

### 1. 5 沿革

1990年4月1日 学校法人高木学園設立  
2001年4月1日 福岡国際医療福祉学院 開校 2020年3月 閉校  
2018年8月31日 文部科学省 設置認可  
2019年4月1日 医療学部（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）、言語聴覚専攻科 開学  
2021年4月1日 移管：国際医療福祉大学（福岡看護学部）より福岡国際医療福祉大学（看護学部）へ

### 1. 6 組織図

福岡国際医療福祉大学

医療学部 理学療法学科（PT）

作業療法学科（OT）

視能訓練学科（ORT）

看護学部 看護学科（NS）（2021年4月 国際医療福祉大学より移管）

言語聴覚専攻科（ST）

## 1. 7 各学科の入学定員

福岡国際医療福祉大学は、2019年4月に医療学部の1学部3学科（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）と1専攻科（言語聴覚専攻科）で開学した。定員は各学科40名、専攻科は40名である。2021年に看護学部が国際医療福祉大学福岡看護学部より移管され、定員は100名である（表1-1）。

表1-1 入学定員と合計数

学部	学科・専攻	1学年定員	合計数	開設年	年限	備考
医療学部	理学療法学科	40	160	2019年	4年制	
	作業療法学科	40	160	2019年	4年制	
	視能訓練学科	40	160	2019年	4年制	
看護学部	看護学科	100	400	2021年	4年制	2021年移管
専攻科	言語聴覚専攻科	40	80	2019年	2年制	

## 1. 8 入試状況・在籍状況

本学は、日々進化する保健・医療・福祉の分野において、それぞれの需要に対応できる医療専門職を養成し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざし、それを基本理念としている。そのため本学では、豊富なグループ関連施設などと連携し、入学初期より実習を行うことで、「チーム医療・チームケア」の考え方やスキルを身につけ、また、海外研修を必修とすることで、国際的な視野や多言語によるコミュニケーション能力を育むカリキュラム変更を導入している。それにより、国際的に活躍できる医療専門職を養成し、また、それぞれの分野において指導者となり得る人材を養成することで、「共に生きる社会」の実現に尽くすものである。

- 1) 保健・医療・福祉の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
- 2) 基本的倫理観を持つ者
- 3) 各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
- 4) 海外の保健・医療・福祉に興味を持つ者

2022年度入試は、高校推薦入試（公募制・指定校制）・一般前期試験・一般後期試験を実施した。2020年度入試はA0入試、大学センター入試を導入した。一般前期試験は本学のみでなく、地方会場として山口・大分・長崎・鹿児島で実施した。2021年度入試では、A0入試が総合型選抜に、高校推薦入試（公募制・指定校制）が学校推薦型選抜（公募制・指定校制）、大学入試センター試験利用入試が大学入学共通テスト利用選抜に変更となり、移管された看護学部の入試が開始された。

2022年度入試状況は表1-2に4年間の受験者の動向をします。また表1-3は在籍者数を示す。

2022年度の入学生の出身都道府県は、福岡県が最も多く67.8%であり、九州地区出身者は全体の91.9%である（表1-4）。2022年度は言語聴覚学科の設置に伴い、この学科は総合型選抜と学校推薦型選抜を同時期で実施した。

表1-2 2022年度入試 受験状況

	総合型選抜		学校推薦型		特待奨学生		特別選抜		一般前期		一般後期		共通テスト		合計		入学者数
	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	
医療学部理学療法学科																	
2019年			25	14			3	1	148	52	8	1			184	68	49
2020年	29	3	28	12			0	0	138	42	10	1	55	18	260	76	44
2021年	23	3	50	12			0	0	142	43	6	1	55	17	276	76	43
2022年	10	5	36	17			0	0	135	35	9	4	69	22	259	83	42
2023年	23	5	27	20			0	0	142	38	4	1	56	16	252	80	46
医療学部作業療法学科																	
2019年			14	14			0	0	55	37	0	0			69	51	47
2020年	16	4	21	17			1	1	68	29	3	1	30	7	139	59	44
2021年	4	3	23	21			0	0	55	24	6	6	22	8	110	62	44
2022年	17	6	30	26			0	0	50	20	2	1	20	9	119	62	45
2023年	5	2	23	22			0	0	41	25	2	1	17	8	88	58	42
医療学部言語聴覚学科 (2023年4月開設)																	
2023年	5	4	22	22			0	0	51	24	0	0	20	10	98	60	41
医療学部視能訓練学科																	
2019年			16	16			0	0	48	28	1	1			65	45	40
2020年	12	5	16	16			0	0	55	29	1	1	17	10	101	61	46
2021年	12	5	36	30			0	0	66	12	4	2	22	9	140	58	44
2022年	9	4	23	21			0	0	35	18	2	2	15	11	84	56	44
2023年	11	7	20	19			0	0	43	22	1	0	12	6	87	54	42
看護学部看護学科																	
2019年	39	16	63	42	189	65	3	3	220	50	19	0	42	22	575	198	119
2020年	33	15	69	42	181	51	4	2	346	31	18	4	74	12	725	157	105
2021年	32	15	72	39			3	1	412	102	23	15	130	14	672	186	111
2022年	23	15	66	43			1	0	413	117	34	9	133	27	670	211	111
2023年	33	15	48	43			2	2	350	119	11	0	110	28	554	207	112
言語聴覚専攻科 (2022年度募集停止)																	
	AO		一般				I期		II期		III期						
2019年	16	15	10	10											26	25	23
2020年							10	10	12	12	5	5			27	27	26
2021年							12	12	7	7	11	10			30	29	28
2022年							5	5	6	6	4	4			15	15	14

表1-3 在籍者数

学年	PT	OT	ORT	NS	ST	合計
1年生	42	45	44	112	14	257
2年生	44	44	45	108	29	270
3年生	45	46	42	103		236
4年生	44	41	35	117		237
合計	175	176	166	440	43	1000

2022.5.1 現在

表 1-4 2022 年度入学学生の出身県別一覧

出身校	2022年度入学生					総計
	理学療法学科	作業療法学科	視能訓練学科	看護学科	言語聴覚専攻科	
北海道		1				1
茨城						
千葉	1					1
東京					1	1
神奈川				1		1
三重				1		1
京都					1	1
愛知						
奈良					1	1
兵庫				1	1	2
広島		2				2
岡山						
山口	4	2	1	4		11
福岡	25	26	31	76	10	168
佐賀	1	3	2	8		14
長崎	5	4	2	6		17
熊本	1	1		4		6
大分	1	2	2	2		7
宮崎	1	1	2	5		9
鹿児島	1	3	3	1		8
沖縄	2		1	1		4
高卒認定				1		1
総計	42	45	44	111	14	256

## 1. 9 学年暦

2022年度の学年暦を表1-5に示す。コロナ感染症の関係で行事を縮小して実施してきた。

表1-5 2022年度学年暦

	大学行事	学科・専攻関係
4月	4, 5日(月火) 新入生オリエンテーション 6日(水) 入学式 7日(木) 前期授業開始 30日(土) ワクチン職域接種	
5月	9日(月) ワクチン職域接種 14日(土) 教育後援会 20日(金) 高校教員向け学校説明会 21日(土) 運動会(中止) レクレーション大会	
6月	17日(金) 高校教員向け学校説明会 25日(土) 第1回地域公開講座(加齢と資格・運転)	14日(木) 解剖学実習(PT, OT) 佐賀大学
7月	9日(土) 関連職種連携ワーク発表会 10日(日) オープンキャンパス 21日(木) 前期授業終了 22~29日(金) 前期試験	14日(木) 解剖学実習(Ns) 佐賀大学
8月	6日(土) オープンキャンパス 7日(日) オープンキャンパス 18日(木) 福岡国際医療福祉大学セミナー 20日(土) オープンキャンパス	27日(土) STフォーラム 28日(日) 第12回IUHW学会(大川)
9月	3日(土) 第2回地域公開講座(認知症と難聴) 26日(月) 後期授業開始	
10月	15日(土) 総合型選抜入試 25日(火) 文科省のAC設置履行審査 29日(土) オープンキャンパス 29日(土) 大学祭(新風祭)	28日(金) リハビリ教育評価(ST)受審
11月	1日(火) 中国リハビリ研究センター締結式 7日(月) 1号館防災訓練 19日(土) 高校推薦入試 25日(金) 法人AC文科省設置履行審査 26日(土) 第3回地域公開講座(加齢と健康)	9日(水) リハビリ教育評価(OT)受審 16日(水) リハビリ教育評価(PT)受審
12月	5日(月)、8日(木) 総合防災訓練(本館) 27日(火) 冬期休暇(3日まで)	
1月	4日(月) 授業再開 15, 16日(土、日) 共通テスト 19日(木) 後期授業終了 20~25日 後期試験 26~27日(木、金) 入試(一般前期、社会人、留学生)	
2月	25日(土) 教育後援会	10日 保健師国家試験 12日 看護師国家試験 16日 視能訓練士国家試験 18日 言語聴覚士国家試験 19日 理学療法士作業療法士国家試験
3月	3日(金) 一般入試後期 8日(水) 卒業式	

## 2. 各職種の現状

### 2.1 理学療法士

#### 1) 理学療法士の定義

理学療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「理学療法」とは、「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう。」と定義されている。

世界理学療法連盟では以下のように定義されている（1982年）。

理学療法は身体的治療の技術及び科学であり、運動療法、教育指導、温熱、寒冷、光線、水、マッサージ及び電気を治療手段とする。治療目的のなかに痛みの緩和、循環の増加、障害(disability)の予防と改善、力、可動性及び協調性の最大回復がある。

理学療法は、神経支配と筋力の障害(impairment)程度を決定するための電氣的・徒手的テスト、機能的能力を決定するためのテスト、関節可動域の測定、肺活量の測定を医師の診断補助とし、また経過を記録する目的として行うことを含む。

理学療法士は障害(disability)を予防し病人及び障害者(handicapped)を社会復帰(rehabilitate)させるために働くとともに、予防医学においても活動的であり、また臨床研究も行う。

#### 2) 養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992年に4年制が広島大学医学部に設立された。また、理学療法学分野の大学院修士及び博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2022年では大学が128校、3年制短大が5校、専門学校が144校である（表2-1）。

#### 3) 理学療法士の現状

2021年度の理学療法士の国家試験合格者の累計は192,327名である。毎年10,000名程度の増加がみられる（表2-1）。

日本理学療法士協会は理学療法士有資格者の職業団体である。現在約12万名の会員で組織されている。

世界理学療法連盟(World Physiotherapy)は125各国、66万名(2022-3-31)の組織団体である。最近では2年に一回、各国で学術大会を開催している。

#### 4) 国家試験

理学療法士の国家試験は、作業療法士と同時に行われている。年1回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、理学療法などである。

受験者数と合格率について表に示す。最近の合格率は80%台である。



表 2-1 理学療法士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格総数	会員数	組織率
2001	平成13年	3,240	3,140	96.9	30,061	26,910	89.5
2002	平成14年	3,503	3,354	95.7	33,415	29,845	89.3
2003	平成15年	3,686	3,629	98.5	37,044	33,038	89.2
2004	平成16年	4,289	4,199	97.9	41,243	36,693	89.0
2005	平成17年	5,102	4,843	94.9	46,086	40,869	88.7
2006	平成18年	6,155	6,002	97.5	52,088	45,870	88.1
2007	平成19年	7,036	6,559	93.2	58,647	51,380	87.6
2008	平成20年	7,997	6,924	86.6	65,571	57,148	87.2
2009	平成21年	9,119	8,291	90.9	73,862	63,519	86.0
2010	平成22年	9,835	9,112	92.6	82,974	70,758	85.3
2011	平成23年	10,416	7,736	74.3	90,710	76,639	84.5
2012	平成24年	11,956	9,850	82.4	100,560	83,939	83.5
2013	平成25年	11,391	10,104	88.7	110,664	91,476	82.7
2014	平成26年	11,129	9,315	83.7	119,979	95,721	79.8
2015	平成27年	12,035	9,952	82.7	129,931	102,767	79.1
2016	平成28年	12,515	9,272	74.1	139,203	106,670	76.6
2017	平成29年	13,719	12,388	90.3	151,591	115,825	76.4
2018	平成30年	12,148	9,885	81.4	161,476	119,525	74.0
2019	平成31年	12,605	10,809	85.8	172,285	125,372	72.8
2020	令和2年	12,283	10,608	86.4	182,893	129,875	71.0
2021	令和3年	11,946	9,434	79.0	192,327	133,133	69.2
2022	令和4年	12,685	10,096	79.6	202,423		
2023	令和5年	13,648	11,312	82.9	213,735		

## 2. 2 作業療法士

### 1) 作業療法士の定義

作業療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「作業療法」とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることをいうと定義されている。

しかし、現行の理学療法士及び作業療法士法(1965年)や日本作業療法士協会が1985年に定めた作業療法法の定義では、医療領域における実践イメージと結びつきやすく、多様化する今日の作業療法の現状を適切に表現するには定義を改定する必要性が生じた。そこで日本作業療法士協会は、2018年5月、以下に示すとおり、協会が示す作業療法法の定義文を改訂した。

「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。」

### 2) 養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992年に4年制が広島大学医学部に設立された。また、作業療法分野の大学院修士及び博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2022年では養成校数は、205校(209課程、入学定員7,820人)である。1998年より養成校が急増し、これはゴールドプランによる高齢者の増加に伴い医療福祉職の需要が多くなったことにより生じたものである(表2-2)。

### 3) 作業療法士の現状

2021年の有資格者数は104,286名である。その作業療法士数の変遷を表に示す。

作業療法の対象は、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている、又はそれが予測される人や集団である。

また、作業療法士が関わる領域は、医療、保健、福祉、教育、職業、その他に大別でき、現状では医療機関で働く作業療法士の数が最も多い。しかし、近年は高齢化社会への対応である介護領域で働く作業療法士の数が増加している。また、国が目指している「共生社会の実現」への対応として、障害福祉、教育、職業の領域で働く作業療法士の数も少しずつ増えてきている。

### 4) 国家試験

作業療法士の国家試験は、理学療法士と同時に行われている。年1回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、作業療法などである。

受験者数と合格率について表2-2に示す。最近の合格率は70-80%台であり、年によって変化が大きい。

表2-2 作業療法士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格総数	会員数	組織率
2001	平成13年	2,477	2,347	94.8	17,229	15,193	88.2
2002	平成14年	2,854	2,587	90.6	19,816	17,458	88.1
2003	平成15年	3,205	2,937	91.6	22,755	20,051	88.1
2004	平成16年	3,469	3,313	95.5	26,069	23,151	88.8
2005	平成17年	3,893	3,442	88.4	29,511	26,131	88.5
2006	平成18年	4,571	4,185	91.6	33,696	29,523	87.6
2007	平成19年	5,131	4,400	85.8	38,097	32,948	86.5
2008	平成20年	5,783	4,257	73.6	42,354	35,961	84.9
2009	平成21年	6,675	5,405	81.0	47,759	39,241	82.2
2010	平成22年	6,486	5,317	82.0	53,076	42,348	79.8
2011	平成23年	5,794	4,116	71.0	57,192	44,958	78.6
2012	平成24年	5,821	4,637	79.7	61,829	46,092	74.5
2013	平成25年	5,279	4,079	77.3	65,908	48,008	72.8
2014	平成26年	5,474	4,740	86.6	70,648	49,841	70.5
2015	平成27年	5,324	4,125	77.5	74,773	50,494	67.5
2016	平成28年	5,004	4,711	94.1	79,484	53,045	66.7
2017	平成29年	5,983	5,007	83.7	84,491	55,904	66.2
2018	平成30年	6,164	4,700	76.2	89,191	58,234	65.3
2019	平成31年	6,358	4,531	71.3	93,722	62,294	66.5
2020	令和2年	6,352	5,548	87.3	99,270	63,498	64.0
2021	令和3年	5,549	4,510	81.3	103,780	64,017	61.7
2022	令和4年	5,723	4,608	80.5	108,388	64,468	59.5
2023	令和5年	5,719	4,793	83.8	113,181		

## 2. 3 視能訓練士

### 1) 視能訓練士の定義

視能訓練士 (Certified Orthoptist (略称CO)、Orthoptist の前3字でORTとも略される) は、小児の弱視や斜視の視能矯正や視機能の検査をおこなう国家資格を持つ専門技術職として 1971 年に視能訓練士法が公布され、制定された。この法律の中では、両眼視機能に障害のある者に対する機能回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査を行なうと定義されていた。このように視能訓練士法制定当時は視能訓練士の業務は小児の斜視や弱視の視機能の検査や視能矯正に限定されていたが、その後、高齢化に伴う眼科領域の疾病構造の変化や、検査機器の進歩による眼科検査の多様化などを受け、1993 年の関係法令成立により、医師の指示の下、人体に影響を及ぼす程度が高い一部の検査を除き、臨床で一般的に行われている眼科諸検査全般を行うことができるようになった。

視能訓練士は、弱視や斜視に対しての視力向上や正常な両眼視機能の獲得を目的とした視能訓練、両眼視能検査、眼筋機能検査、斜視訓練、弱視訓練を行うと同時に、視力検査・屈折検査・眼鏡処方検査・コンタクトレンズ検査・視野検査や、眼の奥の写真や組織の断層を撮影する画像診断検査、正確な手術をおこなうための手術前の検査など様々な眼科一般検査および精密な特殊検査を行う。さらにリハビリテーション分野でも眼疾患や外傷などにより視機能が低下した状態となったロービジョン患者を一人一人に合わせた光学的補助具(拡大鏡、遮光眼鏡等)の選定、見え方を補う様々な工夫で生活の質の改善を支援して、視覚リハビリテーション施設と連携するなど、ロービジョンに対する視能リハビリテーションも行っている。

### 2) 養成校の変遷

1970 年 4 月に東京都世田谷区にあった国立小児病院構内にわが国初の視能訓練士の養成施設が厚生省立として設置開校された。この国立小児病院附属視能訓練学院は短期大学卒業以上の女子を入学資格とし、修業年限 1 年、定員は 30 名であった。5 年遅れて同様の養成校(国立大阪病院附属視能訓練学院)が国立大阪病院構内に付設された。その後、1977 年に新潟医療技術専門学校が高校卒業以上を対象とした私立の 3 年制の専門学校として誕生した。養成校が 3 校のみという時代が長く続いたが、1988 年岐阜視能訓練専門学院(現、平成医療短期大学)の開設を皮切りに多くの養成校が誕生することになる。その一方で、創成期を支えた国立の養成校 2 校はその役目を終え閉校することになった。

最初の視能訓練士養成大学は 1991 年に岡山県倉敷市に誕生した川崎医療福祉大学である。同大学は 1996 年には大学院を設置した。今では視能訓練士にも修士、博士といった学位取得者を見受けるようになった。現在は、大学が 10 校、専門学校が 16 校、短期大学が 1 校、計 27 校である。養成の場は徐々に大学にシフトしつつあるが、専門学校の人気も根強い。九州には専門学校が 2 校で、大学は本学だけである。

### 3) 視能訓練士の現状

2022 年の国家試験の合格者累計は 18,550 名であり、毎年約 800 名が増加している。視能訓練士数の変遷を表に示す。

斜視、弱視の視能訓練という専門分野のみを業務としていた創成期に対して、現在は、視能訓練や眼科検査以外にも、3 歳児健診や成人健診などでの視機能スクリーニング、低視力者のリハビリテーション指導など、幅広い業務を担当するようになり、業務は飛躍的に拡大している。さらに近年では、高齢者や発達障害児が抱える視覚の問題に対する包括的なケアを求める社会のニーズも増大している一方、視能訓練士は不足しており、一般病院では看護師が慣れない視力検査をおこなっているところも多く、検査精度が問題になっている。

### 4) 国家試験

視能訓練士の国家試験は、年 1 回、東京と大阪の 2 会場で行われる。出題分野は、基礎医学大要、基礎視能矯正学、視能検査学、視能障害学、及び視能訓練学である。問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は 150 問であり、合格基準は 60% である。最近の合格率は 95% 以上である。

表 2-3 視能訓練士の国家試験合格者の変遷

2009	平成21年	675	624	92.4	8,766	5,182
2010	平成22年	685	585	85.4	9,351	5,131
2011	平成23年	734	670	91.3	10,021	5,433
2012	平成24年	720	665	92.4	10,686	5,641
2013	平成25年	743	546	73.5	11,232	5,820
2014	平成26年	953	863	90.6	12,095	5,897
2015	平成27年	886	788	88.9	12,883	6,046
2016	平成28年	886	833	94.0	13,716	6,259
2017	平成29年	832	775	93.1	14,491	6,288
2018	平成30年	910	889	97.7	15,380	6,489
2019	平成31年	834	819	98.2	16,199	6,621
2020	令和2年	837	804	96.1	17,003	6,669
2021	令和3年	850	774	91.1	17,777	6,534
2022	令和4年	842	773	91.8	18,550	
2023	令和5年	943	842	89.3	19,392	

## 2. 4 看護師

### 1) 看護師の定義

「看護師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者と保健師助産師看護師法五条で定められている。

また、ICN（国際看護師協会）看護師の定義（日本看護協会訳）の定義は、看護師とは、基礎的で総合的な看護教育の課程を修了し、自国で看護を实践するよう適切な統制機関から権限を与えられている者である。看護基礎教育とは、一般看護実践、リーダーシップの役割、そして専門領域あるいは高度の看護実践のための卒後教育に向けて、行動科学、生命科学および看護科学における広範囲で確実な基礎を提供する、正規に認定された学習プログラムである。看護師とは以下のことを行うよう養成され、権限を与えられている。(1) 健康の増進、疾病の予防、そしてあらゆる年齢およびあらゆるヘルスケアの場および地域社会における、身体的、精神的に健康でない人々および障害のある人々へのケアを含めた全体的な看護実践領域に従事すること；(2) ヘルスケアの指導を行うこと；(3) ヘルスケア・チームの一員として十分に参加すること；(4) 看護およびヘルスケア補助者を監督し、訓練すること；(5) 研究に従事することである。

### 2) 養成校の変遷

看護師の養成校は、4年制大学、3年制短期大学、3年制専門学校などで1064養成校がある。そのうち263校が4年制大学である（約25%）。今後も看護大学が増加している現状である。

### 3) 看護師の現状

2022年の国家試験の合格者は59344名（受験者65684名合格率91.3%）である。

医療の高度化や高齢社会に伴い、2025年の看護師必要数は188万人～202万人であり、同年において6～27万人の不足数が推定されている（厚生労働省看護職員需給推計 2019年）。看護師等の人材確保とともに社会的要請に対応できる専門的知識と技能の向上のために、1992年「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が制定され、看護系大学が急激に増加している（ulist.pdf (janpu.or.jp) 一般社団法人 日本看護系大学協議会）。

看護師の育成は高等教育化を辿っており、看護学の教育研究者や高度実践者の育成を目指し、看護系大学院（修士課程）は令和2年3月現在で186校、国公立87校、私立99校が開設されている（日本看護系大学協議会、国公立看護系大学等の状況 monbukagakusyuu-ulist.pdf）。しかし、「教育体制充実のための看護系大学院における教育者養成に関する調査研究報告」（平成27年3月）では（完教育者養成に関する調査研究報告書.indd (janpu.or.jp)、看護系大学の急増に伴う教員不足、教育的資質を十分問われることなく教員として採用されていく現状が取り上げられている。保健医療の他職種や実習医療機関と連携し看護学の実践科学という特徴を踏まえた教育・研究能力を有する看護学の教育研究者の育成が必要である。また、大学院の増加により看護学のエビデンスが蓄積されているが、臨床や教育における看護実践の成果に着目し、エビデンスの活用が指摘されている（国際看護師協会、INTERNATIONAL COUNCIL OF NURSES）。保健医療サービスにおける看護実践に根差したエビデンスを解明し、明確な臨床判断に基づいて行動できる高度な看護実践者の育成が必要である。

### 4) 国家試験

看護師の国家試験は、年1回（2月）、全国12会場で行われる。出題分野は、基礎医学、臨床医学、看護の専門の科目等である。問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は250問であり、合格基準は必須問題では80%以上、一般問題と含めて60～70%以上で、社会の状況により合格基準が変化する。

## 2. 5 言語聴覚士

### 1) 言語聴覚士の定義

1997年に言語聴覚士法が公布され、言語聴覚士が制定された。その法律の中で、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うと定義されている。

### 2) 養成校の変遷

言語聴覚士の養成校は文部学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（令和2年5月1日現在）によれば大学が26校、専門学校が25校、2年制養成が26校である。2年制課程は大学卒業者が入学条件となっている。

### 3) 言語聴覚士の変遷

2021年の国家試験の合格者累計は37082名である。2021年度は1945名（合格率75%）が合格した。その言語聴覚士数の変遷を表に示す。

### 4) 国家試験

言語聴覚士の国家試験は、年1回、問題形式は五者択一である。問題数は200問であり、合格基準は120点である。最近の合格率は65～75%台である。

表2-5 言語聴覚士の国家試験合格者数の変遷

	実施年	回	受験者数	合格者数	合格率	合格累計
平成11年	1999	第1回	4,556	4,003	87.9	4,003
平成12年	2000	第2回	1,565	664	42.4	4,667
平成13年	2001	第3回	1,908	936	49.1	5,603
平成14年	2002	第4回	2,113	1,137	53.8	6,740
平成15年	2003	第5回	2,447	1,027	42.0	7,767
平成16年	2004	第6回	1,658	1,130	68.2	8,897
平成17年	2005	第7回	1,812	1,012	55.8	9,909
平成18年	2006	第8回	2,226	1,389	62.4	11,298
平成19年	2007	第9回	2,323	1,266	54.5	12,564
平成20年	2008	第10回	2,574	1,788	69.5	14,352
平成21年	2009	第11回	2,347	1,344	57.3	15,696
平成22年	2010	第12回	2,498	1,619	64.8	17,315
平成23年	2011	第13回	2,374	1,645	69.3	18,960
平成24年	2012	第14回	2,263	1,413	62.4	20,373
平成25年	2013	第15回	2,381	1,621	68.1	21,994
平成26年	2014	第16回	2,401	1,779	74.1	23,773
平成27年	2015	第17回	2,506	1,776	70.9	25,549
平成28年	2016	第18回	2,553	1,725	67.6	27,274
平成29年	2017	第19回	2,571	1,951	75.9	29,225
平成30年	2018	第20回	2,531	2,008	79.3	31,233
平成31年	2019	第21回	2,367	1,630	68.9	32,863
令和2年	2020	第22回	2,486	1,626	65.4	34,489
令和3年	2021	第23回	2,546	1,766	69.4	36,255
令和4年	2022	第24回	2,593	1,945	75.0	38,200
令和5年	2023	第25回	2,515	1,696	67.4	39,896

### 3. 教育内容

#### 3.1 大学のポリシー

##### 3.1.1 カリキュラム・ポリシー

本学では、基本理念・教育目標を実現するため、調和のとれた人格形成に必要な教養科目を基礎におき、また専門分野に関する科目については体系的に構成するカリキュラムとなっている。

以下に本学のカリキュラム・ポリシーおよびカリキュラム体系を示す。

- ①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた、豊かな人間性を養う。
  - ②専門基礎科目：人体の構造や、疾病に関わる基礎的な知識を学修し、「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する。
  - ③専門科目：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する。
- 
- ①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた豊かな人間性を養うとともに、専門教育を受ける上での基本的な知識を修得する科目である。総合教育科目は人間系、社会系、自然・情報系、保健体育系、総合系、外国語系に区分される。
    - 4年間にわたり学べる機会を設けている。
    - 原則として全学科共通の開講科目である。
    - 外国語系科目は海外研修を念頭に置いた実用性を重視した内容である。
  - ②専門基礎科目：「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する科目である。専門科目（高度な専門的知識・技術）を学ぶための前提となる知識、技術を学ぶとともに、医療関連専門職として共通して修得すべき科目であり、原則として全学科共通の開講科目である。
  - ③専門科目：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する科目であり、各学科単独の開講科目である。

##### 3.1.2 ディプロマ・ポリシー

本学は、保健、医療、福祉の分野において、高い知識と優れた技能、そして科学的・創造的探究心と豊かな人間性を備えた、時代のニーズや地域医療に貢献できる有為な専門職を養成することで、基本理念にある「共に生きる社会」の実現を目指すものである。

そのため、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生へ前もって成績評価基準を明示し、「GPA (Grade Point Average)」を用いた厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得したものに対して、卒業を認定し、学位を授与する。

本学で卒業までに身につけるべき内容は、以下のとおりである。

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を尊び、一人の人間として豊かな心を身につけ、時代のニーズや地域で起こっている事象への関心を深め、社会へ貢献するために専門職として必要な高い専門的能力や技術力、実践力を身につける。
- ②他職種を理解し、職種を超えて問題を探求する姿勢を身につけ、基礎的および専門的な学力を養い、保健、医療、福祉の分野において指導者・研究者となり得る基本的能力を身につける。
- ③国際社会で活躍するにあたって必要な能力を育むため、知識と技能、語学力を身につける。



### 3.1.3 理学療法学科のポリシー

#### カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
- ③理学療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
- ④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

#### ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者と共に感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。
- ③基礎的および専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

### 3.1.4 作業療法学科のポリシー

#### カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
- ④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

#### ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②作業療法士としての専門知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。
- ③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践でき、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

### 3.1.5 視能訓練学科のポリシー

#### カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②眼科医療において必要とされる専門知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ③視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

#### ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②視能訓練士として必要な知識と技術を有し、さらに他職種と連携してチーム医療を推進することができる。目の健康と生活の質の向上に貢献できる。
- ③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができ、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

#### 3.1.6 看護学科のポリシー

##### カリキュラム・ポリシー

- ①看護師・保健師として必要な豊かな人間性とアイデンティティを育成する。
- ②人間の健康に寄与する専門職として、看護の本質を迫及する学習に主体的かつ創造的に取り組む姿勢を育成する。
- ③ヒューマンケアの専門職として必要不可欠なスキルを修得し、保健医療福祉分野におけるチーム医療において協働できる能力を育成する。
- ④物事の本質をみつめ、幅広く学問を探究し、論理的に思考できる能力を育成する。
- ⑤科学的な根拠に基づく判断力と、問題解決ができる基礎的な看護実践能力を育成する。
- ⑥国内外の健康課題を理解し、国際的な視野で問題解決を図る能力を育成する。

#### ディプロマ・ポリシー

- ①人間への深い関心と尊厳をもって看護の対象を理解し、看護実践の場における倫理的な対処ができる。
- ②多様な学問領域に関心を持ち、人間や健康を学際的にとらえることができる。
- ③自ら学問を探究する姿勢や学習課題を明らかにし、課題達成に取り組むことができる。
- ④看護におけるさまざまな事象に対して、論理的かつ批判的に考え行動できる。
- ⑤他者の感情や体験に共感できるような感性を磨き、人間関係を円滑に築くことができる。
- ⑥個人、家族、組織、地域社会における健康課題を査定し、チームの一員として基本的な看護実践ができる知識・技術・態度を持つことができる。
- ⑦国内外における看護の機能と役割を迫及する姿勢を持つことができる。

#### 3.1.7 言語聴覚専攻科のポリシー

##### カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を基に言語聴覚療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
- ②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者のコミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
- ③国際的な視点に立ち、言語聴覚療法を学修できる授業を実施する。

#### ディプロマ・ポリシー

- ①基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②他職種の役割を理解し、対象者や利用者と共に感じながらチーム医療・チームケアが実践でき、コミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる。
- ③言語聴覚療法を実践できるとともに、指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

### 3.2 カリキュラムの内容

カリキュラムは、総合教育科目・専門基礎科目・専門科目に分かれている。総合教育科目は1・2年次に多く履修する。総合教育科目や専門基礎科目の一部は学科共通科目で、学科間の交流もできる。1年次より一部の専門基礎科目を履修する。2年生はより細分化された分野を勉強する。3年生になると実習が多くなり、より実践に近い形で勉強する機会が増える。4年生では実習と卒業研究、国家試験のための模擬試験等を行う。表には系統図を示す。

#### 総合教育科目

- ①人 間 系：心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育評価学、コミュニケーション概論
- ②社 会 系：海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論
- ③自然・情報系：生物学、物理学、統計学、医療とICT、生命倫理、人間工学
- ④保健体育系：健康科学理論、健康スポーツ実践
- ⑤総 合 系：大学入門講座
- ⑥外 国 語 系：医学英語Ⅰ・Ⅱ、英語（基礎・応用）、英会話、韓国語、中国語、日本語（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

カリキュラム、系統図は履修要項を参照

## 4. 大学生活

### 4.1 学生生活

大学には勉強にも勝る大切なものとして大学行事、そして個人的なクラブ又はサークル活動等がある。様々な活動や人との関わりは人格形成大いに役立つと考えられる。友達や先輩、後輩などお互いの考えに耳を傾け、その上で共感したり、議論したりできる関係は、将来、医療専門職としての人生も豊かにする。大学行事には、運動会、大学祭などが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

### 4.2 表彰（学生優秀賞及び受賞など）

年間成績優秀賞は、学業成績が優秀で人品の優れた学生を顕彰し、副賞として奨学金が授与される。2020年度の成績から選出される。学長賞はGPAがトップ、また、優秀な学生には各職業団体の協会賞、教育関連の協会による協会賞などが授与される。

表 4-1 2022 年度年間優秀賞・学長賞・各協会賞

	理学療法学科	作業療法学科	視能訓練学科	看護学科	言語聴覚専攻科
年間優秀賞2年	宇野 日芽子	安達 なづな	香川 友杏	松岡 直	
3年	一ノ宮 翔那	元山 結萌	坂元 亜美	紫村 奈未	
4年	長澤 由香子	上瀧 雅也	稲田 美冴	松尾 沙椰	
学長賞	長澤 由香子	上瀧 雅也	三島愛理	松尾沙耶	徳田 一興
協会賞	柴田 旺祐	梅津 龍大	坂井麗夏		青山 佳織
学校関係*	川淵 優太	亀山 瑞歩	稲田美冴	占部美佳	日野 阿希子

### 4.3 奨学金関係

1.日本学生支援機構奨学生延べ数		(人)			
種別	種別詳細	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
貸与	第一種（無利子）	38	68	211	278
	第二種（有利子）	57	95	275	316
貸与合計		95	163	486	594
給付（返済不要）	I 区分	0	26	71	103
	I 区分	0	18	56	69
	I 区分	0	10	20	23
給付合計		0	54	147	195
総合計		95	217	633	789
※併用貸与等の学生がいますので、のべ数で算出しています。					
		(人)			
2.日本学生支援機構奨学生実数		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		80	151	433	527

#### 4.4 クラブ及びサークル

クラブは大学で承認された公式の認可団体で、部室及び援助金が提供される。サークルは個人的な団体（届出のみで活動可能）である。新型コロナウイルス感染症の影響により活動が縮小された。

2022年度学生団体 更新団体一覧				
【部】				
	設立日	前年度 所属	団体名	活動内容
1	2016/5/24	NS	ボランティア部	ボランティア
2	2018/4/10	NS	救急医療部	救急
【サークル】				
	設立日	前年度 所属	団体名	活動内容
3	2019/10/8	NS	スポーツサークル liquid	スポーツ
4	2020/1/27	NS	折り紙サークル	折り紙・装飾
5	2019年	RH	フットサルサークル	
6	2019年	RH	バレーボールサークル	
7	2019年	RH	バスケットサークル	
8	2019年	RH	バドミントンサークル	
9	2019年	RH	S-Laboサークル	
10	2019年	RH	野球サークル	野球
11	2020/11/28	RH	箏曲サークル	箏曲演奏、コンクール等
12	2020/9/30	RH	Health&Sport(H&S)	メジャースポーツ全般
13	2020/11/13	RH	バーベルサークル	
14	2013/6/4	NS	軽音サークル	軽音楽
15	2021/10/26	RH	P.E.サークル	スポーツ
16	2021/11/1	NS	ダンスサークル Moondust	ダンス
17	2021/11/24	RH	We're fine!!	スポーツ
18	2021/12/3	RH	バレーボールサークル愛好会	バレーボール

#### 4.5 国家試験状況・就職状況

2023年2月に受験した国家試験の合格率を表4-2、2022年度の就職率を表4-3に示す。

表4-2 国家試験状況 2022受験

	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
看護師	116	115	99.1	90.8
保健師	18	18	100	93.7
理学療法士	39	39	100	87.4
作業療法士	38	35	92.1	83.8
視能訓練士	35	34	97.1	89.3
言語聴覚士	28	26	92.9	67.4

表4-3 就職状況

2022年度					2023.5.1現在
	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率 (%)	進学者数
看護学科	116	112	112	100	3 (1)
理学療法学科	39	39	39	100	3 (3)
作業療法学科	38	35	35	100	0
視能訓練学科	35	30	30	100	4 (4)
言語聴覚専攻科	28	25	23	92.0	0
		国家試験合格者限定			( ) は大学院進学：就職と重複

## 5. 委員会及び研究

### 5.1 委員会組織と委員

2022年度の委員会組織と委員を表5-1に示す。なお、各委員会等の業務などは自己点検・評価報告書に記載している。

表5-1 委員会組織と名簿

委員会名	審議・協議事項(規定)	組織構成(規定)	委員長・室長	副委員長 副室長	副学長 学部長	PT	OT	ORT	NS	ST	事務系ほか	列席等	事務担当
1	管理運営委員会 (目的) 本学の管理運営に関する重要事項を審議し、理事会との連絡調整を図る。 (審議事項) ※学期 ①学期その他の重要な規則の制定、改定 ②学部・学科の重要な組織の設置及び廃止 ③本学の重要な施設の設置及び廃止	①学長 ②副学長 ③学部長 ④事務局長 ⑤学長が指名した副学部長 ⑥学部長 ⑦理事長が指名した常任理事及び理事 ⑧学長が必要と認めた職員(任意)	①学長 <学長>	丸山副学長 <- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	⑥北島学部長	⑥吉富学部長 ⑧松澤副学部長	⑥高野学部長	⑥平島専攻科 学部長	⑦花岡副理事長 ⑦高木常務理事 ⑦渡邊常務理事 ④事務局長 ⑧事務部長	全課長	総務課
2	学部長・学科学長会議 (目的) 各学科間の連絡調整を図り、本学の教育について円滑な運営を図る。 (審議事項) 規定なし	①学長 ②副学長 ③学部長、副学部長 ④学部長、副学部長 ⑤学長が指名した者	①学長 <学長>	丸山副学長 <- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	④北島学部長	④吉富学部長 ④松澤副学部長	④高野学部長	④平島専攻科 学部長	⑤事務部長	全課長	総務課
3	教育研究戦略会議 ①教育研究に係る将来構想及び中長期計画の策定 ②教育研究に係るマネジメント体制の構築 ③教育研究に係る組織の設置及び再編 ④教育研究に係る学費の確保及び増進	①学長 ②副学長 ③学部長、副学部長 ④学部長、副学部長 ⑤専攻科長 ⑥教育委員長 ⑦事務局長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①学長 <学長>	丸山副学長 <- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	④北島学部長	④吉富学部長 ④松澤副学部長	④高野学部長	⑤平島専攻科 学部長	⑦事務局長 ⑧事務部長	関係課長	総務課
4	自己点検・評価委員会 ①自己点検・評価の基本方針及び自己点検・評価項目の策定 ②自己点検・評価の組織及び体制の整備 ③自己点検・評価の実施 ④各学部・学科等の自己点検・評価の総括及び検証 ⑤自己点検・評価報告書の作成及び総括評価に係る	①学長 ②副学長 ③学部長、副学部長 ④学部長、副学部長 ⑤専攻科長 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者 ⑨学外の有識者若干名(任意)	①学長 <学長指名>	丸山副学長 <学長指名>	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	④北島学部長	④吉富学部長 ④松澤副学部長	④高野学部長	⑤平島専攻科 学部長	⑥渡邊常務理事 ⑦事務部長	関係課長	総務課
4 1	自己点検・評価委員会 認証評価対策チーム ①自己点検・評価の実施方針の策定及び実施 ②自己点検・評価に必要な資料・データの収集及び分析 ③自己点検評価書及びエビデンス集の作成 ④実地調査への対応	①学長 ②学長が指名する専任教員 ③事務部長 ④その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <副学長>	②北島学部長 <主査指名>	①丸山副学長	②山之内講師 (1R推進室長) ②池田講師	②北島学部長 ②中園講師	②根本准教授 ②湖井川助教	②川口教授 (学生委員会委員長) ②宇治田助教	②池下助教	③事務部長	総務課長 田原主任	総務課
5	大学質保証推進委員会 ①内部質保証の方針及び手続の策定 ②内部質保証のための体制整備 ③内部質保証システムの機能向上 ④その他内部質保証の推進	①学長 ②副学長 ③学部長、副学部長 ④学部長、副学部長 ⑤専攻科長 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①学長 <学長>	丸山副学長 <- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	④北島学部長	④吉富学部長 ④松澤副学部長	④高野学部長	⑤平島専攻科 学部長	⑥事務局長 ⑦事務部長	総務課長	総務課
6	人事委員会 (任務) 理事長の諮問に応じ、 1) 本学の教育職員(教授、准教授、講師(非常勤講師を除く)、助教及び助手)に関する以下の審査 ①任用、昇任及び解任 ②表彰及び懲戒 ③教育研究活動報告書 ④「教育職員の任期に関する規程」及び「契約教員規程」に定める契約の更新	①学長 ②学長の指名する副学長、学部長、副学部長等 ③理事長の指名する学識経験者及び理事 ④事務局長 ⑤事務部長 ⑥人事部長 ⑦その他学長が必要と認める者	①学長 <学長>	<- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	-	-	-	-	-	③渡邊常務理事 ④事務局長 ⑤事務部長	総務課長	総務課
7	FD・SD推進委員会 ①FD・SD活動の企画・立案 ②FD・SD活動の実施 ③FD・SD活動の点検・評価 ④FD・SD活動の情報収集・蓄積と提供 ⑤その他FD・SD活動の推進	①学長が指名する専任教員 ②理事長が推薦する者 ③教授、学務課長 ④その他学長が必要と認めた者	①吉富学部長 <学長指名>	松田准教授 <学長指名>	-	①小坂教授	①松田准教授	①吉富学部長	①高木講師 ①生駒助教	①吉永助教	③総務課長 ③学務課長	-	学務課 (総務課)
8	ハラスメント防止委員会 (目的) 本学における学生及び教職員に対するセクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント並びにパワー・ハラスメントを防止する。 (審議事項) ①本学におけるハラスメントを防止するために必要な事項を立案し学長に答申 ②本学におけるハラスメントの防止	学長が指名する専任の教員及び職員 (10名以内) 松澤副学部長 <学長指名> 張永准教授 <学長指名>	-	-	校学部長	北島学部長	吉富学部長 松澤副学部長	張永准教授	平島専攻科 学部長	総務課長	-	総務課	
9	危機管理委員会 ①危機情報の収集・分析 ②危機管理体制の整備 ③危機管理マニュアル等の整備 ④職員、学生及び関係者への教育・訓練 ⑤危機管理対策の評価及び見直し ⑥その他危機管理に関し必要な事項	①学長 ②副学長 ③学部長、副学部長 ④学部長、副学部長 ⑤専攻科長 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者 ・総務課長 ・管理課長 ・入試・広報課長 ・学務課長	①学長 <学長>	丸山副学長 <- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	④北島学部長	④吉富学部長 ④松澤副学部長	④高野学部長	⑤平島専攻科 学部長	⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧全課長	関係事務職員	総務課
9 1	危機管理委員会 防災対策部会 ①防災対策に関すること ②防災設備の点検及び充実にすること ③防災教育及び訓練に関すること ④防災に関する連絡調整に関すること	①学長が指名する専任教員 ②管理課長 ③その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <学長指名>	大池学部長 <学長指名>	①丸山副学長 ①大池学部長	①藤田講師	①佐野講師	①財津教授	①辻講師 ①木村講師	①吉永助教	②管理課長	-	管理課
9 1 2	危機対策本部 新型コロナウイルス感染症対策チーム会議 (審議事項) ①学生、教職員の罹患状況及び健康状況の把握 ②講義、実習(学内外)等における感染予防や拡大防止対策についての検討 ③感染予防、拡大防止対策の周知 ④罹患発生時の対応及び対応策の検討 ⑤休講、閉鎖、閉館等の検討及び決定 ⑥発生時、経過時、終息時の学生、教職員への対応指示と周知 ⑦教職員の健康被害を防止するための基本となるべき対策 ⑧教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策 ⑨労働災害の原因及び再発防止対策で、密に係るもの ⑩その他教職員の健康障害の防止及び	①学長 ②副学長 ③学部長 ④学生委員会委員長 ⑤学部長 ⑥専攻科長 ⑦事務局長 ⑧事務部長 ⑨その他学長が必要と認める者	①学長 <学長>	北島学部長 <- - >	②丸山副学長 ③大池学部長	④校学部長	⑤北島学部長 ⑤多賀准教授	⑤吉富学部長	④川口教授 ⑤高野学部長	⑥平島専攻科 学部長	⑦事務局長 ⑧事務部長 ⑧関係課長	-	総務課
10	衛生委員会 ①経営管理者(副学長) ②衛生管理者(総務課長) ③産業医 ④教職員のうち衛生に関し経験を有する者から理事長が指名した者 ⑤その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <総括管理者> 大池学部長 <学長指名> ①丸山副学長 ②大池学部長 ③田川教授 ⑤藤田講師	⑤佐野講師	⑤財津教授	①辻講師 ①木村講師	①吉永助教	②総務課長	-	総務課				





推進室等														
1	IR推進室	(業務) ①本学の運営の基礎となる情報の収集・整理・分析及び管理 ②情報の分析に基づく経営判断及び意思決定等の支援に関する事項 ③その他	①学長が指名する専任教員 ②助教 ③IR推進担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①編纂教授 <学長指名>	①山之口講師 (PI) <学長指名>	①丸山副学長	①山之口講師 ①池田講師	①北島学科長 ①中園講師	①橋本准教授 ①瀬井川助教	①福原教授 ①山口准教授	①池下助教	④事務部長 ②総務課長 ③田原主任	-	総務課
2	広報室	(業務) ①広報戦略の基本方針案の策定 ②広報活動の企画・実施 ③機関誌等発行のための情報収集及び編集活動 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②入試・広報課長 ③広報担当職員 ④外部有識者 ⑤その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <学長指名>	①西塚講師 <学長指名>	①丸山副学長	①吉塚講師	①木村助教	①瀬井川助教 ①本居助手	①甲斐講師 ①吉村助教	①池下助教	⑤事務部長 ②入試・広報課長 ④中主任 ③福澤職員	-	入試・広報課
3	地域連携推進室	(業務) ①地域連携の推進に関する基本方針案の策定及び実施 ②地域貢献に係る調査・研究 ③生涯学習に関する事業の企画・実施 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②総務課長 ③地域連携推進担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①平島専攻科長 (ST) <学長指名>	①仙波准教授 <学長指名>	-	①光武講師 ①池田講師	①佐野講師 ①松田大輝助教	①堀川教授 ①本居助手	①仙波准教授 ①森山准教授	①平島専攻科長	②教授課長 ③森井主任 ⑤森井主任	-	総務課
4	学生相談室	(業務) ①学生相談に関する基本方針案の策定 ②学生相談の実施及び調整 ③関係機関との連携及び協力 ④その他	①学生委員会委員長 ②学長が指名する専任教員 ③臨床心理士 ④学務課長 ⑤学生相談担当職員 ⑥その他学長が必要と認めた者	②小牧教授 (OT) <学長指名>	①川口教授 <学長指名>	-	②吉村講師	②小牧教授 ②松田准教授	②佐々木講師	①川口教授 ②彌永准教授	②吉永助教	③臨床心理士 ④学務課長 ⑤遠藤職員	-	学務課
5	ボランティア推進室	(業務) ①ボランティア活動振興の基本方針案の策定 ②ボランティアに関する情報の収集及び提供 ③提供活動上の連携調整 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③ボランティア担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①平島専攻科長 (ST) <学長指名>	<学長指名>	-	①小坂教授 ①谷口助教	①佐野講師 ①松田大輝助教	①王助教	①仙波准教授	①平島専攻科長	②学務課長 ③田光職員	-	学務課
6	キャリア支援室	(業務) ①キャリア教育及び就職支援の基本方針案の策定 ②就職に関する情報の収集及び提供 ③就職支援の実施 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③キャリア支援担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①橋本准教授 (NS) <学長指名>	①吉永助教 <学長指名>	-	①谷口助教	①吉田助教	①田村講師	①橋本准教授 ①生駒助教	①吉永助教	②学務課長 ③松浦副主任 ⑤遠藤職員	-	学務課
7	国際交流室	(業務) ①国際交流の推進に関する基本方針案の策定 ②学芸交流・留学生支援の実施 ③海外研修プログラムの企画・実施 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③国際交流担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①菅原教授 (OT) <学長指名>	①田川教授 <学長指名>	-	①田川教授 ①池田講師	①菅原教授 ①多賀准教授	①堀川教授 ①佐々木講師	①森山准教授	①豊嶋助教	②学務課長 ③松浦副主任 ⑤遠藤職員	-	学務課国際室

## 5.2 Good Teaching 賞、FD・SD 研修、研究費受給

Good teaching 賞を表 5-2、FD/SD 研修 (外部の研修含む) を表 5-3、研究費受給を表 5-4、受託研究費等の人数を表 5-5、学内研究助成を表 5-6 に示す。

表 5-2 2022 年度 Good Teaching 賞受賞者

	Good Teaching賞		
	最優秀賞	優秀賞	優秀賞
2022年度	中園 寿人	田村 省悟	川口 賀津子

## 5.3 FD・SD

FD・SD 等の講習会セミナーは FD・SD 推進委員会主催が 4 回、他委員会との共同開催が 6 回、その他協定校との研修会などが 7 回、団体及び業者による e-learning による講習会が 16 回実施した (表 5-3)。

表 5-3 FD・SD等の講習会セミナー

FD研修会一覧（主催FD委員会及び合同主催）			
日時	タイトル	講師	主担当
FIUHW FDS委員会主催			
2022年7月25日	現代の大学生の特性理解を活かした教育	鶴田利郎	FD委員会
2022年10月27日	効果的な教育設計・実施・評価	堀本ゆかり	FD委員会
2022年12月19日	授業改善のためのグループワーク	委員会	FD委員会
2023年3月20日	good teaching賞	発表会	FD委員会
FIUHW委員会との合同FD研修会			
2022年4月21日	研究倫理講習	小牧 元 (FIUHW-OT)	研究・産学推進室
2022年5月12日	コンプライアンス研修	飛松省三 (FIUHW=ORT)	研究・産学推進室
2022年6月23日	公的研究説明会	事務スタッフ	研究・産学推進室
2022年8月4日	メンタルヘルス講習会	田川辰也、小牧元、白石	衛生委員会
2022年8月18日	科研費申請講習会	堀川悦夫、中園	研究産学連携推進委員会
2022年8月18日	福岡国際医療福祉大学セミナー	各学科	
FIUHW 私学助成の勉強会			
2022年12月	私学助成の概要	前谷局長	
2023年1月19日	本学の私学助成の実績分析	中村事務部長	
IUHW大学院教育管理分野合同FD研修会 医学教育セミナー			
2022年5月12日	医療福祉分野における調査研究法の基礎（1）	大塚雄作 (IUHW)	大学院教育管理
2022年5月19日	医療福祉分野における調査研究法の基礎（2）	大塚雄作 (IUHW)	大学院教育管理
2022年5月26日	医療福祉分野における調査研究法の基礎（3）	大塚雄作 (IUHW)	大学院教育管理
2022年6月2日	医療福祉分野における調査研究法の基礎（4）	大塚雄作 (IUHW)	大学院教育管理
2022年6月9日	医療福祉分野における調査研究法の基礎（5）	大塚雄作 (IUHW)	大学院教育管理
外部遠隔FDセミナー			
2022年4月28日	教学マネジメントとFDS、教学IRの実質化	中井俊樹（愛媛大学）	愛媛大学
2022年5月17日	IRと人材機能強化	森雅生（東京工業大学）	Bi z UP
2022/5/11～6/30	大学評価セミナー		日本高等教育評価機構
2022年4月22日	改正公益通報者保護法に関する説明会		文部科学省
2022年5月18日	東北大学高等教育フォーラム 大学入試政策		東北大学
2022年5月31日	コロナ禍3年目、今考えるべき学生募集広報戦略	櫻田 勝久（教育企画セ	Educe
2022年6月23日	研究支援体制強化セミナー2022】研究支援の最新トレ	中安 豪(ロバストジャバ	Educe
2022年7月28日	学修成果の可視化	豊嶋信一（東京工科大学	Between
2022年8月23日	FD-SDの成果	山本堅一（北海道大学）	アルクエデュケーション
2022年8月19日	文部科学省高等教育DXシンポジウム		スキームD
2022年8月29日	大学図書館早稲田エビデンス		早稲田大学図書館
2022年8月8日	PubMed1		株式会社サンメディア
2022年8月9日	PubMed2		株式会社サンメディア
2022年8月10日	PubMed3		株式会社サンメディア
2022年9月22日	大学設置基準等の改正に関する説明会		日本私立大学協会
2022年11月1日	大学・短期大学機関別認証評価自己評価担当者説明会		日本高等教育評価機構
2023年1月20日	質保証システムと大学設置基準改正の方向性	杉谷、前田	日本私立大学協会

#### 5.4 外部研究費、学内研究費

文部科学省の科学研究費の取得状況および学内研究費の取得状況を表5-4に示す。

表5-4 文部科学省科学研究費 受給者一覧

	氏名	所属	職名	課題番号	種類	基金助成金/ 補助金	代表者/ 分担者	研究期間	研究テーマ
1	光武 翼	PT	講師	20H04059	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和2年度～5年度	ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的な研究
2	佐野伸之	OT	講師	20K19301	若手研究	基金	代表者	令和2年度～5年度	達成動機の本質に基づく客観的評価法の開発と介入プログラムの作成
3	橋本勇希	ORT	准教授	20K19698	若手研究	基金	代表者	令和2年度～4年度	脈絡膜循環動態と形態を用いた新たな他覚的ストレス評価法の開発
4	藤田大輔	PT	講師	20K19358	若手研究	基金	代表者	令和2年度～4年度	慢性心不全患者における労作時呼吸困難に関連する新しい因子の同定
5	飛松省三	ORT	教授	20K12573	基盤研究(C)	基金	代表者	令和2年度～4年度	視覚はよみがえるのか？弱視と視覚系神経ネットワークの可塑性
6	白石 裕子	NS	教授	21H03238	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和3年度～令和6年度	精神科訪問看護師を対象としたストレングス活用尺度とプログラムの開発
7	大池 美也子	NS	教授	21K10556	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	看護教員が教育経験を省察しながら育つ「教えることを学ぶ」プログラムの開発と検証
8	川口 賀津子	NS	准教授	21K10831	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	プラチナナースの就労継続を可能にする働き方モデルの開発
9	松藤 佳名子	ORT	准教授	21K11281	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	キメラ視覚画像刺激を用いた半側空間無視におけるプリズム順応効果の検証
10	吉塚 久記	PT	講師	21K17541	若手研究	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	長官府の機能解剖工に最適な運動課題の開発：機能解剖学的知見を基盤とした筋電図解析
11	萩原 鋼一	NS	准教授	21K09001	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和6年度	前庭覚による鳥葉賦活-新たな疼痛緩和戦略
12	中園 寿人	OT	講師	21K11174	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和6年度	脳状態依存刺激を活用した手指分離運動の神経基盤解明とリハビリへの応用
13	梅本 直子	NS	准教授	21K11125	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和5年度	入浴ケア時の感染対策のあり方の検討-感染防護具装着時の援助者の生理的反応から
14	高木 良重	NS	講師	20K10577	基盤研究(C)	基金	分担者	令和2年度～令和4年度	地域包括ケアシステムにおける尿失禁看護の検討とクリティカルパスの開発
15	徳永 智恵美	NS	非常勤講師	20K10824	基盤研究(C)	基金	分担者	令和2年度～令和4年度	がん放射線療法に関わる認定看護師の普及を目指した看護実践課題と支援モデルの検討
16	楠葉 洋子	NS	教授	20K11080	基盤研究(C)	基金	分担者	令和2年度～令和4年度	透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発
17	梅本 直子	NS	准教授	20K11080	基盤研究(C)	基金	分担者	令和2年度～令和4年度	透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発
18	石橋 曜子	NS	講師	20K10777	基盤研究(C)	基金	代表者	令和2年度～令和5年度	喉頭全摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発
19	池田 拓郎	PT	講師	19K20156	若手研究	基金	代表者	平成31年度～令和4年度	加齢による立体運動視の脳内神経ネットワークの変化と転倒との因果関係の検討
20	吉塚 久記	PT	講師	21K11263	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和5年度	感圧測定システムによる踵腓靭帯の機能解析～靭帯損傷のテーラーメイド予防を目指して
21	宇治田 さお	NS	助教	21K02349	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和6年度	XR(仮想空間技術)を活用した虐待予防教育プログラムの開発
22	石橋 曜子	NS	講師	17K12277	基盤研究(C)	基金	分担者	平成29年度～令和3年度	頭頸部がんで化学放射線療法を受ける患者の栄養状態改善のための介入プログラムの開発
23	白石裕子	NS	教授	21K10678	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和5年度	精神看護学実習を補完可能にする教材開発と大学間で共有利用するシステムの検討
24	石橋 曜子	NS	講師	19H03937	基盤研究(B)	基金	分担者	令和元年度～令和4年度	喉頭全摘出者のQOL向上へつなげる看護体制：RCTによる縦断的介入
25	堀川 悦夫	ORT	教授	22H03447	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和4年度～令和6年度	日常的運動行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明
26	中園寿人	OT	講師	22H03460	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和4年度～令和7年度	運動野に可塑性を誘導する新規非侵襲的脳刺激法の開発：その神経基盤と臨床応用
27	黒木 司	NS	准教授	22K10834	基盤研究(C)	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	精神科訪問看護師のストレングスアセスメントと視線との関連性
28	北島 栄二	OT	教授	22K12953	基盤研究(C)	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	要介護高齢者のシルバーカー及び歩行車使用時における歩行時体幹運動の比較検証
29	佐々木 信	ORT	講師	22K13673	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	眼の感受性期を考慮した新眼鏡による弱視治療法の開発：視覚誘発電位による検証
30	田村 省悟	ORT	講師	22K17381	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和5年度	小児視覚スクリーニングのゴールドスタンダード確立：いつ実施すべきか？

31	山之口 稔隆	PT	講師	22K17406	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和7年度	慢性腎臓病（CKD）重症度分類と潜在性動脈硬化との関連を解明する疫学的検討
32	松田 大輝	OT	助教	22K17609	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	没入型VRを用いた新しい運動イメージトレーニングプログラムの効果に関する検証
33	谷口 隆憲	PT	助教	22K17626	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	運動恐怖を有する変形性膝関節症者の運動学的評価と電気刺激を併用した運動療法の開発
34	高野 政子	NS	教授	21K07866	基盤研究（C）	基金	分担者	令和3年度～令和6年度	小児AYA世代のがん経験者や家族の知的・身体的レジリエンスを評価・支援する研究
35	江本 勲	NS	教授	20K09649	基盤研究（C）	基金	代表者	令和2年度～令和6年度	子宮癌肉腫幹細胞の血管新生制御を目的とした新たなドラッグデリバリーシステムの構築
36	萩原 綱一	NS	准教授	21K11271	基盤研究（C）	基金	分担者	令和3年度～令和5年度	空間注意を伴う運動により増大する脳活動領域：頭蓋内電極を用いた検討
37	石橋 曜子	NS	講師	22K10769	基盤研究（C）	基金	分担者	令和4年度～令和7年度	発達障害傾向看護学生とのコミュニケーション力育成プログラムの試行
38	石橋 曜子	NS	講師	22H03379	基盤研究（B）	補助金	分担者	令和4年度～令和7年度	エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応能力教育パッケージ開発
39	石井 敦士	OT	教授	19K17381	若手研究	基金	代表者	令和元年度～令和4年度	遺伝学的アプローチによりドラベ症候群の分子ネットワークを明らかにする

表 5-5 受託研究費、共同研究、奨学寄附金、助成など

厚労科研費								
	氏名	所属	職名	課題番号	種類	代表者/ 分担者	研究期間	研究テーマ
1	光武 翼	PT	講師	22FA1003	厚労科研費	分担者	2022年度～2024年度	エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究
受託研究								
	氏名	所属	職名	事業名	契約相手先	代表者/ 分担者	研究期間	研究テーマ
1	平島ユイ子	ST	教授	AMED「障害者対策総合研究開発事業（その他）」	九州大学	分担者	令和4年4月1日～令和5年3月31日	聴覚障害者の社会参加を促進するための手法に関する研究
共同研究								
	氏名	所属	職名	事業名		研究期間	研究テーマ	
1	堀川 悦夫	ORT	教授	契約相手方：日立ケーイーシステムズ		2022年3月24日～2023年5月31日	高齢者用運転シミュレータの機能向上	
助成金								
	氏名	所属	職名	助成金名	助成団体	研究期間	研究テーマ	
1	池下 博紀	ST	助教	2022年度 若手・女性研究者奨励金	私学事業団	2022年度	アルツハイマー型認知症患者の潜在記憶プライミング効果からの検討	
2	高木 良重	NS	講師	2023年度研究助成	日本がん看護学会	2023年2月1日～2023年12月31日	乳がん患者の自壊創の形態的特徴の分析	

表 5-6 学内研究助成

1	1 一般研究 A 一般	1 医療学部 理学 療法学科	3 講師	光武翼	ノイズ前庭電気刺激が身体制御反応に及ぼす影響
2	1 一般研究 A 一般	1 医療学部 理学 療法学科	3 講師	池田拓郎	ギブス不活動後の姿勢安定性に関する体性感覚系の多角的研究
3	1 一般研究 A 一般	1 医療学部 理学 療法学科	3 講師	吉村美香	通所リハビリテーション利用者におけるフレイルの状態と転倒リスクとの関連
4	1 一般研究 A 一般	1 医療学部 理学 療法学科	4 助教	谷口隆憲	変形性膝関節症患者の疼痛関連因子と下肢関節運動の関連性
5	1 一般研究 A 一般	2 医療学部 作業 療法学科	4 助教	木村まり子	Weighted Blanketの重量がASD児の行動に与える影響
6	1 一般研究 A 一般	4 看護学部 看護 学科	1 教授	川口賀津子	医療系大学における聴覚障害学生の学修支援と支援体制構築の試みに関する研究
7	1 一般研究 A 一般	4 看護学部 看護 学科	3 講師	高木良重	間接的サポート法によるポジショニングにおけるクッションの種類別の体圧分布
8	1 一般研究 A 一般	4 看護学部 看護 学科	3 講師	横尾誠一	地域サービスの評価に関する文献検討-高齢者版地域サービス満足度尺度作成に向けて-
9	1 一般研究 A 一般	3 医療学部 視能 訓練学科	2 准教授	橋本勇希	VDT作業における眼精疲労と眼血流および僧帽筋弾性率の関連
10	1 一般研究 A 一般	3 医療学部 視能 訓練学科	3 講師	佐々木信	回折格子(レンチキュラーレンズ)を用いた自然視に近い立体視検査表の開発
11	1 一般研究 A 一般	5 言語聴覚専攻 科	1 教授	平島ユイ子	難聴幼児は、絵本の読み聞かせ時にどこを見ているのか？
12	1 一般研究 A 一般	5 言語聴覚専攻 科	4 助教	豊嶋明子	発達性言語障害児における統語機能獲得過程の検討
13	2 一般研究 B 奨励	1 医療学部 理学 療法学科	3 講師	藤田大輔	心拍変動フィードバックを用いた効率的な運動回復方法の開発□
14	2 一般研究 B 奨励	2 医療学部 作業 療法学科	4 助教	平賀勇貴	高位脛骨骨切り術後患者における新たなリハビリテーションの効果検証
15	2 一般研究 B 奨励	3 医療学部 視能 訓練学科	4 助教	潮井川修一	eスポーツプレイにおける眼疲労の評価 ~自覚的評価と他覚的評価の関連について~
16	2 一般研究 B 奨励	3 医療学部 視能 訓練学科	5 助手	本居快	単眼視と両眼視の機能差検討 —両眼間抑制と両眼加算の関係性について—
17	2 一般研究 B 奨励	4 看護学部 看護 学科	4 助教	池添貴子	介護老人保健施設における要介護高齢者の皮膚状態に関する実態調査□
18	2 一般研究 B 奨励	4 看護学部 看護 学科	4 助教	吉村千草	職業継続支援に向けた女性看護師のトランジションを捉えたキャリアに関する研究
19	2 一般研究 B 奨励	5 言語聴覚専攻 科	4 助教	池下博紀	時間推移およびクラスターに注目した言語流暢性課題の質的分析
20	2 一般研究 B 奨励	5 言語聴覚専攻 科	4 助教	吉永明史	面振動刺激の嚙下運動誘発に対する有効性について

## 6. 国際関係

### 6.1 留学生・研修生（2022年度）

#### 1) 留学生

学部	学科	学年	国籍	性別
医療学部	作業療法学科	2年	中国	男性
看護学部	看護学科	2年	韓国	女性
		3年	中国	女性
言語聴覚専攻科		2年	中国	女性

#### 2) 研修生受入 無

### 6.2 国際学術活動

#### 1) 講演：学術大会、研修会など

### 6.3 他の国際活動

#### 1) CRRC との協定

### 6.4 海外保健福祉事情

COVID-19 の関係で遠隔による、海外保健福祉事情の講義、交流を行った。

#### 医療学部

##### 1. 代替講義と参加学生数

###### ①医療職として海外活動を行った日本人の報告（オンライン）

- ・理学療法士としてオーストラリアにおける実践の講義
- ・JICA ボランティアとして中国における2年間の作業療法実践の講義
- ・JICA ボランティアとしてベトナムにおける2年間の作業療法実践の講義

講義	オーストラリア	中国	ベトナム
参加人数	88人	24人	16人

###### ②国際医療福祉大学成田キャンパスにおける外国人教員による講義（DVD）

- ・ベトナムの保健医療システム
- ・中国人民共和国の保健医療システム
- ・モンゴルの保健医療システム
- ・インドネシアの保健医療システム
- ・ミャンマーの保健医療システム
- ・エジプトの保健医療システム

講義	ベトナム	中国	モンゴル	インドネシア	ミャンマー	エジプト
参加学生	10人	53人	5人	23人	1人	33人

### ③研修国からの講義

- ・大韓民国：ウルチ大学・インジェ大学からオンライン講義
- ・台湾：
- ・中国人民共和国：オンライン講義
- ・シンガポール共和国：SIT と NYP からオンライン講義
- ・ベトナム社会主義共和国：ハノイ大学動画
- ・オーストラリア連邦：グリフィスの学校の動画

講義国	ウルチ大学	インジェ大学	中国	シンガポール	ベトナム	グリフィス
人数	10人	24人	17人	43人	7人	2人

## 2 まとめ

上記の3つの課題に対し、講義を選択しレポートを提出した。

オーストラリア TAFE ゴールドコースト (2023年2月22日～3月5日) 参加者1名

シンガポール ナンヤンポリテクニク (2023年2月28日～3月6日) 参加者4名

## 看護学部

課題 (学生が提出する課題) 学生数 103名

1. グループ課題：日本について英語でプレゼンテーション 19グループ提出
2. 個人課題
  - 1) 講義(録画、オンラインLIVE)受講および映画視聴レスポンスシート (学生数が受講しレスポンスシートを記載した学生数)
 

IUHW プログラム 受講者

    - 2つ受講者：5名 (規定の3つ以上をクリアしていない)
    - 3つ受講者：73名    ●4つ受講者：17名    ●5つ受講者：4名    ●6つ受講者：1名
    - 7つ受講者：1名    ●9つ受講者：1名
  - 2) 外国人インタビューのまとめ(学び)：102名提出、1名未提出
  - 3) 食文化「食べた食事の写真と感想」：103名全員提出
  - 4) レポート「日本と●●国の健康課題と保健医療福祉制度の違い」：103名全員提出

## 7. 地域貢献

### 7.1 地域公開講座

地域社会のために、公開講座及公開教室を開催している（表 7-1）。

表 7-1 2022 年度地域公開講座等

内容	講師	対象	日時
1) 公開講座			
①加齢と資格・運転		地域	2022年6月25日
運転断念？その前にできることは	堀川悦夫		
加齢による資格の病気・緑内障	吉富健志		
②認知症と難聴		地域	2022年9月3日
認知症の症状と言語聴覚士のかかわり	池下博紀		
加齢性難聴と認知症	平島ユイ子		
③加齢と健康		地域	2022年11月26日
超高齢社会と健康問題	森山ますみ、伊東香織		
フレイル予防・リフレッシュ体操	梅本直子、池添貴子、山口みどり		
高齢者の健康	横尾誠一		
2) ST専攻科主催 地域公開教室			
1. 嚥下障害の予防と訓練	吉永明史	地域	2022年8月20日
2. 認知症と難聴	池下博紀、平島ユイ子	地域	2022年9月3日
3. 言語発達障害児に対する言語・コミュニケーション	平島ユイ子	地域	2022年11月5日
4. 難聴児に対する言語・コミュニケーション指導	平島ユイ子	地域	2023年1月7日
5. 吃音をもつ子供たちへの支援	豊嶋明子	地域	2023年2月4日

### 7.2 ボランティア

2022年6月ラブアースクリーンアップに100名以上参加をはじめ、ボランティア活動が再開した。



## 8. 教員と業績 (業績は2022年1月1日より2022年12月31日まで)

表8-1 学科長等と学年担任

学科長・担任・アドバイザー/一覧

学科	学科長	1年生担任	2年生担任	3年生担任	4年生担任
理学療法学科	学科長 柗 幸伸	池田拓郎 谷口隆憲	藤田大輔 光武 翼	吉村美香 谷口隆憲	光武 翼 吉塚久紀
作業療法学科	学科長 北島栄二	中菌寿人 松田大輝	佐野伸之 平賀勇貴	松田隆治 木村まり子 吉田亮平	多賀 誠 木村まり子 吉田亮平
視能訓練学科	学科長 吉富健志	本居 快	田村省悟	松藤佳名子	潮井川修一
看護学科	学部長 大池美也子 学科長 高野政子	学科全教員がアドバイザーを担当			
言語聴覚専攻科	専攻科長 平島ユイ子	豊嶋明子	平島ユイ子		

### 8.1 学長・副学長

#### 8.1 学長・副学長

##### 1) 原 英夫 学長、教授

学歴：九州大学医学部卒業

博士 九州大学 医学博士

職歴：九州大学医学部附属病院神経内科

国立精神・神経研究所室長、国立長寿医療センター研究所室長

佐賀大学医学部内科学講座教授、医学部長、名誉教授

福岡国際医療福祉大学学長

資格：医師

研究内容：アルツハイマー病の病態修飾薬の開発、アミロイド血管症モデルの開発

研究業績：

原著：

- Detection of human T lymphotropic virus type I (HTLV-I) proviral DNA and analysis of T cell receptor V $\beta$  CDR3 sequences in spinal cord lesions of HTLV-I-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. J. Exp. Med. 180: 831-839 IF 11.743 1994 Hara H, Morita M, Iwaki T, Hatae T, Itoyama Y, 他4名
- Development of a safe oral A $\beta$  vaccine using recombinant adeno-associated virus vector for Alzheimer's disease. J. Alz. disea. 6:483-488 IF 3.909 2004 Hara H, Monsonogo A, Yuasa K, Adachi K, Takeda S, 他4名
- Oral vaccination with a viral vector containing A $\beta$  cDNA attenuates age-related A $\beta$  accumulation and memory deficits without causing inflammation in a mouse Alzheimer model. 2007 FASEB J. 21:2135-2148 IF 5.191 2007 Mouri A, Noda Y, Hara H, Mizoguchi H, Tabira T. 他1名
- The therapeutic effects of the herbal medicine, Juzen-taiho-to, on A $\beta$  burden in a mouse model of Alzheimer's disease. J. Alz. disea. 20: 427-439. IF 3.909 2010 Hara H, Kataoka S, Anan M, Ueda A, Mutoh T, Tabira T.

- Identification of astrocyte-derived immune suppressor factor that induces apoptosis of autoreactive T cells. J. Neuroimmunol. 233;135-146 IF 3.125 2011 Hara H, Nanri Y, Tabata E, Mitsutake S, Tabira T.
- Mucosal immunotherapy in an Alzheimer mouse model by recombinant Sendai virus vector carrying Abeta1-43/IL-10 cDNA Vaccine 29; 7474-7482 IF 3.641 2011 Hara H, Mouri A, Yonemitsu Y, Nabeshima T, Inoue M, Tabira T.
- An oral Aβ vaccine using recombinant adeno-associated virus vector in aged monkeys: reduction of plaque amyloid but increase of Aβ oligomers. J. Alz. disea. 54;1047-1059 IF 3.909 2016 Hara H, Ono F, Nakamura S, Matsumoto S, Jin H, Hattori N, Tabira T
- Cerebral microbleeds and stroke risk after ischemic stroke or transient ischemic attack: a pooled analysis of individual patient data from cohort studies. Lancet. Neurol 18;653-665 IF 44.182 2019 Duncan Wilson, Gareth Ambler, Keon-Joo Lee et al.
- Low-dose phosphodiesterase III inhibitor reduces the vascular amyloid burden in Amyloid-β Protein Precursor Transgenic Mice. Int J Mol Sci 21:2295 IF 5.542 2020 Y Yakushiji, K Kawamoto, K Uchihashi, M Ihara, S Aoki, Y Nagaishi, K Suzuyama, Y Tsugitomi, Hideo Hara

社会的業績

役員歴：日本神経学会専門医・指導医、評議員  
 日本内科学会内科認定内科医・指導医、評議員  
 日本認知症学会認知症専門医・指導医、元理事  
 日本神経免疫学会元理事

## 2) 丸山仁司 副学長、教授

学歴：行岡リハビリ専門学校

東京理科大学工学部、大学院修士

職歴：東京都老人医療センター、東京都板橋ナーシングホーム

東京都老人総合研究所、埼玉医科大学短期大学

国際医療福祉大学理学療法学科学科長・教授、副学長、副大学院長

福岡国際医療福祉大学副学長

資格：理学療法士、専門療法士（内部障害、基礎、教育管理）

修士（工学）博士（医学）

原著：

- Shan Liu, Jing Chen, Hualong Xie, Qiuchen Huang, Meng Ge, Mingdong Zhang, Ming Huo, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama: The reliability and effectiveness of shoulder joint evaluation by ultrasonography in stroke patients: deltoid muscle thickness, acromion-humeral distance, acromion-lesser tuberosity distance. J Phys Ther Sci 34:31-35, 2022.
- Shan Liu, Changhua Cao, Hualong Xie, Qiuchen Huang, Meng Ge, Lu Yin, Lei Chen, Minghui Qu, Ming Huo, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama: Evaluation of supraspinatus muscle changes in the shoulder joint of stroke patients with hemiplegic and shoulder subluxation using ultrasonography: comparison between affected and unaffected sides. J Phys Ther Sci 34:44-48, 2022.
- Hiroyo Kamiol, Hitoshi Maruyama, Nozomi Ito, Mako Kunieda, Ayaka Chiba and Yorimitsu Furukawa: Effect of hip adduction/abduction contraction on pelvic floor in young healthy women. J Phys Fitness Sports Med, 11 (1): 29-34 (2022) DOI: 10.7600/jpfs.11.29
- Lei Chen (陳雷), Jianjian Sun, Shan Liu, Danyang Zhou, Mingdong Zhang, Yang Gao, Hualong Xie, Ming Huo, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama.: Immediate effects of neuromuscular joint facilitation bridging exercises on walking ability and balance function in stroke patients. J Phys Ther Sci 34:172-176, 2022.

- Yuetong Zhu, Zimin Wang \*, Hitoshi Maruyama, Ko Onoda, Qiuchen Huang: Body fat percentage and normal-weight obesity in the Chinese population: Development of a simple evaluation indicator using anthropometric measurements. Int. J. Environ. Res. Public Health 2022, 19:1-12, 4238.
- Toshiya Tsukamoto, Michitaka Kato, Yasunari Kurita, Masaki Uchida, Akira Kubo, Hitoshi Maruyama : The Efficacy of Expiratory Muscle Training during Inspiratory Load in Healthy Adult Males: A Randomized Controlled Trial. Healthcare 2022:10, 933 1-10.
- 堀本ゆかり、山田洋一、山下淳一、丸山仁司：理学療法士のための臨床管理能力尺度（Clinical Management Competencies Scale for Physical Therapists：CMCS-PT）の信頼性と妥当性の検証 理学療法科学 37(3):303-310, 2022.
- 渡辺恒希、青山誠也、辰野紗英、丸山仁司、金子秀雄：ベッド上の異なる姿勢が横隔膜運動および換気機能に及ぼす影響 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2022年 第30巻 第3号 322-327
- Zimin Wang, Yuetong Zhu, Dan Han, Qiuchen Huang, Hitoshi Maruyama, Ko Onoda : Effect of hip external rotator muscle contraction on pelvic floor muscle function and the piriformis. International Urogynecology Journal 33(10) 2833-2839 2022年10月
- Yuetong Zhu, Hitoshi Maruyama, Ko Onoda, Yue Zhou, Qiuchen Huang, Chunying Hu, Zhongqiu Ye, Bo Li, Zimin Wang: Body mass index combined with (waist + hip)/height accurately screened for normal-weight obesity in Chinese young adults. Nutrition (Burbank, Los Angeles County, Calif.) 108: 111939-111939 2022年12月21日

総説：

邵双燕、佟幸伸、丸山仁司：中国におけるリハビリテーション治療師（セラピスト）の国家試験概要 日本リハビリテーション教育学会誌 2022:5(2)40-48.

講演：

- 1) 日本のPT 国家試験 第124回理学療法科学学会 特別講演、令和4年4月23日 東京
- 2) リハビリの現状 第1回康复教育研究会 青島リハビリ大学 令和4年7月22日 中国青島
- 3) 内部障害のリハビリテーション 第1回北京朝陽区医学会 朝陽腫瘍病院 令和4年8月20日 北京
- 4) PTの将来の人材像 PT, OT, ST 将来構想勉強会 IUHW 令和4年9月2日 東京赤坂
- 5) 歩行分析の歴史と評価 第14回アジアリハビリ科学学会 北京朝陽腫瘍病院 令和4年11月26日 北京

学会等発表：

- 1) 原 真子, 堀本 ゆかり, 丸山 仁司：コンピテンシーから見た学生指導指標の検討 第14回日本リハビリテーション教育学会 第5巻特別号1号 2022 小田原 2022-1-8
- 2) 大津 救亨, 堀本 ゆかり, 丸山 仁司：理学療法臨床実習生の実習満足度調査。～実習終了後のアンケート調査より～ 第14回日本リハビリテーション教育学会 第5巻特別号1号 2022 小田原. 2022-1-8

社会的活動

役員歴・公的委員

社) 理学療法科学学会理事長、  
日本保健科学学会 理事、評議員、編集委員

講演会（一般を対象）

所属学会

日本リハビリテーション医学会、理学療法科学学会、日本保健科学学会、日本理学療法士協会

## 8.2 理学療法学科

教員：柘 幸伸（教授・学科長）

小坂克子（教授：解剖学）、田川辰也（教授：内科）、山之口稔隆（講師：医療情報）、池田拓郎（講師）、光武 翼（講師）、吉村美香（講師）、吉塚久記（講師）、藤田大輔（講師）、谷口隆憲（助教）、邵双燕（助教）

### 1) 柘 幸伸 学科長、教授

学歴：国際医療福祉大学大学院

医療福祉学研究科保健医療学専攻理学療法学分野博士後期課程 修了

職歴：シャープシステムプロダクト（株）

海老名総合病院リハビリテーション科

東都リハビリテーション学院理学療法学科

埼玉医療福祉専門学校理学療法学科

国際医療福祉大学小田原保健医療学部理学療法学科

国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科

了徳寺大学健康科学部理学療法学科

福岡国際医療福祉大学医療学部理学療法学科

資格：理学療法士、介護支援専門員、宅地建物取引士

修士、博士（保健医療学）

社会的活動

日本リハビリテーション学校協会 九州・沖縄ブロック会会長

所属職能団体

日本理学療法士協会、日本体力医学会、理学療法科学学会（評議員）、リハビリテーション学術センター（理事）、国際エクササイズサイエンス（理事）・他

### 2) 小坂克子 教授

学歴：東京医科歯科大学歯学部卒業 東京医科歯科大学大学院修了

職歴：九州大学医学部 助手および講師（解剖学）

九州大学医療短期大学部 助教授

九州大学医学部保健学科 教授

九州大学大学院医学研究院保健学部門 医用量子線科学分野 教授

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 医学検査学科 教授

資格：歯科医師 博士（歯学） 東京医科歯科大学

所属職能団体

日本解剖学会、日本味と匂学会

### 3) 田川辰也 教授

学歴：九州大学医学部医学科卒業

職歴：九州大学医学部附属病院・医員（研修医、循環器内科）

山口赤十字総合病院内科・医師

九州大学医学部附属病院・医員（冠動脈疾患治療部）

済生会福岡総合病院内科・医師

日本学術振興会・特別研究員（九州大学医学部循環器内科で研究）

日本学術振興会・特別研究員としてオーストラリア・シドニー大学生理学に留学

オーストラリア・シドニー大学生理学・リサーチアシスタント

北九州市立医療センター・循環器科部長

九州大学医学部附属病院・医員（循環器内科）

琉球大学医学部臨床薬理学講座・助教授

琉球大学大学院医学研究科薬物作用制御学分野（臨床薬理学）・助教授

西南女学院大学保健福祉学部栄養学科・教授

福岡国際医療福祉大学医療学部理学療法学科・教授

資格：医師免許医学博士（九州大学）、日本内科学会認定総合内科専門医、医学博士（九州大学）

日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医

日本循環器学会認定循環器専門医

日本高血圧学会認定高血圧専門医・評議員

日本医師会認定産業医・日本医師会認定健康スポーツ医

心臓リハビリテーション指導士

#### 原著

1) Fujita D, Kubo Y, Tagawa T.: Effects of lower limb venous dilation on the autonomic cardiac response among healthy young men. Healthcare. In press.

#### 学会発表

1) Tanaka Y, Oumi M, Sakaida Y, Tagawa T, Tsujisawa T, Hijiki H, Nakamichi A, Teshima E, Ishii A, Nagata A: Joint activities by Universities for the improvement of improving lifestyle habits of community-residing adults: Influence of number of times participating on food preferences and lifestyle improvement. 22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition, Tokyo, Dec 6-21, 2022

2) 松本彩花、原 智美、磯崎陽子、福井絵美、東谷亜美、角みどり、中村清子、徳松誠、田川辰也、宇野宏一：当センターでの緑内障における眼底検査の有用性. 日本総合健診医学会 第50回大会、WEB開催、2022年1月28日～1月29日

2) 生田彰貴、中島和子、小森十和子、亀園遥華、角みどり、中村清子、田川辰也、徳松誠：当センターでの下腹部超音波検査による膀胱がんの検出成績と症例. 第63回日本人間ドック学会学術大会、千葉幕張メッセ、2022年9月2日～3日

#### 社会的活動

##### 地域活動への参加・協力

地方自治体の事業への協力：福岡市ニコニコペース健康教室に協力

##### 所属職能団体

日本医師会、福岡県医師会、福岡市医師会に所属

九州大学医学部同窓会（同窓会名簿編集委員）

### 3) 山之口稔隆 講師

学歴：福岡大学大学院医学研究科 社会医学専攻 博士課程後期 修了

職歴：(株)日立メディコ

九州大学病院

福岡大学病院

九州大学 インスティテューショナル・リサーチ室

福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科

資格：博士（医学）（福岡大学）

日本医療情報学会認定 上級医療情報技師

日本医療情報学会認定 上級医療情報技師育成指導者

#### 原著

1) Mimata R, Yamanokuchi T, Maeda T, Arima H, Akiyoshi K. Relationship between minute-to-minute variability of intraoperative arterial blood pressure and postoperative acute kidney injury in patients undergoing noncardiac surgery, Med. Bull. Fukuoka Univ., in Press.

#### 学会発表

1) 牧香里, 上野珠未, 河野和美, 森永朗子, 岩永和代, 船越俊介, 山之口稔隆, 辻雅善, 阿部真紀子, 佐藤敦, 川添美紀, 前田俊樹, 吉村力, 有馬久富. 日本人一般住民における塩分摂取量と肥満発症との関連：ISSA-CKD研究. 第81回日本公衆衛生学会総会. 2022

#### 研究費取得

1) 山之口稔隆：慢性腎臓病（CKD）重症度分類と潜在性動脈硬化との関連を解明する疫学的検討, 科研費（若手研究）代表, 2022-2025, 新規

## 社会的活動

### 地域活動への参加・協力

福岡大学大学院公衆衛生学講座では、福岡県（2020年度は、主に那珂川市）で健康診断を受ける40歳以上の男女に研究説明を行い、同意取得できた方を対象として疫学調査を実施し、動脈硬化性疾患の危険・予防因子を明らかにし、超高齢化社会の日本に必要とされる動脈硬化性疾患の一次予防に関する知見を得ることが期待できる。私は、福岡大学医学研究科研究員として本事業に参加し、那珂川市健診サポート及び情報収集、情報分析等の研究活動を行い、論文執筆に向けた準備を行っている。

### 所属職能団体

日本医療情報学会、日本公衆衛生学会、データサイエンティスト協会

### 公的機関

福岡大学 医学部 研究員

帝京大学 福岡医療技術学部 非常勤講師

## 4) 吉塚久記 講師

学歴：福岡国際医療福祉学院（現：福岡国際医療福祉大学）理学療法学科 卒業

佐賀大学大学院 医学系研究科 修士課程医科学専攻 修了

佐賀大学大学院 医学系研究科 博士課程医科学専攻 修了

職歴：特定医療法人弘医会 福岡鳥飼病院 理学療法士

専門学校 柳川リハビリテーション学院 理学療法学科 専任教員

佐賀大学医学部 生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野 客員研究員

国際医療福祉大学大学院 特別講師

資格：理学療法士、専門理学療法士（基礎理学療法）、認定理学療法士（学校教育）

修士（医科学）佐賀大学

博士（医学）佐賀大学

### 原著

1) Yoshizuka H, Kuraoka A: Calcaneofibular ligament may act as a tensioner of peroneal tendons as revealed by a contactless three-dimensional scan system on cadavers. *Sci Rep* 12: 16650, 2022

2) Yoshizuka H, Taniguchi T, Fukuta K, Mitsutake T, Honda S: Decrease in medial meniscal extrusion after physical therapy to improve knee pain and range of motion in patients with knee osteoarthritis: A retrospective study. *PLoS One* 17: e0277628, 2022

3) Mitsutake T, Nakazono H, Yoshizuka H, Taniguchi T, Sakamoto M: Increased Trailing Limb Angle is Associated with Regular and Stable Trunk Movements in Patients with Hemiplegia. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 31: 106242, 2022

4) Mitsutake T, Taniguchi T, Nakazono H, Yoshizuka H, Sakamoto M: Effects of noisy galvanic vestibular stimulation on the muscle activity and joint movements in different standing postures conditions. *Front Hum Neurosci* 16: 891669, 2022

### 学会発表

1) 谷口隆憲, 吉塚久記, 福田謙典, 本多重信: 変形性膝関節症のMedial meniscus extrusionと疼痛の関連性. 国際医療福祉大学学会学術大会 (福岡), 2022年8月28日

2) 光武 翼, 谷口隆憲, 中菌寿人, 吉塚久記: Noisy Galvanic Vestibular Stimulationが身体制御反応に及ぼす影響: 探索的研究. 第20回日本神経理学療法学会学術大会 (大阪), 2022年10月15-16日

3) 中尾優太郎, 吉塚久記, 浅見豊子, 倉岡晃夫: 足関節前方引き出しテストの肢位条件に関する機能解剖学的研究: 慣性センサと伸縮性ひずみセンサを用いて. 日本解剖学会 第78回九州支部学術集会 (福岡), 2022年10月29日

4) 吉塚久記, 中尾優太郎, 倉岡晃夫: 踵腓靭帯の走行角度の違いが機能に及ぼす影響: 伸縮性ひずみセンサと慣性センサを用いた機能解剖学的研究. 第6回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会 (岡山), 2022年11月4-6日

## 研究費取得

- 1) 吉塚久記: 長腓骨筋の機能向上に最適な運動課題の開発: 機能解剖学的知見を基盤とした筋電図解析. 科研費 (若手研究) 代表, 2021-2024, 継続
- 2) 倉岡晃夫, 吉塚久記: 感圧測定システムによる踵腓靭帯の機能解析〜靭帯損傷のテーラーメイド予防を目指して. 科研費 (基盤研究C) 分担, 2021-2024, 継続

## 社会的活動

### 所属職能団体

福岡県理学療法士会 (会員・査読委員)、日本基礎理学療法学会 (専門会員A・査読委員)  
全国リハビリテーション学校協会 (臨床実習指導者講習会: 講師・世話人)

### 公的機関

佐賀大学医学部 生体構造機能学講座 客員研究員

## 5) 光武 翼 講師

学歴: 佐賀大学大学院 医学系研究科 博士課程 博士 (医学) 早期修了

職歴: 白石共立病院 リハビリテーション部

佐賀大学 医学部 客員研究員

福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科

広島大学大学院 人間社会科学研究科 研究員

資格: 理学療法士, 基礎理学療法専門理学療法士, 神経理学療法専門理学療法士,  
博士 (医学)

### 原著

- 1) Mitsutake T, Taniguchi T, Fujita D, Nakazono H, Effects of passive interpersonal light touch during walking on postural control responses: an exploratory study. *Hum Mov Sci* 87:103051, 2022.
- 2) Nakazono H, Taniguchi T, Mitsutake T, Takeda A, Yamada E, Ogata K: Phase-dependent modulation of the vestibular-cerebellar network via combined alternating current stimulation influences human locomotion and posture. *Front Neurosci*, 16:1057021, 2022.
- 3) Yoshizuka H, Taniguchi T, Fukuta K, Mitsutake T, Honda S: Decrease in medial meniscal extrusion after physical therapy to improve knee pain and range of motion in patients with knee osteoarthritis: A retrospective study. *PLoS One* 17(11):e0277628, 2022.
- 4) Nishimoto J, Ono K, Imura T, Mitsutake T, Tanaka S, Inoue Y, Jung H, Tanaka R. Effects of combined exercise and psychological interventions on psychological factors in patients who underwent total knee arthroplasty: A systematic review of randomized controlled trials *International J Gerontol.* in press
- 5) Oka S, Ikeda T, Mitsutake T, Ogata K, Goto Y. Unilateral cathodal transcranial direct current stimulation over the parietal area modulates postural control depending with eyes open and closed. *PLoS One* 17(9):e0269145, 2022.
- 6) Ono K, Nishimoto J, Mitsutake T, Imura T, Inoue Y, Tanaka S, Tanaka R. The effects of walking training with poles on walking ability: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. *PM R*, In press
- 7) Hamada K, Tamura H, Hirohama K, Mitsutake T, Imura T, Tanaka S, Tanaka R. The effectiveness of group education in people over 50 years old with knee pain: A systematic review and meta-analysis of randomized control trials. *Musculoskelet Sci Pract* 62:102627, 2022.
- 8) Hirohama K, Tamura H, Hamada K, Mitsutake T, Imura T, Tanaka S, Tanaka R. Effects of non-face-to-face and non-contact interventions on knee pain and physical activity in older adults with knee osteoarthritis: A systematic review and meta-analysis. *J Aging Phys Act* 1-11, 2022.
- 9) Mitsutake T, Taniguchi T, Nakazono H, Yoshizuka H, Sakamoto M. Effects of noisy galvanic vestibular stimulation on the muscle activity and joint movements in different standing

postures conditions. Front Hum Neurosci 16:891669, 2022.

10) Imura T, Mitsutake T, Hori T, Tanaka R. Predicting the prognosis of unilateral spatial neglect using magnetic resonance imaging in patients with stroke: A systematic review. Brain Res 1789:147954, 2022.

11) Taki S, Iwamoto Y, Imura T, Mitsutake T, Tanaka R. Effects of gait training with the hybrid assistive limb on gait ability in stroke patients: A systematic review of randomized controlled trials. J Clin Neurosci 101:186-192, 2022

12) Iwamoto Y, Imura T, Tanaka R, Mitsutake T, Jung H, Suzukawa T, Taki S, Imada N, Inagawa T, Araki H, Araki O. Clinical prediction rule for identifying the stroke patients who will obtain clinically important improvement of upper limb motor function by robot-assisted upper limb. J Stroke Cerebrovasc Dis 31(7):106517, 2022

13) Iwamoto Y, Tanaka R, Imura T, Mitsutake T, Jung H, Suzukawa T, Taki S, Imada N, Inagawa T, Araki H, Araki O. Does frequent use of an exoskeletal upper limb robot improve motor function in stroke patients? Disabil Rehabil 25:1-7, 2022

14) Oka S, Kawano S, Shimada T, Hamachi N, Mitsutake T. Association between generalized joint laxity and knee joint movement in female university students. J Phys Ther Sci 34:131-134, 2022

15) 岡 真一郎, 新郷 怜, 濱地 望, 池田 拓郎, 光武 翼. 腰背部への持続的押圧刺激が腸蠕動音, 自律神経活動に与える影響. 基礎理学療法学会誌 25(1):1-9, 2022

16) 光武 翼, 植田 耕造, 塩崎 智之. 歩行障害をもたらす中枢性めまいに対する理学療法. 理学療法 39(6): 512-521, 2022

17) 植田 耕造, 光武 翼, 塩崎 智之. 姿勢定位障害をもたらす中枢性めまいに対する理学療法. 理学療法 39(6): 522-532, 2022

18) 岡 真一郎, 光武 翼. 姿勢制御における脳内情報処理のメカニズムの理解. 理学療法 39(6): 504-511, 2022

#### 講演

1) 光武 翼: 前庭覚と姿勢制御. リハテックリンクス. 2022年12月6日 Web

2) 光武 翼: 経頭蓋電気刺激が転倒予防に及ぼす影響について. 第14回アジアリハビリテーション科学学会 国際大会. 2022年11月26日 Web

3) 光武 翼: 脳卒中患者の姿勢制御と電気刺激アプローチの実践. 福岡県理学療法士協会 第3回北九州1地区研修会 講師. 2022年11月5日 Web

4) 光武 翼: 前庭×姿勢制御. 第1回前庭理学療法研究会学術集会 シンポジウム, ファシリテーター. 2022年6月12日 奈良

5) 光武 翼: 脳卒中片麻痺患者の歩行再建を目的とした電気刺激療法の考え方. 福岡県理学療法士協会 福岡支部合同報告会 特別講演 2022年3月6日 Web

6) 光武 翼: 脳卒中片麻痺患者の歩行再建に向けた物理療法の展開. 第2回日本物理療法研究会学術集会 教育講演 2022年2月19日 Web

7) 光武 翼: 姿勢制御における感覚機能へのアプローチ. エポックセミナー 講師 2022年1月19日, 22日 Web

#### 学会発表

1) 光武 翼, 谷口 隆憲, 中 蘭 寿人, 吉 塚 久 記: Noisy Galvanic Vestibular Stimulation が身体制御反応に及ぼす影響: 探索的研究. 第20回日本神経理学療法学会学術大会. 2022年10月16日 大阪

2) 藤田 大輔, 光武 翼, 田川 辰也: 迷走神経活動を賦活させる経皮的耳電気刺激装置の開発. 第12回国際医療福祉大学学会学術大会. 2022年8月28日 国際医療福祉大学 大川キャンパス

3) 光武 翼: 脳卒中患者に対する前庭リハビリテーションが歩行能力に及ぼす影響: ランダム化比較試験のシステムティックレビュー. 第1回前庭理学療法研究会学術集会. 2022年6月12日 奈良

4) 岡 真一郎, 光武 翼: トレッドミル歩行前後の Sensory Conflict における立位姿勢制御と体性感覚および前庭覚の関係. 第1回前庭理学療法研究会学術集会. 2022年6月12日 奈良

5) Yuji Iwamoto, Takeshi Imura, Ryo Tanaka, Tsubasa Mitsutake, Hungu Jung, Takahiro Suzukawa, Shingo Taki, Naoki Imada, Tetsuji Inagawa, Hayato Araki, Osamu Araki. Clinical prediction



rule for identifying the stroke patients who will obtain clinically important improvement of upper limb motor function by robot-assisted upper limb rehabilitation. World Physiotherapy Asia Western Pacific Regional Congress with HKPA Conference 2022. 2022年6月18-20日 香港

6) Shingo Taki, Takeshi Imura, Tsubasa Mitsutake, Yuji Iwamoto, Akira Degami, Naoki Imada, Hayato Araki, Osamu Araki, Ryo Tanaka. Development of a prediction model for therapeutic effects of robot-assisted gait training for stroke patients. World Physiotherapy Asia Western Pacific Regional Congress with HKPA Conference 2022. 2022年6月18-20日 香港

7) Koji Ono, Junji Nishimoto, Takeshi Imura, Tsubasa Mitsutake, Yu Inoue, Shigeharu Tanaka, Ryo Tanaka. The effects of walking training with poles on walking ability: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. World Physiotherapy Asia Western Pacific Regional Congress with HKPA Conference 2022. 2022年6月18-20日 香港

8) 瀧真伍, 岩本優士, 猪村剛史, 光武翼, 田中亮: 脳卒中患者の歩行能力への Hybrid Assistive Limb の有効性の検討 無作為化比較試験を対象としたシステマティックレビュー. STROKE2022 2022年3月17-19日 Web

9) 西元淳司, 小野晃路, 猪村剛史, 光武翼, 田中繁治, 井上優, 田中亮: 変形性膝関節症に罹患して人工膝関節全置換術を施行された患者に対する運動介入と心理的介入の併用が心理的要因に及ぼす影響 ランダム化比較試験のシステマティックレビューおよびメタアナリシス. 第7回日本精神・心理領域理学療法研究会学術集会 2022年3月13日 Web

#### 研究費取得

1) 田中亮, 安達伸生, 高橋真, 緒形ひとみ, 秋田智之, 光武翼 (研究分担者), 猪村剛史, 生田祥也, 岩本義隆, 田中繁治, 牛尾会, 平田和彦, 井上優, 山科俊輔, 出口直樹: エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究. 厚生労働科学研究費補助金 2022年4月 - 2025年3月

2) 中菌 寿人, 飛松 省三, 緒方 勝也, 光武 翼 (研究分担者): 運動野に可塑性を誘導する新規非侵襲的脳刺激法の開発: その神経基盤と臨床応用. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022年4月 - 2026年3月

3) 堀川 悦夫, 大塚 弘文, 野尻 紘聖, 光武 翼 (研究分担者), 谷口 隆憲: 日常的運動行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022年4月 - 2025年3月

4) 光武 翼 (研究代表者): ノイズ前庭電気刺激が身体制御反応に及ぼす影響. 令和4年度学内研究費. 2022年10月 - 2023年2月

5) 光武 翼 (研究代表者): 脳卒中片麻痺における tDCS と FES の同時介入による新規治療法の開発. 武田科学振興財団 医学系研究継続助成. 2021年8月 - 2024年5月

6) 光武 翼 (研究代表者): ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的研究. 日本学術振興会: 科学研究費助成事業 基盤研究(B). 2020年4月 - 2024年3月

#### 受賞

2022年3月 優秀賞 (個人): 福岡国際医療福祉大学 グッドティーチング賞

2022年3月 優秀賞 (共同演者), 筆頭演者: 西元淳司, 第7回日本精神・心理領域理学療法研究会学術集会

#### 所属職能団体

日本理学療法士協会 (福岡市二地区 運営委員), 日本神経理学療法学会, 日本物理療法学会 (代議員), 日本物理療法研究会 (評議員), 日本前庭理学療法研究会 (副理事長), 日本臨床神経生理学会 公的機関

佐賀大学 医学部 非常勤講師, 佐賀大学 医学部 客員研究員,

広島大学 大学院 人間社会科学研究科 研究員

#### 6) 吉村美香 講師

学歴: 専門学校 柳川リハビリテーション学院

国際医療福祉大学大学院

職歴：医療法人せいわ 聖和記念病院  
志摩老健センター・パキス  
学校法人高木学園 福岡国際医療福祉学院  
学校法人高木学園 福岡国際医療福祉大学  
資格：理学療法士 介護支援専門員 博士（保健医療学）  
研究費取得  
学内研究費：一般研究「通所リハビリテーション利用者におけるフレイルの情愛と転倒リスクとの  
関連」  
社会的活動  
地域活動への参加・協力：介護予防型個別支援会議（福岡市早良区）  
地域リハビリテーション活動支援事業（福岡市理学療法士派遣事業）  
所属職能団体  
日本理学療法士協会  
福岡県理学療法士会（社会局職能部 部長）

#### 7) 藤田大輔 講師

学歴：聖隷クリストファー大学  
聖隷クリストファー大学大学院 博士（リハビリテーション科学）  
職歴：ケアハウス第2アドナイ館  
磐田市立総合病院  
健康科学大学 理学療法学科  
資格：理学療法士，博士  
原著  
1) 藤田大輔、高村浩司、駒形純也他：理学療法学生の職業的アイデンティティと進学に対する動  
機づけの関連性. 理学療法科学 2022 ; 37(6) : 525 - 530.  
講演  
1) 藤田大輔：骨格筋による呼吸循環応答の調節機構と臨床応用、福岡県理学療法士会研修会、  
Web 開催、2022 年 11 月 16 日  
学会発表  
1) 藤田大輔、田川辰也、光武翼：迷走神経活動を賦活させる経皮的耳電気刺激装置の開発、第 12 回  
国際医療福祉大学学会、Web 開催、2022 年 8 月 28 日  
2) 藤田大輔、田川辰也、久保裕介：静脈の拡張が運動時の換気応答に与える影響、第 27 回日本基礎  
理学療法学会学術大会、大阪、2022 年 10 月 2 日  
研究費取得  
[継続] 科研費 若手研究「慢性心不全患者における呼吸困難感に関連する新しい因子の同定」  
2020－2022 年度  
社会的活動  
地域活動への参加・協力  
地方自治体の事業への協力：山梨県昭和町の介護予防に関する研究に携わる  
所属職能団体  
福岡県理学療法士会（福岡県理学療法士養成校連絡協議会 委員）

#### 8) 池田拓郎 講師

学歴：医療福祉専門学校緑生館 理学療法学科 卒業  
佛教大学 社会学部 卒業 学士（社会学）  
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 修士課程 修士（保健医療学）  
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 博士課程 博士（保健医療学）  
職歴：国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科  
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科  
福岡和白リハビリテーション学院 理学療法学科

資格：理学療法士

原著 1) Ikeda T, Takano M, Oka S, Suzuki A, Matsuda K. Changes in postural sway during upright stance after short-term lower limb physical inactivity: A prospective study. PLoS ONE. 17(8): e0272969. 2022.

2) Oka S, Ikeda T, Mitsutake T, Ogata K, Goto Y. Unilateral cathodal transcranial direct current stimulation over the parietal area modulates postural control depending with eyes open and closed. PLoS ONE. 17(9): e0269145. 2022.

3) 岡 真一郎, 新郷 怜, 濱地 望, 池田 拓郎, 光武 翼. 腰背部への持続的押圧刺激が腸蠕動音, 自律神経活動に与える影響. 基礎理学療法学会誌 25(1):1-9, 2022.

著書 1) 卒前・卒後教育に使える理学療法のためのOSCEハンドブック. アイペック. 2022

短報 1) 野中 嘉代子, 池田 拓郎. 学習記録活動による自己調整学習能力の育成. リハビリテーション教育研究, 28, 29-30, 2022.

講演 1) 池田 拓郎. 国試脳を育むための科学的根拠. 第16回日本リハビリテーション教育学会学術大会. 兵庫県神戸市. 2022. 12.

2) 後藤 純信, 池田 拓郎, 松藤 佳名子. 両眼視と単眼視のVEPsと脳内情報処理. 第78回日本弱視斜視学会総会. 栃木県宇都宮市. 2022. 6.

学会発表

1) Narueda A, Goto K, Sugi T, Matsuda Y, Goto S, Ikeda T, Yamasaki T, Tobimatsu S, Goto Y. Component decomposition of visual evoked potentials by using independent component analysis. 27th International Symposium on Artificial Life and Robotics. B-Con PLAZA, Oita, Beppu, Japan and Online. 2022. 1.

2) 池田 拓郎, 松田 憲亮, 鈴木 あかり. 一側肢不活動による歩行動態の可逆性の定量的評価. 第12回国際医療福祉大学学会学術大会. 国際医療福祉大学大川キャンパス, 福岡県大川市, 2022. 8.

3) 緒方 勝也, 池田 拓郎, 後藤 純信. 側頭部 rTMS 中の脳波周波数分析: 左右半球差の検討. 国際医療福祉大学大川キャンパス, 福岡県大川市, 2022. 8.

4) 池田 拓郎, 後藤 和彦, 岡 真一郎, 杉 剛直, 緒方 勝也, 山崎 貴男, 後藤 純信. Optic flow 感覚閾値が歩行時の頭部動揺に与える影響. 第52回日本臨床神経生理学会学術大会. 国立京都国際会館, 京都府京都市. 2022. 11.

5) 後藤 和彦, 杉 剛直, 池田 拓郎, 山崎貴男, 飛松 省三, 後藤 純信. 視差勾配の違いが自己運動知覚に与える影響: sLORETA による視覚誘発電位の信号源推定. 第52回日本臨床神経生理学会学術大会. 国立京都国際会館, 京都府京都市. 2022. 11.

6) 緒方 勝也, 松野 豊, 平田 大勝, 池田 拓郎, 後藤 純信. 正中神経と尺骨神経同時刺激による手内筋 F 波の相互作用. 第52回日本臨床神経生理学会学術大会. 国立京都国際会館, 京都府京都市. 2022. 11.

7) 岡 真一郎, 池田 拓郎, 濱地 望, 緒方 勝也, 後藤 純信. 頭頂部に対する経頭蓋交流電流刺激がトレッドミル歩行後の身体動揺に与える影響. 第52回日本臨床神経生理学会学術大会. 国立京都国際会館, 京都府京都市. 2022. 11.

8) 松田 憲亮, 大古場 良太, 池田 拓郎. コロナ禍における大学生の身体活動量と心理的不安, ヘルスリテラシーの関連性. 日本理学療法士協会九州ブロック会九州理学療法学術大会. 北九州国際会議場. 2022. 11.

9) 松田 憲亮, 村井 逸晟, 池田 拓郎. 実行機能課題中における立位姿勢制御の定量的評価に関する研究. 日本地域理学療法学会学術大会, WEB 開催. 2022. 12.

10) 嶋原 良, 堀本 ゆかり, 池田 拓郎. 理学療法士における批判的思考の認知度と批判的思考態度に関する調査. 第16回日本リハビリテーション教育学会学術大会. 神戸国際大学, 兵庫県神戸市. 2022. 12月.

11) 小林 昂将, 堀本 ゆかり, 池田 拓郎. リハビリテーション専門職管理者の経験学習プロセスの調査-学習支援方法の提案に向けて. 第16回日本リハビリテーション教育学会学術大会. 神戸国際大学, 兵庫県神戸市. 2022. 12月.

12) 西舘 礼唯, 堀本 ゆかり, 池田 拓郎. 理学療法士の social skills に関する現状と課題スコアレビューによる検討. 第16回日本リハビリテーション教育学会学術大会. 神戸国際大学, 兵

兵庫県神戸市. 2022. 12 月.

賞罰 優秀演題賞（共同演者）：第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会. 2022. 11.

研究費取得

1) 池田 拓郎：加齢による立体運動視の脳内神経ネットワークの変化と転倒との因果関係の検討.  
日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究.

2) 池田 拓郎：ギブス不活動後の姿勢安定性に関する体性感覚系の多角的研究. 令和 4 年度学内研究費.

社会的活動

第 16 回日本リハビリテーション教育学会学術大会 大会長 (2022 年 12 年)

第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会 プログラム委員 (2022 年 11 月～)

所属職能団体

公益社団法人日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学会 (代議員), 理学療法科学学会, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会

## 9) 谷口隆憲 助教

学歴：福岡国際医療福祉学院 理学療法学科 卒業

国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究科 修士課程 修了

国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究科 博士課程 修了

職歴：社会医療法人財団白十字会 白十字病院 リハビリテーション科

医療法人正明会 諸岡整形外科病院 リハビリテーション部

医療法人育優会 さくらクリニック リハビリテーション科

学校法人高木学園 福岡国際医療福祉学院 理学療法学科

資格：理学療法士、認定理学療法士（運動器）

修士、博士（保健医療学）

原著

1) Tsubasa Mitsutake, Takanori Taniguchi, Daisuke Fujita, Hisato Nakazono. Effects of passive interpersonal light touch during walking on postural control responses: An exploratory study. *Human Movement Science* 87 103051-103051 2023.

2) Hisato Nakazono, Takanori Taniguchi, Tsubasa Mitsutake, Akinori Takeda, Emi Yamada, Katsuya Ogata. Phase-dependent modulation of the vestibular-cerebellar network via combined alternating current stimulation influences human locomotion and posture. *Frontiers in Neuroscience* 16 1057021-1057021 2022.

3) Hisayoshi Yoshizuka, Takanori Taniguchi, Kensuke Fukuta, Tsubasa Mitsutake, Shigenobu Honda. Decrease in medial meniscal extrusion after physical therapy to improve knee pain and range of motion in patients with knee osteoarthritis: A retrospective study. *PLOS ONE* 17(11) e0277628-e0277628 2022.

4) Nobuyuki Sano, Takanori Taniguchi, Hisato Nakazono. Influence of upper limb activity on the step count and accuracy of sleep time of a wristband-type physical activity tracker. *PLOS ONE* 17(7) e0271155-e0271155 2022.

5) Tsubasa Mitsutake, Takanori Taniguchi, Hisato Nakazono, Hisayoshi Yoshizuka, Maiko Sakamoto. Effects of Noisy Galvanic Vestibular Stimulation on the Muscle Activity and Joint Movements in Different Standing Postures Conditions. *Frontiers in Human Neuroscience* 16 2022.

6) Tsubasa Mitsutake, Hisato Nakazono, Hisayoshi Yoshizuka, Takanori Taniguchi, Maiko Sakamoto. Increased Trailing Limb Angle is Associated with Regular and Stable Trunk Movements in Patients with Hemiplegia. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 31(2) 106242-106242 2022.

学会発表

1) 藤田慎矢, 鈴木安弘, 谷口隆憲, 濱澤, 鈴木梨香, 田中創, 近間知尚, 碓博哉. 上肢リーチ型ノルディックハムストリングスエクササイズにおけるハムストリングスの筋電図学的解析. 第 9 回

日本スポーツ理学療法学会学術大会 2022年12月.

2) 今井 亮太, 田中 創, 谷口 隆憲, 西上 智彦, 奥村 拓海, 栗田 雄一. Virtual reality を用いた人工膝関節全置換術後患者の階段昇降を獲得するための新たな介入. 第44回日本疼痛学会/第2回日本術後痛学会 2022年12月.

3) 谷口 隆憲, 田中 創, 今井 亮太, 壬生彰, 西上智彦. 変形性膝関節症患者における動作時の共収縮に影響する因子の検討. 第44回日本疼痛学会/第2回日本術後痛学会 2022年12月.

4) 中菌寿人, 谷口隆憲, 光武翼, 竹田昂典, 山田絵美, 緒方勝也. 経頭蓋交流電気刺激と交流前庭電気刺激の組合せ刺激の位相依存的効果: 前庭-小脳ネットワークが歩行と姿勢に与える影響. 第52回日本臨床神経生理学学会学術大会 2022年.

5) 光武翼, 谷口隆憲, 中菌寿人, 吉塚久記. Noisy Galvanic Vestibular Stimulation が身体制御反応に及ぼす影響: 探索的研究. 第20回日本神経理学療法学会学術大会 2022年.

6) 田中 創, 谷口 隆憲, 多々良 大輔, 村上 剛史, 富永 冬樹, 松田 秀策, 徳永 真巳. 末期変形性膝関節症患者における脊椎アライメントと歩行時の下肢関節運動の関連性. 第10回日本運動器理学療法学会学術大会 2022年9月.

7) 谷口隆憲, 吉塚久記, 福田謙典, 本多重信. 変形性膝関節症のMedial meniscus extrusion と疼痛の関連性. 第12回国際医療福祉大学学会学術大会 2022年.

8) 田中創, 谷口隆憲, 西上智彦, 今井亮太, 村上剛史, 松田秀策, 徳永真巳, 吉本隆昌. 末期変形性膝関節症患者の歩行時における自覚的な不安定性と膝関節周囲筋の共収縮の関連性. 第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 / 第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 2022.

9) 今井亮太, 奥村拓海, 田中創, 谷口隆憲, 西上智彦, 栗田雄一. 人工膝関節全置換術後患者の階段昇降時の恐怖回避思考軽減を目的としたVirtual reality アプローチ. 第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2022年.

10) 谷口隆憲, 田中創, 今井亮太, 西上智彦. 変形性膝関節症患者における恐怖回避思考と動作時の共収縮との関連. 第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2022年.

11) 田中創, 田中努, 安山裕亮, 西上智彦, 谷口隆憲, 三栖翔吾, 松田秀策, 徳永真巳, 吉本隆昌. 変形性膝関節症患者のVarus thrustに伴う膝関節周囲筋群の筋活動の変化—重度変形性膝関節症例に対する足底挿板装着前後の変化—. 第31回福岡県理学療法士学会 2022年.

#### 研究費取得

1) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究. 運動恐怖を有する変形性膝関節症者の運動学的評価と電気刺激を併用した運動療法の開発. (研究代表者)

2) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). 日常的運動行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明. (研究分担者)

3) 学内研究費 一般研究. 変形性膝関節症患者の疼痛関連因子と下肢関節運動の関連性.

#### 社会的活動

地域活動への参加・協力:

その他: 臨床実習指導者講習会 世話人

全国リハ学校協会 九州・沖縄ブロック会議

#### 所属職能団体

公益社団法人日本理学療法士協会

公益社団法人福岡県理学療法士会 (福岡支部2地区 運営委員)

一般社団法人 日本運動器理学療法学会 (評議員)

#### 10) 邵 双燕 助教

学歴: 国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科 卒業

国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究科 修士課程 修了

国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究科 博士課程 修了

職歴: 栃木県医師会塩原温泉病院 リハビリテーション科

学校法人高木学園 福岡国際医療福祉学院 理学療法学科

資格: 理学療法士

## 原著

- 1) 邵双燕, 佟幸伸, 丸山仁司: 中国におけるリハビリテーション治療師 (セラピスト) の概要 (査読付). 日本リハビリテーション教育学会誌, Vol. 5, No. 2, 40-48, 2022. 5

## 講演

### 学会発表

- 1) 邵 双燕. 回復期リハビリテーション病院の現状と課題. 第6回リハビリテーション科学研究会, 福岡, 2022年4月

## 社会的活動

地域活動への協力参加: ボランティア・ラブアースクリーンアップ (2022年6月12日)

## 所属職能団体

日本理学療法士協会

### 8.3 医療学部 作業療法学科

教員：北島栄二（教授・学科長）

菅原洋子（教授）、丹羽敦（教授）、小牧 元（教授：心療内科）、新居見和彦（教授：小児科）、副島修（教授：整形外科）、尾籠晃司（教授：精神医学）、松田隆治（准教授）、多賀誠（准教授）中蘆寿人（講師）、佐野伸之（講師）、木村まり子（助教）、吉田亮平（助教）

#### 1) 北島 栄二 学科長、教授

学歴：長崎大学医療技術短期大学部作業療法学科

佐賀大学大学院医学系研究科 医科学専攻修士課程修士

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻博士

職歴：医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 作業療法科 主任

（社）緑生館 医療福祉専門学校緑生館 作業療法学科 専任教員

佐賀県長寿社会振興財団 佐賀県介護実習普及センター 専門相談員

厚生労働省 老健局振興課 福祉用具・住宅改修指導官

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科 准教授 教授

長崎大学 産学官連携戦略本部 准教授

文科省地域イノベーション戦略支援プログラム招聘研究員

福岡国際医療福祉大学医療学部 作業療法学科 教授（現在に至る）

資格：作業療法士，医科学修士，博士（医学）

講演：

1) 佐賀県在宅生活サポートセンター 専門職向け講座 講師

「福祉用具の活用について考える」 2022年12月17日（土）

研究費取得：

1) 文部科学省 18K12171 基金 2018年度 基盤研究(C)（延長最終年度）

「シルバーカーから歩行車への変更が要介護高齢者の身体活動量に及ぼす効果」

2) 文部科学省 22K12953 基金 2022年度 基盤研究(C)（新規）

「要介護高齢者のシルバーカー及び歩行車使用時における歩行時体幹運動の比較検証」

社会的活動

地域活動への参加・協力

佐賀県在宅生活サポートセンター（介護実習普及センター）の職員指導

大学機関別認証評価

公益財団法人 日本高等教育評価機構 大学機関別認証評価 2022年評価委員

厚生労働省委託事業（一社）日本作業療法士協会 令和4年度老健事業

「介護保険制度における福祉用具の範囲及び種目拡充等に関する提案・評価検討のあり方についての調査研究事業」WG委員・有識者

全国リハビリテーション学校協会版 2022年度臨床実習指導者講習会

福岡県連絡校業務，講習会講師

所属職能団体

（一社）日本作業療法士協会：制度対策部生活環境支援推進室

#### 2) 菅原 洋子 教授

学歴：国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科博士課程修了

職歴：温泉病院鹿教湯療養所

東京都福祉センター

国立療養所病院附属リハビリテーション学院 専任教員

国立村山病院 主任

国際医療福祉大学大田原キャンパス 准教授

国際医療福祉大学小田原キャンパス 作業療法学科学科長

JICA シニアボランティア ミャンマー

福岡国際医療福祉大学 教授

資格：作業療法士 修士（リハビリテーション学）、博士（保健医療学）

社会的活動：

所属職能団体：作業療法学会（学会論文審査委員）

作業療法教育学会

国際リハビリテーション学会

### 3) 小牧 元 教授

学歴：米国 Salem Senior High School 卒業

鹿児島大学医学部医学科卒業

職歴：天理よろづ相談所病院内科系レジデント

九州大学医学部心療内科

米国 Tulane 大学医学部研究員

九州大学医学部心療内科講師

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所心身医学研究部長

国際医療福祉大学福岡保健医療学部教授

福岡国際医療福祉大学医療学部教授

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所名誉所員

資格：医師免許証、日本内科学会内科認定医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医

日本心身医学会心身医療（内科）専門医、日本心療内科学会心療内科専門医

World Health Organization Composite International Diagnostic Interview WHO-CIDI3.0

認定証取得、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医認定、心療内科専門医、

「精神科専門医ではない精神科医のための除外要件（二）に関わる認定証」取得

日本医師会認定産業医

博士：九州大学 医学博士

原著：

1) Yokoyama H, Nozaki T, Nishihara T, Sawamoto S, Komaki G, Sudo N. Factors associated with the improvement of body image dissatisfaction of female patients with overweight and obesity during cognitive behavioral therapy. *Frontiers in Psychiatry* 13:1025946. 2022 (doi:10.3389/fpsyt.2022.1025946) 査読あり

総説：

1) 野崎剛弘、澤本良子、小牧 元. オベシティスティグマと社会健康格差—現状と展望. *糖尿病・内分泌代謝科* 55(5) : 591-599、2022

学会発表：

1) Nozaki T, Sawamoto R, Nishihara T, Komaki G, Sudo N. Short sleep duration is associated with the hyperuricemia. 26th World Congress of ICPM. 2022. 9. 7-9, Rochester Riverside Convention Center, Rochester, USA.

2) 横山寛明、野崎剛弘、西原智恵、澤本良子、小牧 元、須藤信行. 過食性障害併存の肥満症患者に対する認知行動療法による減量効果および心理特性の変化. 第 61 回日本心身医学会九州地方会. 2022. 1. 30-31, 福岡市 (Web 開催)

3) 野崎剛弘、小牧 元、須藤信行. ナラティブ的視点からみた高機能広汎性発達障害を伴った高度肥満症男性患者の長期治療経過. 第 42 回日本肥満学会・第 39 回日本肥満症治療学会学術集会. 2022. 3. 26-27, パシフィコ横浜, 横浜市 (ハイブリッド開催) 4)

4) 横山寛明、野崎剛弘、西原智恵、澤本良子、小牧 元、須藤信行. 女性肥満症患者に対する認知行動療法に伴うボディイメージの不満足感改善に関する因子. 第 42 回日本肥満学会・第 39 回日本肥満症治療学会学術集会. 2022. 3. 26-27, パシフィコ横浜, 横浜市 (ハイブリッド開催)

5) 横山寛明、野崎剛弘、西原智恵、澤本良子、小牧 元、須藤信行. 過食性障害を併存した肥満症患者の心理的特徴と認知行動療法による治療成績. 第 42 回日本肥満学会・第 39 回日本肥満症治療学会学術



集会. 2022. 3. 26-27, パシフィコ横浜, 横浜市 (ハイブリッド開催)

6) 西原智恵, 野崎剛弘, 澤本良子, 小牧 元, 須藤 信行. 自閉症スペクトラム特性を有する肥満症3例の減量経過と心理特性の検討. 第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会. 2022. 3. 26-27, パシフィコ横浜, 横浜市 (ハイブリッド開催)

7) 野崎剛弘, 小牧 元 須藤信行. 自閉スペクトラム症を伴った男性高度肥満症患者の長期治療経過. 第63回日本心身医学会. 148頁. 幕張メッセ国際会議場, 千葉市, 2022. 6. 25

8) 横山寛明, 野崎剛弘, 西原智恵, 澤本良子, 小牧 元, 須藤 信行. 認知行動療法に基づく減量治療による女性肥満症患者のQOL改善に寄与する因子の検討(口演). 第63回日本心身医学会. 幕張メッセ国際会議場, 千葉市, 2022. 6. 26

9) 澤本良子, 野崎剛弘, 小牧 元, 須藤信行, 金光芳郎. 「肥満と糖尿病～心身医学的アプローチの実践: 成功例と不成功例または難渋例の検討～」心療内科の減量治療 リバウンド後再治療を希望した高度肥満症2症例の検討. 第26回日本心療内科学会総会・学術大会, 2322. 11. 19, 九州大学医学部百年講堂, 福岡市

10) 西原智恵, 野崎剛弘, 小牧 元, 須藤信行. 減量治療の経過で過度の体重減少をきたし, 認知・行動面へのチームアプローチが重要であった一例(合同シンポジウム). 第43日本肥満学会・第40日本肥満症治療学会学術集会. 那覇文化芸術劇場なはーと, 那覇市, 2022. 12. 3

11) 澤本良子, 野崎剛弘, 小牧 元, 須藤信行, 金光芳郎. 高度肥満症に対するチームアプローチ: 心療内科医の立場から (JSTO シンポジウム). 第43日本肥満学会・第40日本肥満症治療学会学術集会. ホテルコレクティブ, 那覇市, 2022. 12. 2

#### 4) 尾籠 晃司 教授

学歴: 九州大学医学部、大学院医学研究科修了

職歴: 九州大学医学部神経精神医学教室 福岡大学医学部精神医学教室  
福岡国際医療福祉大学

資格: 医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医・指導医

原著:

1) 筋田柚衣 長町茂樹 野々熊真也 高野浩一 桑原康雄 吉満研吾 尾籠晃司 坪井義夫 アルツハイマー病における海馬萎縮指標と疾患特異領域脳血流指標の相関 臨床放射線 67: 583-592, 2022

#### 5) 丹羽 敦 教授

学歴: 熊本リハビリテーション学院 作業療法学科

北九州大学 外国語学部 英米学科 卒業 学士(外国語)

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療専攻修了

職歴: 慈恵曽根病院リハビリテーション科作業療法室長・地域医療サービス部兼務

柳川リハビリテーション学院 作業療法学科 専任教員

国際医療福祉大学 保健学部 作業療法学科 助手

福岡国際医療福祉学院 作業療法学科作業療法学科主任

国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 講師、准教授

広島都市学園大学 健康科学部 作業療法学 教授、専攻長、大学院教授

学校法人 高木学園 福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科 教授

JICA (国際協力事業団) の「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」の作業療法専門家 専門家リーダー  
中国リハビリテーション研究センター (北京市) (2001年8月 平成14年5月まで (平成2006年6月平成18年8月まで)

資格: 作業療法士免許証、介護支援専門員 (ケアマネージャー)、福祉用具プランナー

修士 (保健医療学) 2001年3月、 認定作業療法士2004年4月1日

著書:

1) 大庭潤平 (編著)、丹羽敦、早坂友成、岩谷清一、稲富宏之、柴田八衣子、高畑慎一他「作業療法管理

学入門 第2版]、2022年3月25日、医歯薬出版

講演：

- 1) 令和4年 福岡県三士会合同 訪問リハビリテーション 実務者研修会 テーマ：「連携と専門性」  
「訪問リハビリテーションにおける多職種協働の視点 ～訪問作業療法の実践より～」  
2022年10月15日～11月15日 オンデマンド
- 2) 令和4年度 長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻 「臨床実習指導者会議」教育講演 (Web)  
「指定規則改正の概要 (臨床実習関連) と診療参加型臨床実習について」 2022年12月2日

学会発表：

- 1) 角田孝行・丹羽 敦、初年次生は「作業」という言葉の意味をどうとらえているか  
「作業」の持つ意味が作業療法学生の職業観に与える影響 — (第1報) 初年次学生への調査—  
第55回第27回日本作業療法教育学会 (藍野大学)、2022年11月20日

社会的活動：

- 1) 所属職能団体  
日本作業療法士協会 (教育部 養成教育委員会 副委員長)  
福岡県作業療法協会 (副会長)  
・・福岡県作業療法協会40周年記念式典実行委員、2022年10月1日、福岡国際会議場
- 2) 第27回日本作業療法教育学会 (11月20日：藍野大学)： 実行委員長
- 3) 厚労省指定 臨床実習指導者講習会 講師および運営 (6回/年)
- 4) 日本作業療法協会主催・厚労省後援 臨床実習指導実践研修会 講師および運営 (6回/年)

## 6) 松田 隆治 准教授

学歴：熊本リハビリテーション学院作業療法学科卒業

明星大学人文学部心理・教育学科卒業

日本大学大学院総合社会情報研究科人間科学専攻修士課程修了

九州保健福祉大学大学院保健科学研究科博士課程単位取得後退学

職歴：厚生年金事業振興団 湯布院厚生年金病院

吉備国際大学保健科学部作業療法学科助手

九州保健福祉大学保健科学部作業療法学科講師

熊本総合医療リハビリテーション学院作業療法学科講師

九州栄養福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科講師

帝京大学福岡医療技術学部作業療法学科准教授

福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科准教授

資格：作業療法士免許、人間科学修士

社会的活動：

研修会等への参加・協力

福岡県作業療法協会臨床実習指導者講習会世話人

熊本県作業療法士会現職者講習会講師「実践のための作業療法研究」

全国リハビリテーション学校協会臨床実習指導者講習会世話人

地域活動への参加・協力

地域ケア会議 (大牟田市手鎌地区)

所属職能団体

日本作業療法士協会、福岡県作業療法協会

## 7) 多賀 誠 准教授

学歴：労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 作業療法学分野 修了

職歴：医療法人 慈光会 若久病院

精神障害者地域生活援助事業所グループホーム若久荘  
精神障害者社会適応訓練事業所ソシエテわかひさ  
柳川リハビリテーション学院 作業療法学科  
JICA (国際協力機構) より専門家として中国北京へ派遣  
福岡国際医療福祉学院 作業療法学科  
国際医療福祉大学福岡保健医療学部講師、准教授・大学院准教授  
福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科 准教授

資格：作業療法士

修士 (保健医療学)

社会的活動：

役員歴：福岡・佐賀精神科 OT 懇話会 (現福岡県精神科病院協会 OT・PT 会) 筑後ブロック長  
福岡ブロック運営委員、福岡・佐賀精神科 OT 懇話会  
福岡県作業療法協会 規約委員、将来構想委員、福岡市体育振興会  
日本作業療法士協会 教育部 生涯教育運営委員  
九州作業療法士学校連絡協議会 OT 啓発プロジェクト実行委員、新人教員教育実行委員  
特定非営利活動法人とびら 理事

学会発表：

重藤旭, 原麻理子, 多賀誠, 原口健三. 鍵探し検査(Key Search Test;KST)の認知機能スクリーニング検査としての有効性. 第56回日本作業療法学会. 2022年9月. 国立京都国際会館 (京都府) .

## 8) 中菌 寿人 講師

学歴：メディカルカレッジ青照館 卒業

九州大学大学院医学系学府 医科学専攻修了 医科学修士 修了

九州大学大学院医学系学府 医学専攻修了 博士 (医学) 修了

職歴：熊本機能病院 総合リハビリテーション部

麻生介護サービス アップルハート訪問看護ステーション福岡西

九州大学大学院医学系学府 ティーチングアシスタント

九州大学大学院医学系学府 リサーチアシスタント

日本学術振興会特別研究員 (DC1)・(PD)

福西会南病院 リハビリテーション部

資格：作業療法士

修士 (医科学)、博士 (医学)

原著：

- 1) Mitsutake T, Nakazono H, Yoshizuka H, Taniguchi T, Sakamoto M. Increased Trailing Limb Angle is Associated with Regular and Stable Trunk Movements in Patients with Hemiplegia. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 31, 106242, 2022.
- 2) Mitsutake T, Taniguchi T, Nakazono H, Yoshizuka H. Effects of Noisy Galvanic Vestibular Stimulation on the Muscle Activity and Joint Movements in Different Standing Postures Conditions. *Frontiers in human neuroscience* 16:891669, 2022.
- 3) Sano N, Taniguchi T, Nakazono H. Influence of upper limb activity on the step count and accuracy of sleep time of a wristband-type physical activity tracker. *PLoS One* 17: e0271155, 2022.
- 4) Nakazono H, Taniguchi T, Mitsutake T, Takeda A, Yamada E, Ogata K. Phase-dependent modulation of the vestibular-cerebellar network via combined alternating current stimulation influences human locomotion and posture. *Front. Neurosci.* 16, 1057021, 2022.

学会発表：

- 1) 中菌寿人, 谷口隆憲, 光武翼, 竹田昂典, 山田絵美, 緒方勝也. 経頭蓋交流電気刺激と交流前庭電気刺激の組合せ刺激の位相依存的效果：前庭-小脳ネットワークが歩行と姿勢に与える影響. 第52回日本臨床神経生理学学会. 2022年11月. 口述, 国立京都国際会館 (京都府) .

- 2) 佐野伸之, 中藪寿人. リストバンド型活動量計と自己報告による睡眠時間の測定精度の検討. 第56回日本作業療法学会. 2022年9月. 国立京都国際会館 (京都府)

研究費取得:

- 1) 中藪寿人. 運動野に可塑性を誘導する新規非侵襲的脳刺激法の開発: その神経基盤と臨床応用. 日本学術振興会 基盤研究(B) 2022年 - 2025年. (代表)
- 2) 光武翼. ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的研究. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020- 2023年度. (分担)
- 3) 松藤佳名子. キメラ視覚画像刺激を用いた半側空間無視におけるプリズム順応効果の検証. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021- 2023年度. (分担)
- 4) 緒方勝也. 脳状態依存刺激を活用した手指分離運動の神経基盤解明とリハビリへの応用. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021- 2024年度. (分担)

## 9) 佐野 伸之 講師

学歴: 吉備国際大学保健科学部作業療法学科 卒業

吉備国際大学大学院保健科学研究科保健科学専攻修士課程、博士課程 修了

職歴: 一般財団法人津山慈風会津山中央病院 作業療法士

株式会社アール・ケア 作業療法士

吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科 ティーチングアシスタント

神戸医療福祉大学社会福祉学科 非常勤講師

吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科 講師)

国際医療福祉大学福岡保健医療学部作業療法学科 講師)

福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科 講師)

資格: 作業療法士、認定作業療法士、作業療法士実習指導者

修士 (保健学)、博士 (保健学)

原著:

- 1) 佐野裕和, 佐藤恭子, 川上浩一郎, 大橋仁美, 平田哲男, 佐野伸之: 短時間通所リハビリテーションの利用終了に向けた取り組み. -利用者の活動・参加に焦点を当てた後方視的調査-. 作業療法ジャーナル 56: 666-669, 2022
- 2) Nobuyuki Sano, Takanori Taniguchi, Hisato Nakazono: Influence of upper limb activity on the step count and accuracy of sleep time of a wristband-type physical activity tracker. PLOS ONE 17(7): e0271155, 2022

講演:

- 1) 令和4年度福岡県作業療法士協会 第5回SV講習会 講義5 職業倫理および連携論 (講師), 2022年2月26-27日
- 2) 令和3年度高取公民館事業 高齢者教室: 「認知症予防と免疫力アップ!」 (講師), 2022年3月16日
- 3) 熊本県作業療法士会精神科分野研修会: 「地域生活支援に貢献できる作業療法士の心得-地域資源の活用・他職種の期待に応えるには-」 (講師), 2022年9月13日

学会発表:

- 1) 佐野伸之, 榎田真吾: 母指CM関節症に対する靭帯再建関節形成術後の運動機能改善に伴う身体活動量の関連. 第12回国際医療福祉大学学会学術大会, 2022
- 2) 佐野伸之, 中藪寿人: リストバンド型活動量計と自己報告による睡眠時間の測定精度の検討. 第56回日本作業療法学会, 2022
- 3) 佐野裕和, 佐野伸之: 地域包括ケア病棟での在宅復帰に向けたMTDLPの有用性の報告-ケースシリーズ-. 第56回日本作業療法学会, 2022
- 4) 南征吾, 小林隆司, 佐野伸之, 菅沼一平, 青木秀哲: 「家族介護者の生活行為への関与」に関する質問紙の併存妥当性の検討-在宅生活を支援する家族介護者の心境の整理-. 第56回日本作業療法学会, 2022

- 5) 中村裕美, 森正樹, 上原美子, 森田満里子, 佐野伸之: 小学校児童の友人や教師との交流に対する母親認識に影響を与える要因—母子 4480 組の横断的調査—. 第 56 回日本作業療法学会, 2022
- 6) 齋藤みのり, 佐野伸之: 利用者の希望する作業を引き出し, 支援者の「難しい」を「出来そう」に変える支援—生活介護事業所での支援員への間接支援を通して—. 第 56 回日本作業療法学会, 2022
- 7) 松本健太郎, 佐野伸之: リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法を併用したパーキンソン病患者に対する介入. 第 56 回日本作業療法学会, 2022

研究費取得:

- 1) 佐野伸之: 達成動機の本質に基づく客観的評価法の開発と介入プログラムの作成. 科学研究費助成事業 若手研究 (代表者) 2020 年 4 月-2024 年 3 月
- 2) 佐野伸之: 活動・参加を促すリハビリテーション支援に関する 身体活動量の客観的指標と自己評価指標の関連. 令和 3 年度学内研究費 (代表者) 2021 年 10 月-2022 年 3 月

社会的活動:

所属職能団体

- 日本作業療法士協会: 日本作業療法学会演題審査委員 (2018 年 1 月~現在)
- 福岡県作業療法士会: 福岡県作業療法学会査読委員 (2019 年 7 月~現在), ジャーナル「作業療法・福岡」論文査読委員 (2019 年 9 月~現在)
- 九州作業療法学会: 九州作業療法学会 演題査読者 (2020 年 1 月~現在)
- 日本臨床作業療法学会: 学術誌「日本臨床作業療法研究」査読委員 (2020 年 10 月 ~現在), 「日本臨床作業療法研究」編集委員 (2021 年 4 月 ~現在)

#### 10) 吉田 亮平 助教

学歴: 国際医療福祉大学大学院修士課程修了、博士課程単位取得後退学

職歴: 柳川リハビリテーション病院・高邦会グループ病院、柳川リハビリテーション学院  
福岡国際医療福祉学院、福岡国際医療福祉大学

資格: 作業療法士、 修士 (保健医療学)

社会的活動:

- 所属職能団体 日本作業療法士協会 (養成教育委員会臨床実習指導者検討班班員)
- 福岡県作業療法協会 (事業部部員)

#### 11) 木村 まり子 助教

学歴: 熊本リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修了

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士課程在学中

職歴: 社会福祉法人こぐま福祉会 肢体不自由児通園施設こぐま学園

おがた小児歯科医院 発達保育科

熊本県福祉総合相談所 発達障害児通園指導事業

玉名市・荒尾市社会福祉協議会 在宅障害児指導事業

久山町・粕屋町ことばの教室

介護老人保健施設 ケアプラザ伊都

福岡国際医療福祉学院

福岡国際医療福祉大学

資格: 作業療法士、介護支援専門員、感覚統合療法認定セラピスト/認定講習会インストラクター  
修士 (保健医療学)

学会発表:

- 1) 木村まり子: 作業療法士における保育園支援の取り組み—問題行動を呈する園児対応に苦慮する保育士へのコンサルテーション— 第 5 回リハビリテーション科学研究会 2022 年 2 月 11 日 (土) 福岡国際医療福祉大学

研究費取得：

木村まり子:Weighted Blanket の重量が ASD 児の行動に与える影響. 令和 4 年度学内研究費(代表者)  
2022 年 10 月-2023 年 3 月

社会的活動：

地域活動への参加・協力

博多区保育園へのコンサルテーション

博多区児童発達支援施設へのコンサルテーション

所属職能団体

日本作業療法士協会、福岡県作業療法士会、日本感覚統合学会、日本小児保健協会

12) 平賀 勇貴 助教

学歴：九州大学大学院医学系学府医療経営管理学専攻終了

職歴：福岡豊栄会病院

福岡リハビリテーション病院

国際医療福祉大学福岡医療学部作業療法学科

資格：作業療法士，認定作業療法士，福祉住環境コーディネーター2 級

AMPS 認定評価者，作業療法士実習指導者

原著：

- 1) Yuki Hiraga, Akira Babazono, Ryusei Hara, Katsuhiro Nomiyama, Yoshiyuki Hirakawa: Rehabilitation interventions incorporating self-management improve psychological factors: A non-randomized controlled trial of patients after total Knee arthroplasty. Cogent Psychology 9, 2022.
- 2) 林利治, 平賀勇貴:脳卒中片麻痺患者における日常生活活動能力と上肢機能および上肢使用頻度, 自己効力感の関係性:変化量を用いた予備的検討. 作業療法・福岡 20 : 37-41, 2022.
- 3) 水之江彩, 平賀勇貴:肘部管症候群術後にばね指を呈した事例に対し機能的介入と認知行動療法を併用した実践. 作業療法・福岡 20 : 79-82, 2022.
- 4) Ryusei Hara, Yuki Hiraga, Yoshiyuki Hirakawa: Occupational Therapy Using Coping Lists After Total Knee Arthroplasty: A Case Series. Cureus 14(7), 2022.
- 5) Yuki Hiraga, Shinya Hisano, Ryusei Hara, Yoshiyuki Hirakawa: Factors associated with early step count of patients after total knee arthroplasty: a prospective cohort study. Philippine Journal of Allied Health Sciences 6(1): 23-31, 2022.
- 6) Yuki Hiraga, Toshiharu Hayashi: Mediating Effect of Upper Limb Use on the Relationship Between Upper Limb Performance and Activities of Daily Living: A Longitudinal Mediation Analysis. Cureus 14(10): 2022.

総説：

- 1) 平賀勇貴:人工膝関節置換術後の作業療法. 作業療法ジャーナル 56(8) : 834-839, 2022.
- 2) 原竜生, 平賀勇貴, 許山勝弘, 川上隆三, 平川 善之:下腿骨骨折-脛骨骨幹部骨折における作業療法. 作業療法ジャーナル 56(8) : 840-845, 2022.
- 3) 平賀勇貴:CRPS の疼痛マネジメント. 日本ハンドセラピィ学会誌 15 (1) : 23-29, 2022.

講演：

- 1) リハオンデマンド主催オンライン講演会 1 月 21 日  
「疼痛・心理社会的評価について」
- 2) リハオンデマンド主催オンライン講演会 2 月 18 日  
「慢性疼痛に対する作業療法実践」
- 3) リハオンデマンド主催オンライン講演会 3 月 18 日  
「慢性疼痛に対する患者教育」
- 4) リハテックリンクス主催オンライン講演会 3 月 23 日  
「変形性膝関節症(人工膝関節置換術後)患者の患者指導・生活管理の実際」

- 5) 第34回日本ハンドセラピィ学会学術集会 Clinical Point Seminar 4月17日  
「CRPSの疼痛マネジメント」
- 6) 第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 シンポジウム 6月11日  
「痛みの作業療法」
- 7) リハテックリンクス主催オンライン講演会 6月28日  
「痛みの概要」
- 8) リハテックリンクス主催オンライン講演会 7月13日  
「目標設定と作業療法実践の重要性」
- 9) リハテックリンクス主催オンライン講演会 7月20日  
「患者教育を併用した作業療法実践」
- 10) リハテックリンクス主催オンライン講演会 7月27日  
「Activity pacingを併用した作業療法実践」
- 11) 福岡県作業療法協会福岡ブロック研修会 8月10日  
「クリニカルクエスチョンからの文献検索」
- 12) リハテックリンクス主催オンライン講演会 8月17日  
「TKAの概要」
- 13) リハテックリンクス主催オンライン講演会 8月23日  
「TKAに対する作業療法」
- 14) 福岡県作業療法協会筑後ブロック研修会 11月9日  
「作業療法士に必要な疼痛の基礎知識」

研究費取得：

- 1) 原竜星, 平賀勇貴, 平川善之：福岡県作業療法協会 次世代を担う研究助成事業. 2022年4月-2023年3月. (研究分担者)

社会的活動：

所属職能団体

日本作業療法士協会：学術部, 学術誌「作業療法」第一査読者

日本作業療法学会演題査読委員

福岡県作業療法協会：教育部コア研修, 学術誌「作業療法・福岡」第一査読者

福岡県作業療法学会演題査読委員

日本ペインリハビリテーション学会：代議員, ガイドライン委員会

日本ペインリハビリテーション学会演題査読委員

九州作業療法学会：九州作業療法学会演題査読委員

13) 松田 大輝 助教

学歴：長崎大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻 卒業

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 保健学専攻 修士課程 修了

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 博士課程 修了

職歴：医療法人 真和会 山中内科消化器科医院

日本赤十字社 長崎原爆病院

福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科 助教

資格：作業療法士, 修士 (作業療法学)、博士 (医学)

原著：

- 1) Yuta Ikio, Akira Sagari, Akira Nakashima, Daiki Matsuda, Terumitsu Sawai, Toshio Higashi. Efficacy of combined hand exercise intervention in patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy: a pilot randomized controlled trial. Supportive care in cancer: official journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer 30(6) 4981-4992, 2022
- 2) Akira Nakashima, Takefumi Moriuchi, Daiki Matsuda, Jirou Nakamura, Kengo Fujiwara, Yuta Ikio,

Takashi Hasegawa, Wataru Mitunaga, Toshio Higashi. Continuous Repetition Motor Imagery Training and Physical Practice Training Exert the Growth of Fatigue and Its Effect on Performance. Brain Sciences 12(8) 1087-1087, 2022

研究費取得：

- 1) 松田大輝. 没入型VRを用いた新しい運動イメージトレーニングプログラムの効果に関する検証. 日本学術振興会 科研費 若手研究 2022-2025年度. (代表)



## 8.4 視能訓練学科

### (1) 教員紹介

教員：吉富健志（教授・学科長）

飛松省三（教授：生理学）、財津裕一（教授：公衆衛生）、森 望（教授：解剖学、生理学、薬理学）  
堀川悦夫（教授：認知神経心理学）、橋本勇希（准教授）、松藤佳名子（准教授）、佐々木信（講師）、  
田村省吾（講師）、潮井川修一（助教）、王美蘭（助教：中国語）、本居快（助教）

#### 1) 吉富健志 学科長、教授

学歴：九州大学医学部

九州大学大学院医学研究科博士課程修了

職歴：九州大学医学部付属病院

米国Yale大学Research Associate

北里大学医学部眼科講師

和歌山県立医科大学眼科助教授

秋田大学医学部付属病院眼科教授

資格：医師（日本眼科学会認定眼科専門医、指導医）、視覚障害者用補装具適合判定医師  
博士（医学）

役員歴：日本眼科学会常務理事、日本緑内障学会監事、日本神経眼科学会理事

日本視野画像学会理事、日本眼薬理学会理事、日本自律神経学会評議員

原著：

- 1) Ishikawa M, Nakazawa T, Kunikata H, Sato K, Yoshitomi T, Krishnan K, Covey DF, Zorumski CF, Izumi Y. The Enantiomer of Allopregnanolone Prevents Pressure-Mediated Retinal Degeneration Via Autophagy. *Front Pharmacol.* 2022 Mar;16:13:855779.
- 2) Fujiwara K, Yasuda M, Hata J, Nakano S, Hashimoto S, Ueda E, Nakamura S, Murakami Y, Nakamuro T, Iwase A, Araie M, Tawara A, Kubota T, Yoshitomi T, Ninomiya T, Sonoda KH. Prevalence of Glaucoma and Its Systemic Risk Factors in a General Japanese Population: The Hisayama Study. *Transl Vis Sci Technol.* 2022 11(11):11.
- 3) Haneda M, Hashimoto Y, Mishima A, Saito D, Yoshitomi T. Changes in choroidal circulation hemodynamics during the menstrual cycle in young, healthy women. *PLoS One.* 2022 17(6): e0270501.
- 4) 橋本 勇希, 井川 玲菜, 堺 優衣, 吉村 美希, 石丸 侑実, 千代蘭 好歩, 今林 櫻子, 梅本 璃乃, 吉富 健志. 脈絡膜形態および全身の循環動態の季節変動 日本視能矯正学会プログラム抄録集 63 回 Page53 (2022. 10)
- 5) 橋本 勇希, 羽田 満愉美, 三島 愛理, 齋藤 大智, 吉富 健志. 月経周期における脈絡膜形態および循環動態の検討, 国際医療福祉大学学会誌 27 巻抄録号 Page95 (2022. 08)
- 6) 橋本 勇希, 今林 櫻子, 石丸 侑実, 梅本 璃乃, 吉富 健志. 冷却ストレス試験における脈絡膜循環動態の変化: 眼科臨床紀要 15 巻 11 号 Page753-754 (2022. 11)
- 7) 吉富 健志. 眼科勤務医の未来について: 日本の眼科 93 巻 9 号 Page1286-1287 (2022. 09)
- 8) 坂田 礼(東京大学), 吉富 健志, 新家 眞, LNPG 研究班低眼圧原発開放隅角緑内障における機能と構造の先行悪化とそれらの関連因子. 日本緑内障学会抄録集 33 回 Page175 (2022. 09)
- 9) 藤原 康太(九州大学), 上田 瑛美, 橋本 左和子, 中村 駿, 秦 淳, 中野 聡子, 村上 祐介, 久保田 敏昭, 吉富 健志, 二宮 利治, 園田 康平. 日本人地域住民における角膜ヒステリシスと緑内障の関連 久山町研究. 日本緑内障学会抄録集 33 回 Page144 (2022. 09)
- 10) 橋本 勇希(福岡国際医療福祉大学), 羽田 満愉美, 三島 愛理, 齋藤 大智, 吉富 健志. 正常月経周期における脈絡膜循環動態の変化. 日本眼科学会雑誌 126 巻臨増 Page280 (2022. 03)
- 11) 石川 誠(東北大学), 佐藤 大夢, 佐藤 孝太, 國方 彦志, 吉富 健志, 中澤 徹. ラット緑内障モデルにおける神経ステロイド光学異性体の神経保護作用. 日本眼科学会雑誌 126 巻臨増 Page252 (2022. 03)
- 12) 福田 佳子(山梨大学), 柏木 賢治, 豊浦 正広, 茅 暁陽, 村尾 晃平, 佐藤 真一, 二宮 洋一郎, 川瀬 和秀, 谷戸 正樹, 中澤 徹, 三木 篤也, 森 和彦, 吉富 健志. 眼底写真による緑内障重症度判

定能の医師と人工知能の比較：日本眼科学会雑誌 126 巻臨増 Page178 (2022. 03)

13) 柏木 賢治(山梨大学), 豊浦 正広, 茅 暁陽, 川瀬 和秀, 谷戸 正樹, 中澤 徹, 三木 篤也, 森和彦, 吉富 健志. 医師による緑内障判定に対する人工知能の影響：日本眼科学会雑誌 126 巻臨増 Page177 (2022. 03)

講演：

- 1) 緑内障と OCT 九大Glaucoma Surgery Seminar. 2022 年 2 月 4 日
- 2) 加齢による視覚の病気・緑内障 福岡国際医療福祉大学医療学部 地域公開講座 2022 年 6 月 25 日
- 3) 緑内障と OCT の新しい流れ. 福岡ブロック眼科懇話会 2022 年 6 月 28 日

社会的活動：

一般社団法人臨床試験医師養成協議会委員  
(独) 医薬品医療機器総合機構 医療機器審査委員  
水俣病認定審査委員会専門委員

## 2) 財津裕一 教授

学歴：九州大学医学部

職歴：九州大学医学部小児科助手

米国 W. A. J. Cell Science Center Research Fellow

福岡県筑紫保健福祉環境事務所所長

資格：医師（産業医、小児科専門医）、医学博士

社会的活動：

地方自治体の事業への協力：福岡市や福岡県の市民公開講座や研修会の講師

## 3) 森 望 教授

学歴：東京大学薬学部

東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了

職歴：東邦大学薬学部助手

米国シティーオブホープ研究所研究員

米国カリフォルニア工科大学研究員

米国ハワードヒューズ医学研究所上級研究員

米国南カリフォルニア大学アンドラス老年学研究所助教授

科学技術振興機構さきがけ研究 2 1 「遺伝と変化」領域研究者

国立長寿医療研究センター（分子遺伝学研究室）部長

名城大学大学院総合学術研究科特任教授

科学技術振興機構「脳を守る」戦略研究代表者

長崎大学医学部教授（第一解剖）

長崎大学附属図書館長

資格：薬学博士

著書論文：

- 1) Mori N, Oki H, Sasaki A, Mori M, Nakazawa T, Evaluating the brain aging through eyes: The potential use of hyperspectral imaging cameras to diagnose Alzheimer's disease risk, in "Aging Mechanisms II" Mori N (ed.) Springer (2022)
- 2) 森望、長寿のサイエンス、New Diet Therapy 38 (3), 37-42 (2022)
- 3) 森望、寿命の秘密、未病と抗老化 31, 77-82 (2022)

著書：

- 1) Mori N (ed.): "Aging Mechanisms II: Longevity, Metabolism, and Brain Aging" Springer (2022)
- 2) トーマス・O・マクラケン、森望・吉田成孝（監訳）、福知里恵（訳）完全人体図鑑、ニュートンプレス (2022)

科学解説記事：

- 1) 森望、脳をみる「窓」としての網膜の可能性、*BRAIN and NERVE* 74 (6), 824-825 (2022)
- 2) 森望、レンブラント絵画の中の「脳と神経」、*BRAIN and NERVE* 74 (8), 1040-1041 (2022)
- 3) 森望、幕末志士たちの解剖学講義：「長崎精得館受業生十三士」古写真の謎解き、解剖学ひろば（日本解剖学会一般向け公開サイト）（2022.8）
- 4) 森望、スマホの眼から見る世界、*眼科ケア* 24 (11), 76 (2022)
- 5) 長寿科学振興財団機関紙『エイジングアンドヘルス』最新研究情報  
 森望：間欠絶食へのクロトー遺伝子の効能：海馬での神経再生を促し長期記憶を増強する  
 森望：XXの秘密：女性はなぜ長生きなのか？  
 森望：エクソソームの新世界：循環細胞外小胞（cEV）が老いを防ぐ  
 森望：体細胞突然変異説の復活：ビッグデータの時代にみるゲノムの変異率と動物寿命  
 森望：若さのエキス：脳脊髄液の威力
- 6) 森望：老化研究最前線、*基礎老化研究* 46 (3) 53-54 (2022)
- 7) 森望：老いの蘭学、*基礎老化研究* 47 (1) 45-46 (2023)

講演：

- 森望：「寿命遺伝子からみる老化脳制御」RUPAFIN 学術講演会、出島メッセ長崎（3. 19. 2022）  
 森望：「オランダ絵画にみる解剖学：阿蘭陀外科医のサーファクタントトレーニングとしての解剖学教育」第127回日本解剖学会教育講演 大阪大学箕面新キャンパス（Web 開催）（3. 27-29, 2022）  
 森望：「長寿のサイエンス」日本臨床栄養協会レベルアップセミナー ラジオNIKKEI（東京、虎ノ門）（6. 29, 2022）

社会的活動：

役員歴：日本基礎老化学会理事、日本老年学会理事、国際放射線神経生物学会（ISRN）理事、  
 日本神経化学会評議員、日本生化学会評議員、  
 長崎メンタルヘルス研究会理事、脳の医学生物学研究会会長  
 福岡市総合図書館運営審議会委員など

#### 4) 飛松省三 教授

学歴：九州大学医学部 医学博士

職歴：九州大学医学部附属病院

九州労災病院

シカゴ・ロヨラ大学医学部神経内科

九州大学医学部

九州大学大学院医学研究院

資格：医師（日本神経学会専門医）

医学博士（九州大学）

九州大学名誉教授

原著：

- 1) Taniguchi N, Hironaga N, Mitsudo T, Tamura S, Yamaura K, Tobimatsu S: Late responses in the anterior insula reflect the cognitive component of pain: evidence of non-pain processing. *PAIN Reports*, 7 (2): e984, 2022. doi: 10.1097/PR9.0000000000000984
- 2) Matsubara T, Stufflebeam S, Khan S, Ahveninen J, Hämäläinen M, Goto Y, Maekawa T, Tobimatsu S, Kishida K: Weighted blind source separation can decompose the frequency mismatch response by deviant concatenation: An MEG study. *Front Neurol*, 25 February 2022 | <https://doi.org/10.3389/fneur.2022.762497>
- 3) Yamashita K, Uehara T, Taniwaki Y, Tobimatsu S, Kira J-K: Long-term Effect of Acetylcholinesterase Inhibitors on the Dorsal Attention Network of Alzheimer's Disease Patients: A Pilot Study Using Resting-state Functional Magnetic Resonance Imaging. *Front Aging Neurosci*. 2022; 14: 810206. doi: 10.3389/fnagi.2022.810206
- 4) Mitsudo H, Hironaga N, Ogata K, Tobimatsu S: Large-scale cortico-cerebellar computations for horizontal and vertical vergence in humans. *Sci Rep*, 2022 Jul 8;12(1):11672. doi:

10. 1038/s41598-022-15780-9.

5) 飛松省三, 柳原一照: 脳波・脳波計・EEG. 生体医工学 Web 辞典. <https://doi.org/10.11239/jsmbe.Dictionary.1.1>, 2022.

6) 飛松省三, 山崎貴男: 空間認知障害とそのメカニズム. 自閉スペクトラム症. *Clinical Neuroscience*, 40(1): 99-103, 2022.

7) 飛松省三: 脳波の基礎 -測定原理とモニタージュ. *Clinical Neuroscience*, 40(4): 414-419, 2022.

8) 飛松省三: 診療に役立つ免疫性中枢神経疾患の神経生理検査とその解釈. 日本臨床 免疫性神経疾患 (第2版) -基礎・臨床の最新知見-, 80 増刊号: 83-90, 2022.

9) 宇佐美清英, 赤松直樹, 飯村康司, 井内盛遠, 今村久司, 榎日出夫, 木下 真幸子, 國井尚人, 小林勝弘, 小林勝哉, 酒田あゆみ, 重藤寛史, 下竹昭寛, 神 一敬, 菅野秀宣, 田中章浩, 千葉 茂, 寺田清人, 飛松省三, 夏目 淳, 原 恵子, 人見健文, 本多正幸, 前原建寿, 松本理器, 三枝隆博, 矢部博興, 山野光彦, 池田昭夫: 臨床脳波の諸問題に関する情報共有と提言 -脳波セミナー・アドバンスコース小委員会レポート-. *臨神生*, 50 (3): 107-112, 2022.

#### 著書:

- 1) 飛松省三: イラストレイテッド 脳波1・2・3 波形の診かた、考え方. 金芳堂, 2022.

#### 学会発表:

- 1) 飛松省三: 脳波判読のABC. PD エキスパート WEB セミナー. 2022 年 5 月 30 日. 特別講演.
- 2) 飛松省三: 脳科学の視点からみた VEP の基礎と臨床応用. 第 78 回日本弱視斜視学会総会. 2022 年 6 月 17 日. 特別講演.
- 3) 飛松省三: 臨床神経生理からみた経度認知障害と自閉スペクトラム症の病態: システムコパチーとコネクトパチー. 第 27 回認知神経科学学会学術集会. 2022 年 8 月 7 日. 特別講演.
- 4) Shozo Tobimatsu: Discovery of ABR and VEP: Their contributions to clinical Neurophysiology. Nov. 25, 2022, JSCN 2022, Kyoto, Symposium.
- 5) 飛松省三: デジタル脳波のトリセツ. -Tips & Pitfalls-. 第 52 回日本臨床神経生理学会. 2022 年 11 月 26 日, ランチョンセミナー.

#### 研究助成金

日本学術振興会 基盤 C 代表者 "2020~2022" 1,300,000

視覚はよみがえるのか? 弱視と視覚系神経ネットワークの可塑性

#### 社会的活動:

役員歴: 認知神経科学学会理事、国際複合医学会理事(元理事長)、日本臨床神経生理学会名誉会員、日本生体磁気学会名誉会員、日本脳機能マッピング学会名誉会員など

#### 5) 堀川悦夫 教授

学歴: 最終学歴 東北大学大学院博士課程 (情報生物学) 中退

職歴: 日本学術振興会 特別研究員、

東北大学医療技術短期大学部 助教授、

文科省在外研究員、

米国ミシガン大学 老年医学研究センター (モビリティリサーチセンター) 客員研究員

東北大学医学部 助教授、

佐賀大学医学部 認知神経心理学分野 教授、同、大学院教授、

佐賀大学医学部附属病院 動作解析・移動支援開発センター長、

同 医学部 地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門長、

(公財) 交通事故総合分析センター 客員研究員、同 特別研究員、

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科 教授

国際医療福祉大学大学院 特別教授

国立長寿医療研究センター 運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム 理事

日本安全運転医療学会 評議員

佐賀大学医学部 脳神経内科 客員研究員

学位・資格：博士（学術）東北大学 博士（医学）東北大学，佐賀大学名誉教授  
公認心理師、臨床神経心理士（新規取得）、臨床心理士、  
DRS（米国運転リハビリテーション専門士 基礎資格）、  
介護福祉士、厚労省認定ジョブコーチ（職場適応援助者）

原著：

- 1) 堀川悦夫、加齢と自動車運転、高齢者運転の提言、第2章日本老年学会高齢者運転提言委員会
- 2) 堀川悦夫、高齢ドライバーの安全運転、特集 障害者・高齢者の車両運転と安全、総合リハ、vol. 50 No. 10, 1177-1183, 2022

学会発表：

- 1) 林 和洋、中山孝二、森田剛之、堀川悦夫、「脳卒中後遺症患者における運転シミュレータ評価と実車運転評価の関連の分析」、日本リハビリテーション医学会、2022/6/3
- 2) 堀川悦夫、原 照子、江里口 誠、軽度認知機能低下により経過観察となっている症例からの示唆、日本認知症予防学会 2022/9/24 浦上賞（学会創設者の賞）受賞
- 3) Daichi Arai, Shogo Motoyama, Kosei Nojiri, Hirofumi Ohtsuka, Etsuo Horikawa, "Development of Synchronous Multisensor Data Storage System for Driving Behavior Analysis", The 16th International collaboration Symposium on Information, Production and Systems (ISIPS 2022), B1-5 (6706), Kitakyushu, Fukuoka, Japan, Oct., 2022. ポスター発表奨励賞受賞.
- 4) 本山 翔梧, 大塚 弘文(熊本高等専門学校), 堀川悦夫(福岡国際医療福祉大学), 「AI による物体検出手法を応用した運転ペダル操作特徴の抽出」, 日本福祉工学会第 26 回学術講演会, No. 504, 2022, 11 月. <http://www.jswe.jp/past/2022program.pdf>
- 5) 江崎統満, 中川岬, 大塚弘文(熊本高専), 荒田晃慎(バトン合同会社), 野尻紘聖(熊本高専), 堀川悦夫(福岡国際医療福祉大学), 「バトンペダルの有効性検証とその改良に向けて」, 日本福祉工学会九州支部大会 2022, 講演番号 A2-2, 大分大学, 2022, 12 月. <http://www.jswe.jp/division/kyushu/2022/entry.html>
- 6) 10) D. Arai, S. Motoyama, K. Nojiri, H. Ohtsuka and E. Horikawa, "Analysis of Following Driving Characteristics of Vehicle Ahead Using Multisensor Data Storage System", The 1st Kosen Research International Symposium (KRIS2023, 第1回高専研究国際シンポジウム), P-2(B), March, 2023.
- 7) 堀川悦夫、脳神経内科やもの忘れ外来での軽度認知機能低下（MCI）の方の運転可否判断における神経心理学的検査と他の指標との関連の分析、第2回日本公認心理師学会学術集会、2022. 12. 11
- 8) 堀川悦夫、本山翔梧、大塚弘文、高齢患者のペダル踏み間違い原因解明に向けたAIによる自動解析手法の構築とその成果、2022/12/17 日本安全運転医療学会
- 9) 田中友章、松下 航、堀川悦夫、運転可否判断を必要とする外来患者におけるデュアルタスクコストの分析、日本安全運転医療学会、2022/12/17
- 10) 松下航、田中友章、原照子、鈴山耕平、江里口誠、堀川悦夫、自動車運転実施の有無が認知機能に与える影響について - 物忘れ外来受診患者を対象とした探索的横断研究 - 日本安全運転医療学会、2022/12/17

講演：

- 1) 堀川悦夫、高齢者の特性に応じた交通安全教育、福岡県警 警察署長会議、2022/04/20
- 2) 堀川悦夫、運転可否判断と運転リハビリテーション、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム、Automated Driving Live News, Z世代とこれからのモビリティを語るリアルトーク 第3回「高齢家族の移動と向き合う 一視野障害や認知機能低下に見られる高齢者の運転問題一」 2022/07/21/内閣府によるYouTube 配信
- 3) 堀川悦夫、運転断念その前にできること、福岡国際医療福祉大学 公開講座、2022/6/25
- 4) 堀川悦夫、ペダル踏み間違い事故防止に関する提案 メディカルドライブレコーダーによる日常的運転行動記録と、ペダル踏み間違い対応訓練、福岡国際医療福祉大学セミナー 2022/08/18
- 5) 堀川悦夫、データに基づく交通安全教育を目指して 一認知機能、加齢、モビリティ一、福岡県安全運転管理者講習会 2022/7/29
- 6) 堀川悦夫、データに基づく交通安全教育を目指して 一認知機能、加齢、モビリティ一、福岡県

安全運転管理者講習会 2022/9/20

7) 堀川悦夫、ペダル踏み間違い事故防止に関する提案 —メディカルドライブレコーダーによる日常的運転行動記録とペダル踏み間違い対応訓練—、Fun & Safety プロジェクト最終審査会、トヨタモビリティ基金 福島県 2022/11/7

8) 堀川悦夫、七條千佳、池田宗平、井手俊宏、井上美和、原 照子、鈴山耕平、江里口 誠、症例に基づいた運転可否判断の実際について —佐賀大学医学部附属病院もの忘れ外来の症例を通して考える—、佐賀県かかりつけ医研修会、2023/1/16

#### 研究費取得

- 1) 堀川悦夫 (研究代表者)、2022-24 年度 文科省科研費 (基盤B)、「日常的運転行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明」2022 年度 直接経費 6,100 千円
- 2) 堀川悦夫 (研究代表者)、2022-23 年度、スズキ財団研究助成、「軽度認知機能低下群の運転可否判断と、小形電動車(セニアカー) 利用者の移動に関する、車両挙動解析に基づく連続的モビリティ支援開発」2022-2023 年度 直接経費合計 2,000 千円
- 3) 堀川悦夫 (研究代表者)、日立ケーイーシステムズ、共同研究、高齢者用運転シミュレータの機能向上、2022-23 年度 直接経費 800 千円
- 4) 堀川悦夫 (研究代表者) 日本損害保険協会自賠責益還元事業による研究助成事業 「高齢者の運転再教育および運転リハビリテーションによる運転期間延伸手法の科学的論証と体系化に関する研究」(2019 年度からの佐賀大学医学部への研究助成の継続課題 2022 年度分 1,680 千円  
堀川悦夫 (研究代表者)、共同研究 2 件 (NDA により明記せず)

#### 6) 橋本勇希 准教授

学歴：川崎医療福祉大学感覚矯正学科 卒業

川崎医療福祉大学大学院医療技術学部感覚矯正学科 修了 修士 (感覚矯正学)

北海道大学大学院医学研究院医学専攻 修了 博士 (医学)

職歴：北海道大学病院眼科 入職

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科 准教授

国際医療福祉大学大学院 特別准教授

資格：視能訓練士 博士 (医学)

原著：

- 1) Umemoto R, Hashimoto Y\*, Imabayashi S, Yoshitomi T. Changes in choroidal thickness in healthy participants after induction of sympathetic hyperactivity using the cold pressor test. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 261: 585-587, 2022.
- 2) Haneda M, Hashimoto Y\*, Mishima A, Saito D, Yoshitomi T. Changes in choroidal circulation hemodynamics during the menstrual cycle in young, healthy women. *PLoS One* 17: e0270501, 2022.
- 3) Hirooka K, Saito M, Yamashita Y, Hashimoto Y, Terao N, Koizumi H, Noda K, Ishida S. Imbalanced choroidal circulation in eyes with asymmetric dilated vortex vein. *Jpn J Ophthalmol* 66: 14-18, 2022.

講演：

- 1) 橋本勇希. セレンディピティな網膜画像検査～ここからもう一步先に踏み出すために～. 第92回九州眼科学会, 2022, 沖縄.
- 2) 橋本勇希. 網膜検査に求められる対応力. 中四国視能訓練士会第36回研究会. 2022, 岡山.

学会発表：

- 1) 橋本勇希, 坂元亜美, 中野涼花, 佐藤祥伍, 今林櫻子, 吉富健志. 第61回日本網膜硝子体学会, 2022, 大阪.
- 2) 橋本勇希, 井川玲菜, 堺優衣, 吉村美希, 石丸侑実, 千代蘭好歩, 今林櫻子, 梅本璃乃, 吉富健志. 第63回日本視能矯正学会, 2022, 大阪.
- 3) 橋本勇希, 羽田満愉美, 三島愛理, 齋藤大智, 吉富健志. 月経周期における脈絡膜形態および循環

動態の検討. 第12回国際医療福祉大学学会, 2022, 大田原.

4) 橋本勇希, 梅本璃乃, 今林櫻子, 石丸侑実, 千代藪好歩, 吉富健志. 正常眼における寒冷刺激試験後の脈絡膜形態変化. 第38回日本眼循環学会, 2022, 富山.

5) 橋本勇希, 石丸侑実, 千代藪好歩, 今林櫻子, 梅本璃乃, 吉富健志. 網脈絡膜循環動態の日内変動の検討. 第37回九州機能研究会, 2022, 鹿児島.

6) 橋本勇希, 羽田満愉美, 三島愛理, 齋藤大智, 吉富健志. 正常月経周期における脈絡膜循環動態の変化. 第126回日本眼科学会, 2022, 大阪.

7) 今林櫻子, 梅本璃乃, 石丸侑実, 千代藪好歩, 橋本勇希. 脈絡膜血管における自己調節能の検討. 第22回北海道視能研究会. 2022, 札幌

8) 梅本璃乃, 今林櫻子, 石丸侑実, 千代藪好歩, 橋本勇希. 寒冷刺激試験における脈絡膜形態の変化. 第22回北海道視能研究会, 2022, 札幌.

9) 羽田満愉美, 橋本勇希, 三島愛理, 齋藤大智, 吉富健志. 正常月経周期における脈絡膜循環動態の変化. 第22回北海道視能研究会, 2022, 札幌.

研究費取得: 科研費 (若手)

社会的活動:

所属職能団体

日本視能訓練士協会、日本眼科学会、日本眼循環学会、日本網膜硝子体学会  
国、自治体、公的機関の役員・委員等

国: 視能訓練士国家試験作成委員会 (厚生労働省)

7) 松藤佳名子 准教授

学歴: 東洋大学文学部教育学科卒業

国立小児病院附属視能訓練学院卒業

熊本大学文学研究科人間科学専攻修了

川崎医療福祉大学医療技術学研究科感覚矯正学専攻科満期退学

職歴: 熊本大学医学部付属病院

健康保険組合人吉総合病院

福岡大学病院

福岡国際医療福祉学院

福岡国際医療福祉大学

資格: 視能訓練士 (1986年)

日本視能訓練士協会認定専任教員 (2017年)

修士 (文学 熊本大学 2006年)

講演:

1) 松藤佳名子: プリズム順応と空間知覚. 第7回リハビリテーション科学研究会, 2022, 福岡

研究費取得:

文科省科研費

「キメラ視覚画像刺激を用いた半側空間無視におけるプリズム順応効果の検証」

社会的活動:

地域活動への参加・協力

令和4年度 文部科学省 児童生徒当の近視実態調査研究事業

所属職能団体

公益社団法人日本視能訓練士協会、全国視能訓練士学校協会 (理事)

8) 佐々木信 講師

学歴: 近畿大学九州工学部 経営工学科

北九州市立大学大学院 人間文化研究科 修士課程

産業医科大学大学院 医学研究科 博士課程

福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科

職歴: 医療法人彦星会ふなつ眼科光分院田中眼科

医療法人社団青木眼科  
福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科 専任教員  
医療法人高邦会高木病院 非常勤  
産業医科大学眼科学教室 訪問研究員

資格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員

学位：学士（工学）近畿大学

学士（保健衛生学）独立行政法人大学評価学位授与機構

修士（人間関係学）北九州市立大学

博士（医学）産業医科大学

学会発表：

佐々木信,回折格子（レンチキュラーレンズ）を用いた自然視に近い立体視検査法の開発:  
第12回国際医療福祉大学学会学術大会,大川,2022年8月28日.

研究費取得

科研費 若手研究

「眼の感受性期を考慮した新眼鏡箔による弱視治療法の開発: 視覚誘発電位による検証」  
2022-2024年度

令和4年度学内研究費・一般研究（一般A）

「回折格子（レンチキュラーレンズ）を用いた自然視に近い立体視検査法の開発」

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：令和4年度 文部科学省 児童生徒等の近視実態調査研究事業  
検査業務サポート

日本視能訓練士協会主催 生涯教育 新人教育プログラム技術日程  
視力検査・屈折検査 技術指導講師

所属職能団体：公益社団法人日本視能訓練士協会

## 9) 田村省悟 講師

学歴：九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 卒業

九州保健福祉大学大学院 保健科学研究科 修士課程 修了

九州保健福祉大学大学院 保健科学研究科 博士課程 修了

職歴：九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 副手

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 助手

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 助教

宮崎大学医学部附属病院 眼科 非常勤職員

宮崎県立延岡病院 眼科 非常勤職員

宮崎県済生会日向病院 眼科 非常勤職員

宮崎県立延岡しろやま支援学校 非常勤職員

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科 講師

資格：視能訓練士、博士（保健科学）

講演：

1) 田村省悟. 3歳児健康診査での視能訓練士による視覚検査の有用性. 3歳児健康診査従事者向け研修会—視覚検査で異常を見逃さないための問診・検査のポイント—, 2022, 福岡 (web 研修会).

学会発表：

1) 田村省悟, 岡野真弓, 内川義和, 吉武重徳, 今町亜弥. 3歳児眼科健診の適切な検査実施時期についての検討. 第78回日本弱視斜視学会, 2022, 宇都宮.

研究費取得：

1) 田村省悟. 小児視覚スクリーニングのゴールドスタンダード確立: いつ実施すべきか? 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2022-2023年度. (代表)



社会的活動：

地域活動への参加・協力

地方自治体の事業への協力：

三歳児健康診査における視覚検査の実施、立ち上げ準備（福岡県那珂川市、粕屋郡新宮町、古賀市）  
地域ボランティア活動：本学での新型コロナワクチン職域接種の運営業務補助

所属職能団体：

公益社団法人日本視能訓練士協会、日本弱視斜視学会

全国視能訓練士学校協会（検定・模擬試験ワーキンググループ）

#### 10) 潮井川修一 助教

学歴：福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 視機能療法学分野

職歴：医療法人大塚眼科医院

福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科専任教員

資格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員、MWT ビジョントレーニング指導者、  
修士（保健医療学）

講演：

1) 潮井川修一：乳幼児健診における視力検査・視能訓練について。粕屋ブロック地域保健師研究協議会。2022年6月8日（福岡）

2) 潮井川修一：眼のピント調節の仕組みと眼精疲労。Kyushu Famil'e sports Fes, 2022年8月4日～8月5日（福岡）

3) 潮井川修一：eスポーツと視覚機能の関係を考えよう。eスポーツサイエンス体験会。2022年8月27日（福岡）

学会発表：

1) 潮井川修一。視機能に対するeスポーツの影響について。第12回国際医療福祉大学学会学術大会、大田原、2022

研究費取得：

令和4年度学内研究費（一般研究B奨励）eスポーツプレイにおける眼疲労の評価 ～自覚的評価と他覚的評価の関連について～

社会的活動：

文部科学省 令和4年度「児童生徒の近視実態調査事業」への参加 2022年6月7日、21日

地方自治体の健診事業への参画：三歳児健康診査における視覚検査の実施、立ち上げ準備（粕屋郡新宮町、古賀市）

所属職能団体

日本視能訓練士協会、日本近視学会、視覚発達支援研究会

FeRC（福岡eスポーツリサーチコンソーシアム）：個人会員

#### 11) 王 美蘭 助教

学歴：中国政法大学経済法学部

神戸大学大学院法学研究科 修士、博士課程修了

神戸大学大学院法学研究科

職歴：神戸国際貿易促進協会高級顧問、甲南女子大学、兵庫県立大学、

関西看護医療大学非常勤講師、朝日新聞カルチャーセンター講座講師

資格：福岡地方裁判所司法通訳登録

修士、博士（法学）

#### 12) 本居 快 助教

学歴：愛知淑徳大学健康医療科学部医療貢献学科視覚科学専攻

愛知淑徳大学心理医療科学研究科視覚科学専修 修士博士課程 修了

職歴：愛知淑徳大学健康医療科学部 非常勤講師

資格：視能訓練士

博士（視覚科学）

原著：

本居快・服部玲奈・杉浦巧知：Bangerter フィルター着用下の両眼加算の検討.あたらしい眼科 39  
(2),248-250, 2022.

学会発表：

- 1) 本居快・高橋啓介：Dynamic Troxler effect の基礎的研究.日本視覚学会夏季大会.金沢, 2022
- 2) 本居快・高橋啓介：人工視覚人装用者の学習効果の検討：人工視覚シミュレーターを用い知覚再現実験.Young perceptionists seminar2022,Web,2022
- 3) 本居快・杉浦巧知・國武実里：コントラスト感度測定を用いた遮閉法における眼間抑制の定量比較,大阪,2022

研究費獲得：

令和4年度学内研究費（一般研究B奨励） 単眼視と両眼視の機能差検討—両眼間抑制と両眼加算の関係性について—

社会的活動：第47回YPS2022（視覚心理研究会）の実行委員長

受賞歴：第14回 錯視・錯聴コンテスト 入賞

## 8.5 看護学科

教員：大池美也子（教授、学部長）、高野政子（教授、学科長）

楠葉洋子（教授）、白石裕子（教授）、川口賀津子（教授）、永田忍彦（教授、呼吸器内科）、  
宮崎浩行（教授、呼吸器内科）、三上公治（教授、消化器外科）、山口みどり（准教授）、  
彌永和美（准教授）、梅本直子（准教授）、中野真理子（准教授）、森山ますみ（准教授）、  
黒木司（准教授）、仙波洋子（准教授）、前田和香子（講師）、辻奈美（講師）、高木良重（講師）、  
石橋曜子（講師）、甲斐恭子（講師）、横尾誠一（講師）、吉村千草（助教）、池添貴子（助教）、  
宇治田さおり（助教）、生駒千恵（助教）

### 1) 大池美也子 学部長、教授

学歴：早稲田大学第二文学部英文学専攻卒業

国立療養所南福岡病院付属看護学校卒業

福岡教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻修士課程修了

九州大学人間環境学研究所発達・社会システム専攻単位取得後退学

明星大学大学院教育学研究科教育学専攻修了

職歴：株式会社西嶋製作所

堀田野村法律事務所

九州大学医学部附属病院看護婦（第二外科）

宗像医師会病院手術室兼教育担当看護師長

九州大学医療技術短期大学部 講師・教授

九州大学医学部保健学科看護学専攻教授

九州大学大学院医学研究院保健学部門教授

国際医療福祉大学福岡看護学部教授・学部長

福岡国際医療福祉大学看護学部教授・学部長

資格：看護師、修士（教育学）、博士（教育学）

論文：資料

- 1) Miyako Oike, Chieko Domen, Survey report on the development of a competency model for nurse educators in Japan, The Japanese Association of Medical and Nursing Education, 31(1), 35-43, 2022.

シンポジウム講演

- 1) 大池美也子、看護教育における臨地実習と教育方法、2022年第12回国際医療福祉大学学術集会シンポジウム（福岡）

研究費取得：

文部科学省基盤研究（C） 21K10556 20210401-20240331 看護教員が教育経験を省察しながら育つ「教えることを学ぶ」プログラムの開発と検証（代表）

社会的活動：

地域活動への参加・協力

地域ボランティア活動：花の花（NPO法人）、ハッピーマンマ（NPO法人）

その他：九州・沖縄ケアリングアイランド会議（月1回）

国際医療福祉大学生涯教育センター 保健師助産師看護師実習指導講習会調整会議委員

国際医療福祉大学生涯教育センター 保健師助産師看護師実習指導講習会の講義

国際医療福祉大学生涯教育センター 看護管理ファースト講習会の講義

専任教員養成講習会（福岡県医療指導課）の講義

実習指導者養成講習会（九州地区病院機構）の講義

所属職能団体

日本看護協会 福岡県看護協会 監事

学会活動

日本看護科学学会（代議員）（査読）  
日本看護学教育学会（評議員）（専任査読者）  
日本看護管理学会（評議員）（査読）  
日本がん看護学会（代議員）  
日本看護医療学会（評議員）（査読委員）  
国際医療福祉大学学会誌（査読）

## 2) 高野政子 学科長、教授

学歴：国立福岡中央病院（現九州医療センター）附属看護学校卒業  
大分大学教育学部情報社会文化課程卒業 学士（教育学）  
大分大学教育学研究科博士課程前期修了 修士（教育学）  
広島大学大学院医歯薬研究科博士課程後期修了 博士（保健学）

職歴：兵庫県立こども病院  
大分医科大学（現大分大学医学部）附属病院 看護師, 副看護師長  
大分県立看護科学大学 教授

資格：看護師、修士（教育学）、博士（保健学）、大分県立看護科学大学名誉教授

原著：

- 1) 高野政子：特別支援学校に勤務する教諭の実施する医療的ケアと看護師についての認識：育療，70，20-29，2022
- 2) 草野淳子，高野政子，重症心身障害児（者）施設における特定行為を必要とする入所者の状況と看護管理者の意識：日本小児保健研究，81(1)，68-76，2022

研究費取得

- 1) 文部科学省基盤研究（C） 21K07866 20210602-20240331 小児 AYA 世代のがん経験者や家族の知的・身体的レジリエンスを評価・支援する研究（分担）

社会的活動

地域活動への参加・協力

- ・大分県看護協会主催「2022年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 小児看護学実習」講師
- ・大分県看護協会教育研修「人が育つ実習指導」講師
- ・大分県教育委員会 医療的ケア運営協議会 会長
- ・大分県立特別支援学校第三者評価委員会 会長
- ・第59回九州地区肢体不自由教育研究大会大分大会 指導助言者、2022, 10
- ・令和4年度大分市特別支援教育メディカルサポート事業受託事業者選定委員会 会長

所属職能団体

日本看護協会、日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本小児がん看護学会、日本育療学会、  
日本看護科学学会、日本NP学会、九州・沖縄小児看護教育研究会

学会における活動

日本看護科学学会 専任査読委員  
日本小児がん学会 査読委員  
九州・沖縄小児看護教育研究会 幹事  
日本小児保健協会 令和4年度研究奨励賞（最優秀論文）受賞

## 3) 楠葉洋子 教授

学歴：長崎市立高等看護学院卒業  
明治学院大学社会学部社会学科卒業（社会学士）  
佐賀医科大学（現佐賀大学）大学院医学系研究科修士課程修了（看護学修士）  
佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程修了（医学博士）

職歴：長崎大学医学部附属病院、心臓血管研究所附属病院等における臨床看護師  
医療法人光晴会病院（看護師長）  
セイコーインスツル株式会社 保健年金部（主任）

佐賀大学医学部看護学科助手・准教授  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科准教授・教授  
国際医療福祉大学看護学部教授  
福岡国際医療福祉大学看護学部教授現在に至る

資格：看護師、社会学学士、修士（看護学）、博士（医学）

学会発表

- 1) 藤本裕二、松浦江美、楠葉洋子：地域で暮らす統合失調症者の身体活動量に関する要因の検討、日本看護研究学会雑誌 45(3)、558、2022
- 2) 石橋曜子、楠葉洋子、仙波洋子、生駒千恵：多角的視座から考える看護実践のための教材開発（第1報）：国際医療福祉大学学会誌 27 巻抄録号、13、2022
- 3) 池添貴子、梅本直子、楠葉洋子：リハビリテーション病院における高齢者のスキンケアに関する実態調査、国際医療福祉大学学会誌 27 巻抄録号、66、2022
- 4) 生駒千恵、楠葉洋子：COVID19 パンデミック下における看護師の蓄積疲労とストレス対処に関する研究、国際医療福祉大学学会誌 27 巻抄録号、33、2022
- 5) 仙波洋子、楠葉洋子、生駒千恵、後藤純信：糖尿病患者の日常生活と血糖変動との関連、国際医療福祉大学学会誌第 27 巻抄録号、65、2022

研究費取得（分担）

- 1) 基盤研究 C：研究代表者（岩倉真由美 令和健康科学大学）透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発 2020-2022（1年延長予定）
- 2) 基盤研究 C：研究代表者（藤本裕二 佐賀大学）統合失調症者のリハビリとスポーツ科学に関する研究 2018-2022

社会活動

非常勤講師：鹿児島大学大学院医歯薬学総合研究科放射線看護専門看護師コース「看護管理論」

所属職能団体：日本看護協会

所属学会：日本看護研究学会（査読）

日本糖尿病教育・看護学会（査読）

日本がん看護学会

#### 4) 白石裕子 教授

学歴：博士（医学）

職歴：1999年4月～2007年3月：香川県立保健医療大学講師、准教授

2007年4月～2016年3月：宮崎大学医学部看護学科教授

2016年4月～2021年3月：国際医療福祉大学福岡看護学部教授

2021年4月～現職

資格：看護師、臨床心理士、公認心理士、博士（医学）

講演：

- 1) 白石裕子. あっふでーと CBT, 九州認知行動療法看護研究会, 2022年4月20日オンライン研修
- 2) 白石裕子. 教材作成「学研ナーシングサポート」講師“事例を實踐に活かす認知行動療法”2022年6月9日, 東京
- 3) Yuko Shiraishi. Strength-based Nursing and Healthcare Second annual global chck-in, Guest Speaker “Strength-based Nursing in Japan” 7.13.2022, online.

学会発表：

- 1) 岩崎優子, 白石裕子. 文献レビューによる精神疾患患者を受け持ち実習を行った看護大学生の学びの構造, 第32回日本精神保健看護学会学術集会, 2022年6月4日 オンライン

研究費取得：

- 1) 2021年度科学研究費基盤研究 (B) 代表者：白石裕子「精神科訪問看護師を対象としたストレングス活

用尺度とプログラムの開発」2021 - 2024

2)2021 年度科学研究費基盤研究 (C) 研究分担者, 代表者: 岩崎優子「精神看護学実習を補完可能にする教材開発と大学間で共有利用するシステムの検討」2021 - 2023

3)2022 年度科学研究費基盤研究 (C) 代表者: 黒木 司「精神科訪問看護師のストレングスアセスメントと視線との関連性」2022 - 2024

社会的活動:

日本精神保健看護学会 (代議員、学会誌編集委員)、日本看護科学学会 (会員、査読委員)、日本認知療法、認知行動療法学会 (幹事、査読委員)、九州認知行動療法看護研究会理事長

#### 5) 川口賀津子 教授

学歴: 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科看護学専攻 修士課程修了

九州大学大学院医系学府保健学専攻看護学分野 博士後期課程修了

職歴: 福岡大学病院

福岡大学医学部看護学科

国際医療福祉大学福岡看護学部 講師・准教授

福岡国際医療福祉大学看護学部 教授 現在に至る

資格: 看護師、修士 (看護学)、博士 (看護学)

学会発表:

1)川口賀津子、高木良重、吉村千草、宇治田さおり プラチナナースの就労に関する研究動向  
第 12 回国際医療福祉大学学術集会 2022 年 8 月

2)高木良重、吉村千草、宇治田さおり、川口賀津子 看護師が行う臨床場面での体位変換技術に関する研究の動向 第 42 回日本看護科学学会学術集会 2022 年 12 月

研究費取得:

文部科学省科学研究費基盤研究 (C) 2021 年度~2023 年度 代表者  
プラチナナースの就労継続を可能にする働き方モデルの開発

社会的活動

所属職能団体: 日本看護協会、福岡県看護協会 (代議員)

看護教員等養成支援事業 (厚労省 通信制教育) の e ラーニング講師 (2021 年度~2025 年度使用)

専任教員養成講習会 (福岡県医療指導課) 講師 「看護教育課程論」

西南学院中学校 キャリア教育 (福岡県看護協会) 講師 「看護職について」

実習指導者養成講習会 (国際医療福祉大学生涯教育センター) 講師

地域活動への参加・協力

その他: COVID-19 ワクチン大学拠点接種協力実施

#### 6) 山口みどり 准教授

学歴: 久留米大学医学研究科社会医学系公衆衛生学専攻博士課程 単位取得満期退学

ボストン大学大学院 公衆衛生学部国際保健学専攻 修士課程 修了

職歴: 福岡赤十字病院、青年海外協力隊 (カンティ小児病院、トリスリ郡立病院: ネパール)

JICA 個別専門家 (母子保健、学校地域保健プロジェクト: ネパール)

聖マリア学院短期大学 (講師)、JICA シニアボランティア (コスタリカ大学医学部看護学科)

訪問看護ステーションたんがく、熊本保健学科学大学 (特定事業教員)

資格: 看護師

#### 7) 彌永和美 准教授

学歴: 産業医科大学医療技術短期大学 地域看護学専攻修了

福岡女学院大学人文科学研究科臨床心理学専攻修了  
職歴：株式会社ブリヂストン  
福岡通信病院健康管理課  
聖マリア学院短期大学専攻科・大学  
福岡女学院看護大学  
活水女子大学看護学部  
資格：看護師、保健師、介護支援専門員、産業カウンセラー  
書籍：豊島泰子編；「看護師のための地域看護学」、『社会情勢の変化と健康課題』『産業看護活動』担当  
社会的活動  
所属職能団体：日本産業看護学会（評議員・倫理委員）

8) 梅本直子 准教授

学歴：大分医科大学医学系研究科修士課程修了  
久留米大学比較文化研究科博士課程単位取得  
職歴：聖マリア学院大学 講師、金沢医科大学 准教授  
資格：看護師、介護支援専門員、認知症ケア専門士、修士（看護学）大分医科大学  
学会発表：  
1) 梅本直子、岩倉真由美、池添貴子：コロナ禍における老年看護学実習の実践報告 模擬患者を用いた  
オンラインでの看護過程の展開. 日本老年看護学会第 27 回学術集会 2022 年 6 月 25-26 日  
2) 池添貴子、梅本直子、岩倉真由美：リハビリテーション病院における高齢患者のスキン-ケアに関する  
実態調査. 国際医療福祉大学学会第 12 回学術大会. 2022 年 8 月 28 日

研究助成

- 1) 橋本智江(金沢医科大学) 入浴ケア時の感染対策のあり方の検討ー感染防護具装着時の援助者の生理的  
反応から 科学研究費 基盤 C 2021~2023
- 2) 岩倉真由美(学内) 析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発  
科学研究費 基盤 C 2020~2022

9) 中野真理子 准教授

学歴：福岡県立大学人間社会学部人間形成学科卒業  
福岡県立大学看護学研究科看護心理学専攻修了  
東京女子医科大学大学院博士課程 満期退学  
職歴：東京慈恵会医科大学医学部看護学科 講師  
東京慈恵会医科大学大学院看護学専攻 急性重症患者看護分野 兼任講師  
自治医科大学看護学部 講師  
資格：看護学修士  
学会発表：  
1) 中野真理子：急性期看護における身体抑制に関する研究動向 ー2007 年、2014 年と最新 5 年間の文献  
検討の比較からー 第 12 回 国際医療福祉大学学会 ポスターセッション 2022. 8. 28

社会的活動

クリティカルケア学会（査読委員） 日本ルーラルナーシング学会（査読委員）

10) 森山ますみ 准教授

学歴：京都第二赤十字看護専門学校  
早稲田大学第二文学部人間・社会専修コース修了  
聖路加看護大学大学院博士前期課程修了  
聖路加看護大学大学院博士後期課程修了 博士課程（看護学）修了、博士号取得

職歴：京都第二赤十字病院（血液・呼吸器内科病棟、救命救急センター、泌尿器・耳鼻気食科混合病棟）  
大分県済生会日田病院（消化器外科病棟、小児・婦人科病棟）  
あさお訪問看護ステーション（訪問看護、ケアマネージャー）  
青年海外協力隊（エクアドル国立ポリヴァル大学看護学部）  
JICA エルサルバドル看護教育強化プロジェクト  
国際看護交流協会（研修コーディネーター、プロジェクトアドバイザー）  
日本赤十字九州国際看護大学看護学科 准教授・国際保健看護領域  
国際医療福祉大学成田看護学部看護学科 准教授・国際看護領域  
福岡国際医療福祉大学 看護学部 准教授（現在に至る） 2021年4月～  
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科保健医療学看護学領域 特別准教授 2021年～

資格：看護師、介護支援専門員

聖路加国際大学大学院看護学研究科博士前期課程 国際看護専攻修了（看護学修士）

聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程 国際看護専攻修了（看護学博士）

報告書

森山ますみ：妊娠・出産・子育てに必要な情報を届けよう。日本看護協会機関紙 看護 2023 75(3)：82-83  
学会発表：

- 1) 森山 ますみ, 謝 海棠：日本で暮らす中国人母親の妊娠・出産・子育てに関する情報探索行動。第11回日本公衆衛生看護学会。仙台+オンライン 2022年12月17日～12月18日
- 2) 森山 ますみ：外国人を看る看護職者に必要な能力ー医療通訳者の見解, 日本国際保健医療学会 第41回西日本大会。長崎。2023年3月4日

社会的活動

地域活動への参加・協力

『日本で暮らす外国にルーツを持つ子ども・子育て支援サイト』（ウェブサイト）を運営し、外国人保護者および支援者へ情報提供、日本全国からのメール等での質問に対応

所属職能団体：日本看護協会：現在、小倉一春大学院教育（国際看護）奨学金選考会審査委員  
日本国際保健医療学会（査読、西日本地方会世話人会委員）

## 11) 黒木 司 准教授

学歴：佐賀大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程 修了

佐賀大学大学院医学系機能形態系専攻博士課程 修了

職歴：広島大学大学院保健学研究科精神保健看護開発学講座 助教

帝京大学福岡医療技術学部看護学科 講師

帝京大学福岡医療技術学部看護学科 准教授

国際医療福祉大学福岡看護学部看護学科 准教授

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 准教授

資格：看護師免許、保健師免許

学位：修士（看護学）、博士（医学）佐賀大学

講演：

- 1) 白石裕子, 黒木司, 地域で実践するするリカバリーオリエンテッド CBT, 九州認知行動療法看護研究会, 2022, 8月
- 2) 黒木司, 精神科における看護研究, 日本精神科看護協会, 2022, 9月

論文：

- 1) 中村登志子, 黒木司, 大田明英：産後1か月の母親のソーシャル・キャピタルとソーシャルサポートが育児幸福感に及ぼす影響, 小児保健研究 81(1) 2022年8月

セミナー（参加）：



1) 武田薬品工業株式会社, Webinar on Self-Management of IBD Patients, 2021, 3月

研究会 (参加) :

- 1) 九州認知行動療法看護研究会, 認知行動療法のおさらい, 2022, 4月
- 2) 九州認知行動療法看護研究会, セルフコンパッションセラピー, 2022, 6月
- 3) 九州認知行動療法看護研究会, メタ認知トレーニング, 2022, 10月
- 4) 九州認知行動療法看護研究会, アサーティブトレーニング, 2022, 12月

研究費取得 :

1) 科研費

- ① 基盤C: 精神科訪問看護師のストレングスアセスメントと視線との関連性, 研究代表者
- ② 基盤B: 精神科訪問看護師を対象としたストレングス活用尺度とプログラムの開発. 研究分担者
- ③ 基盤C: 配偶者や重要他者との死別体験後、後期高齢者がより良く生きるための支援策の策定, 研究分担者

所属職能団体: 九州認知行動療法看護研究会: 理事・会計・事務局を担当。

## 12) 仙波洋子 准教授

担当科目: 大学入門講座 (看護)	研究方法論
リハビリテーション学	関連職種連携ワーク
成人慢性期・終末期看護方法論	成人急性期・回復期看護方法論
成人看護学実習 I (急性期・回復期)	成人看護学実習 II (慢性期・終末期)

研究内容: 糖尿病患者の食事や運動、生活リズムと血糖変動の関連

著書論文: 仙波洋子、佐藤和子、古賀明美、藤田君支. 2型糖尿病患者の運動療法アドヒアランスに影響する心理社会的要因. 日本看護科学会誌 2009, 29(2): 3-10

学歴: 熊本大学教育学部 看護教員養成課程 卒業

佐賀大学大学院医学系研究科 看護学専攻 修士課程修了 (看護学修士)

職歴: 熊本大学医学部附属病院 看護師

博多高校衛生看護専攻科 教諭

折尾愛真高校衛生看護科 非常勤講師

佐賀大学医学部看護学科 助教

福岡山王病院 主任看護師

国際医療福祉大学福岡看護学部 講師

福岡国際医療福祉大学看護学部 准教授 現在に至る

資格: 看護師

養護教諭一級普通免許状

中学校教諭一級普通免許状 (保健)

高等学校教諭二級普通免許状 (保健・看護)

福岡糖尿病療養指導士

研究活動 (2022年1月1日～2023年12月31日)

学会発表

- 1) 仙波洋子, 楠葉洋子, 生駒千恵, 後藤純信: 糖尿病患者の日常生活と血糖変動の関連. 国際医療福祉大学学会誌 27, 65, 2022年8月28日, オンライン開催
- 2) 前田和香子, 仙波洋子, 水尾智佐子: 男子看護学生の母性看護学を学ぶ意義～男子看護師へのインタビューから～. 27, 68, 2022年8月28日, オンライン開催
- 3) 石橋曜子, 楠葉洋子, 仙波洋子, 生駒千恵: 多角的視座から考える看護実践のための教材開発ー第1報ー. 27, 133, 2022年8月28日, オンライン開催

## 社会的活動

- 1) 講演会等
  - ・仙波洋子：第23回福岡糖尿病療養指導士認定試験研修会 講師
- 2) その他（研修会の役員など）
  - ・仙波洋子：福岡糖尿病療養指導士認定会 研修試験委員 糖尿病指導グッズ作製委員長
- 3) 所属学会
  - ・日本糖尿病教育・看護学会（会員、査読委員）
- 4) 所属職能団体
  - ・日本看護協会、日本糖尿病協会、福岡糖尿病療養指導士認定会
- 5) 地域活動への参加・協力
  - ・地域ボランティア活動：百道浜海岸ラブアースクリーンアップ

### 13) 前田和香子 講師

担当科目：性と健康の科学、母性看護学方法論、母性看護学実習、卒業研究

著書：横山利枝編著、「看護管理の視座Ⅱ～看護におけるアジェンダ～」星雲社、第7章を執筆

前田和香子、神薊洋子、江島峰子、藤木久美子、佐藤香代「分娩シミュレーションによる主体的技術習得と教材作成のポイント」看護人材育成 vol115, No. 5:60-65

学歴：熊本大学医療技術短期大学部 専攻科助産学特別専攻卒業

熊本県立大学アドミニストレーション研究科看護管理コース博士前期課程修了

産業能率大学情報マネジメント学部現代マネジメント学科卒業

職歴：国保水俣市立総合医療センター

国際医療福祉大学 福岡看護学部

福岡国際医療福祉大学 看護学部

資格：看護師、助産師、受胎調節実施指導員、思春期保健相談士、新生児蘇生法「専門」コース修了  
学会発表：

- 1) 前田和香子, 仙波洋子, 水尾智佐子. 男子看護学生の母性看護学を学ぶ意義～男性看護師へのインタビューから～. 国際医療福祉大学学会誌 2022:27 抄録号:68
- 2) 福田友美, 前田和香子, 梶原英子, 大西英里, 田中えみ子. 視覚障害のある夫婦への育児指導の在り方を考える～指導の標準化にむけて～, 日本母性衛生学会 2022:Vol163, No3, 218

## 社会活動

### 所属職能団体

日本看護協会、福岡県看護協会、日本助産師会、福岡県助産師会

### 所属学会

日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、日本助産学会

### 14) 辻 奈美 講師

学歴：長崎県立大学健康科学研究科看護学専攻修士課程 修了

職歴：佐賀県杵藤保健所鹿島支所

太良町在宅介護支援センター

佐賀大学医学部看護学科 助手・助教

福岡市介護実習普及センター

資格：看護師、保健師、修士（看護学）

学会発表

- 1) Kyoko Kai, Nami Tsuji. Japanese Nursing College Students' Experiences with Remote Lectures Based on Literature Published in 2020-2022 ; The 6<sup>th</sup> Korea China Japan Nursing Conference.

e-poster. November 1-3, 2022. P. 86.

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：NPO 福祉用具ネット 理事

国、自治体、公的機関の役員・委員等

公的機関：福岡県国民健康保険団体連合会 介護保険給付費等審査委員会

所属職能団体

日本リハビリテーション工学協会（代議員）

日本リハビリテーション工学協会 専門部会車いす SIG（役員）

#### 15) 高木 良重 講師

学歴：九州大学大学院医学系学府保健学専攻 修士課程修了

職歴：九州大学医学部附属病院

医療法人博修会 福岡高野病院

医療法人福西会 川浪病院（現在、福西会病院）

資格：WOC 看護（現在、皮膚・排泄ケア）認定看護師

がん看護専門看護師

原著：

- 1) 高木良重, 直海倫子, 平林愛子, 富田美和子, 山田舞. 臨床看護師を対象とした WOC 看護技術に関するオンライン研修の実施:COVID-19 感染に伴う新たな試み. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 2022;26 Supp:36-40

学会発表：

- 1) 高木良重, 豊原敏光. IAD 予防や改善に向けての排便コントロール - 摘便に着目して -. 第 39 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会. 香川. 2022 年 2 月 11 日～12 日（オンデマンドあり）
- 2) 山本佳子, 伊藤麻紀, 水島文乃, 高橋純, 高木良重, 松原康美. 交流集会：自壊創ケア part3 ～乳がん患者のセルフケア支援～. 第 36 回日本がん看護学会学術集会. 神奈川. 2022 年 2 月 19 日～2 月 20 日（オンデマンドあり）
- 3) 高木良重, 黒田豊子, 柳迫昌美, 江口忍. 看護基礎教育における褥瘡看護の位置づけ - 臨床実践につなげるうえでの課題 -. 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. Web 開催、2022 年 5 月 20～21 日
- 4) 高木良重, 芦田幸代, 大畑直子, 三木浩司, 荒木靖三. オンラインを活用した研修の実際 -九州 SR 講習会「総合討論」の試み-, 第 38 回九州ストーマリハビリテーション研究会. 長崎. 2022 年 10 月 1 日
- 5) 高木良重, 吉村千草, 宇治田さおり, 川口賀津子. 看護師が行う臨床場面での体位変換技術に関する研究の動向. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. 広島. 2022 年 12 月 3 日～4 日

学内研究費（2022 年度）：

- 1) 研究代表者 高木良重

一般研究 間接的サポート法によるポジショニングにおけるクッションの種類別の体圧分布

社会的活動：

所属職能団体

日本創傷・オストミー・失禁管理学会：評議員、編集委員会（委員）、広報委員会（委員）、

国際交流委員会（委員）、学会賞・研究助成選考委員会（委員）、便秘アドホックワーキング（委員）

日本褥瘡学会：評議員、編集委員会（委員）、ガイドライン策定委員会（委員）

日本がん看護学会：代議員、地方分科会委員会（副委員長）

放射線性皮膚炎ガイドライン作成グループ（SR メンバー）

日本看護協会：正会員

16) 石橋曜子 講師 RN,

担当科目：成人看護学概論、成人急性期・回復期看護方法論、成人慢性期・終末期看護方法論、  
研究方法論、研究ゼミナール、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ

研究内容：がん看護、クリティカルケア、代理意思決定、看護師教育、発達障害者サポート

学歴：学士 人間総合科学大学人間科学部人間科学科

修士 佐賀大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

職歴：福岡大学病院（脳神経外科、ICU）看護師

八代看護学校二年過程 教員

宮原町役場保健衛生課 非常勤看護師

恩賜財団済生会熊本病院（心臓血管センター、CCU）主任看護師

福岡大学医学部看護学科 助手、助教

国際医療福祉大学看護学部看護学科 講師

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 講師

資格：看護師免許

研究活動

著書：

- 1) 北川雄光、江川幸二編集、石橋曜子（分筆）. 系統看護学講座別巻臨床外科看護各論 第10版 第2章心臓および脈管系. 医学書院. 2023. p127-156.
- 2) 船木淳、畑中あかね（監修）、石橋曜子（執筆）. Clinical Study. 疾患 Basic Study 大腸がん. メヂカルフレンド社. 2023. 44. (1) . p18-33.

原著：

- 1) 石橋曜子、岩永和代、浦綾子、牧香里、宮林郁子. 手術を受けたがんサバイバーの身体活動量と自己効力感、心的外傷後成長—手術直後から退院 6 か月間の変化—. 高齢者ケア実践学研究会. 2022. 1 (1). p23-29.

学会発表：

- 1) 石橋曜子、楠葉洋子、仙波洋子、生駒千恵. 多角的視座から考える看護実践のための教材開発（第1報）第12回国際医療福祉大学学会誌、27巻抄録号、p133. 2022. 8. 28.
- 2) Kumiko Kotake, Yasuhito Kinoshita, Kaori Haba, Mami Kurita, Ichiro Ota, Kazuyo Iwanaga, Yoshimi Suzukamo, Ichiro Kai, Aya Takahashi, Yoko Ishibashi, Yoriko Hara, Yukiko Arata, Hirokazu Uemura. Changing Daily Life of Total Laryngectomized Patients Three Months After Hospital Discharge. 2022. The 33rd International Nursing Research. 7.21-25.
- 3) Kaori Haba, Kumiko Kotake, Mami Kurita, Kazuyo Iwanaga, Ichiro Kai, Yoshimi Suzukamo, Aya Takahashi, Yoko Ishibashi, Yoriko Hara, Yukiko Arata, Ichiro Ota, Hirokazu Uemura, Hiromi Taniguchi. The 33rd International Nursing Research. 2022. 7.21-25.

研究費取得：

公的研究費

- 1) 文部科学省基盤研究 (C) 20K10777 2020～2023 年度 研究代表者 喉頭摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発.
- 2) 文部科学省基盤研究 (C) 17K12277 2017～2022 年度 研究分担者 頸部がんで化学放射線療法を受ける患者の栄養状態改善のための介入プログラムの開発.
- 3) 文部科学省基盤研究 (B) 19H03937 2019～2023 年度 研究分担者 全喉頭摘出者の心理的適応促進のための RCT 看護介入効果検証.
- 4) 文部科学省基盤研究 (B) 22H03379 2022-2026 年度 研究分担者 エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発.
- 5) 文部科学省基盤研究 (C) 22K10769 2022-2026 年度 研究分担者 発達障害傾向看護学生のコミュニケーション力育成プログラムの試行.

## 社会的活動

- ・日本シミュレーションラーニング学会：規程委員会委員として会議に参加。  
第4回学術集会一般演題座長
- ・福岡県看護学会研究発表支援委員として研究指導員

## 所属学会

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本クリティカルケア看護学会
- ・日本看護シミュレーションラーニング学会
- ・日本医療教授システム学会
- ・Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing

## 役員歴

- ・日本看護シミュレーションラーニング学会：代議員、査読委員

## その他

- ・九州・沖縄ケアリング・アイランド大学コンソーシアムのマンスリー会議と連携会議に参加し意見交換を行った。また、かんたま祭企画委員を担当した。
- ・所属職能団体：公益社団法人福岡県看護協会  
日本看護協会

## 17) 甲斐恭子 講師 RN.,PHN.,MSN.

学歴：学士 久留米大学医学部看護学科

修士 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程

職歴：急性期救急病院・小児専門病院・看護系私立大学勤務経験

資格：看護師・保健師・修士(看護学)

研究活動（2022年度（令和4年度）） 2022年4月1日より2023年3月31日の業績

### 資料：

- ・齊藤史枝, 木内千晶, 勝野とわ子, 土田幸子, 甲斐恭子. 看護系大学におけるタブレット端末活用に向けた基礎的研究—A 大学学生のタブレット端末活用実態—. 日本看護学教育学会誌. 31 (3), 81-89, 2022, 03.

### 学会発表：

- ・甲斐恭子, 福岡市における小児在宅看護の実態と看護師教育に関する課題, 第12回国際医療福祉大学学会学術大会, 国際医療福祉大学大川キャンパス, ポスターセッション. 2022年8月28日(日), P. 61.
- ・Kyoko Kai, Nami Tsuji. Japanese Nursing College Students' Experiences with Remote Lectures Based on Literature Published in 2020-2022 ; The 6<sup>th</sup> Korea China Japan Nursing Conference. e-poster. November 1-3, 2022. P. 86.

## 社会活動

### その他（学術大会, 研修会の役員など）

- ・九州・沖縄ケアリングアイランド大学コンソーシアムの担当として会議に参加した。  
また、かんたま祭の企画委員として主に学生支援、放送大学看護師国家試験学習支援ツールの分担執筆を行った。

### 所属職能団体：

- ・公益社団法人日本看護協会
- ・公益社団法人福岡県看護協会

### 所属学会

- ・甲斐恭子：日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、へき地離島救急医療学会、看護教育研究学会、九州沖縄小児看護教育研究会、国際医療福祉大学学会、日本在宅ケア学会

18) 横尾誠一 講師

学歴：長崎県立大学経済学部経済学科 学士課程修了

長崎市医師会看護専門学校高等課程 卒業

長崎県立保健看護学校看護学科 卒業

県立長崎シーボルト大学人間健康科学研究科看護学専攻 修士課程修了

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 博士課程修了

職歴：国立大学法人 長崎大学病院

有限会社きずな グループホームきずな

医療法人常葉会 長与病院 在宅事業部

長崎大学生命医科学域保健学系

資格：医学博士、看護学修士、経済学学士、看護師、介護支援専門員

認知症ケア専門士（一般財団法人認知症ケア学会認定）

原著：

- 1) Hironobu Koseki, Makoto Osaki, Yuichiro Honda, Shinya Sunagawa, Chieko Imai, Takayuki Shida, Umi Matsumura, Junya Sakamoto, Iku Tomonaga, **Seichi Yokoo**, Satoshi Mizukami, Minoru Okita. Progression of microstructural deterioration in load-bearing immobilization osteopenia. PLOS ONE2022, 17(11), e0275439. (IF : 3.752) .

その他：第111回看護師国家試験模範解答作成（在宅看護学）：放送大学

学会発表：

- 1) **横尾誠一**, 山口みどり, 諸岡紗耶香, 猪狩明日香. 地域医療福祉サービスに対する離島地域の在宅療養高齢者の総合満足度の影響要因. 第27回日本在宅ケア学会講演抄録集, 2022:70.
- 2) 猪狩明日香, 高木良重, **横尾誠一**. 退院支援の研修に関する文献検討-退院支援プログラムの開発に向けて-. 第53回（2022年度）日本看護学会学術集会抄録集, 254.

研究費取得：

福岡国際医療福祉大学学内研究費 一般研究A:地域サービスの評価に関する文献検討-高齢者版地域サービス満足度尺度作成に向けて-、研究代表者.

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：長崎大学非常勤講師（担当科目：老いと健康）

医療法人友愛会田川療養所 看護部研修会講師

福岡県立講倫高等学校出前講義

福岡国際医療福祉大学 地域公開講座 講師

福岡国際医療福祉大学 Covid-19 ワクチン職域接種看護職として参加

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会（会員）、公益社団法人福岡県看護協会（会員）

日本看護科学学会（会員）、日本在宅ケア学会（会員）、日本認知症ケア学会（会員）

日本ホスピス・在宅ケア研究会（会員）

19) 水尾智佐子 講師

最終学歴：東京都立大学大学院人間健康科学研究科看護科学域博士後期課程（看護学）

職歴：救急センター、産婦人科病産院・看護専門学校・看護系私立大学勤務経験

資格：助産師・アドバンス助産師、看護師、修士(看護学)・修士(教育学)・博士(看護学)

受胎調節実施指導員、思春期保健相談士

社会的活動：

- ・2022. 11. 23：新生児蘇生法（NCP）Aコース講習会インストラクター
- ・2022. 10. 30：子育て支援 - 育児相談 - （日本助産師会）

20) 木村一絵 講師

学歴：静岡県立大学大学院看護学研究科 修士課程修了

職歴：市町村保健師、九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野 助教

資格：看護学修士、保健師、看護師

原著：

- 1) 木村一絵, 石垣和子, 加茂登志子, 福丸由佳, 重松由佳子, 賀村悦子, 小柳愛子, 内田絵利子. 2-6歳の幼児の問題行動が減少することを希望した母親に対する地域保健における子育てプログラム Child-Adult Relationship Enhancement (CARE) の効果—ランダム化比較試験—. 石川看護雑誌 2022; 19: 65-76.

学会発表：

- 1) 木村一絵, 国内外における CARE プログラムに関するの介入研究の動向と地域保健分野における実践と効果. 第2回 PCIT&CARE 九州地区合同研究会 2022年1月.
- 2) 山下雅子, 緒方よしみ, 木村一絵, 地域でつなぐ保護者支援「オンライン子育てプログラム Child-Adult Relationship Enhancement (I-CARE) の実践」, 日本子どもの虐待防止研究会第28回学術集会ふくおか大会 公募シンポジウム, 2022年12月.

書籍等出版物：

- 1) Erica Pearl Messer, Robin H. Gurwitch, Barbara W. Boat, 他7名, 日本語版 CARE 翻訳 福丸由佳, 阿久沢由美, 安藤智子, 伊東史エ, 大原美知子, 岡野典子, 緒方広海, 加藤郁子, 加茂登志子, 木村一絵, 熊谷珠美, 小平かやの, 春原由紀, 細金奈. Child-Adult Relationship Enhancement —子どもと大人の絆を深めるプログラム— CARE 配布資料 第3版改訂, CARE-Japan, 2022年1月.
- 2) Erica Pearl Messer, Robin H. Gurwitch, Barbara W. Boat, 他7名, 日本語版 CARE 翻訳 福丸由佳, 阿久沢由美, 安藤智子, 伊東史エ, 大原美知子, 岡野典子, 緒方広海, 加藤郁子, 加茂登志子, 木村一絵, 熊谷珠美, 小平かやの, 春原由紀, 細金奈. Child-Adult Relationship Enhancement —子どもと大人の絆を深めるプログラム— CARE 思春期の子ども向け 配布資料 第3版改訂, CARE-Japan, 2022年1月.
- 3) 木村一絵 (日本語訳), Thomas W. Phelan, かんしゃく! 公共の場およびプライベートな場での 癩癩の対処法 クイックリファレンスガイド, 2022年8月

研究費取得：

- 1) 科研費 基盤研究 (C) 研究代表者「地域保健における子育てプログラム CARE の効果的な実践方法の検討」17K12526
- 2) 科研費 基盤研究 (C) 研究分担者「エビデンスに基づく家族関係再構築支援プログラムの確立」17K04468

社会的活動：

地域活動への参加・協力

- 1) 養育者支援 公私 (官民) 連携のベストプラクティス 課題と今後 福岡県大野城市×CARE 子どもと大人の絆を深めるプログラム, 国立研究開発法人 理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム, オンライン研修 講師, 2022年2月
- 2) 中央区子どもと親の絆 CARE プログラム 職員研修 講師, 福岡市中央区子育て支援課 福岡市中央区保健福祉センターあいいふ 2022年6月
- 3) 第4回 専門家向け I-CARE ワークショップ, オンライン研修 講師, PCIT&CARE 九州地区研究会, 2022年7月
- 4) 第1回「ポストコロナにおける大人と子どもの絆を深める」講演会 「大人と子どもの絆を深める - CARE に触れてみよう -」 オンライン講演会 講師, PCIT&CARE 九州地区研究会, 2022年7月.
- 5) 専門家向け CARE ワークショップ, オンライン研修 講師, CARE-Japan, 2022年11月.

6) 令和4年度 新居浜市発達支援教育研修会「CARE プログラムを学んで子どもと適切な関わり方に生かそう」オンライン研修会 講師, 新居浜市教育委員会事務局発達支援課, 2022年12月.

7) 中央区子どもと親の絆 CARE プログラム「保護者向け CARE プログラム」講師, 福岡市中央区保健福祉センター子育て支援課, 2022年11・12月.

所属職能団体: 日本看護協会、福岡県看護協会

## 21) 吉村千草 助教

学歴: 九州大学大学院医学系学府保健学専攻 修士 (看護学)

職歴: 沖縄県立南部病院・沖縄県立宮古病院

国際医療福祉大学 福岡看護学部看護学科助教 (基礎看護学領域)

福岡国際医療福祉大学 2021年4月

資格: 看護師・保健師・修士 (看護学)

学会発表:

1) 住吉慶音, 吉村千草: マスク着用がコミュニケーションに及ぼす影響についての文献研究, 一般社団法人日本看護研究学会第26回九州・沖縄地方会学術集会, Web開催, 2022. 1. 29

2) 大内田瑞穂, 吉村千草: 自宅介護中の家族の介護に対する思いについての文献検討, 一般社団法人日本看護研究学会第26回九州・沖縄地方会学術集会, Web開催, 2022. 1. 29

3) 城本未優, 吉村千草: 患者のQOLに関連する要因についての文献検討, 一般社団法人日本看護研究学会第26回九州・沖縄地方会学術集会, Web開催, 2022. 1. 29

4) 荻原悠介, 松岡ちひろ, 吉村千草: 集中治療室における家族看護の現状—看護師と家族への満足度に関するアンケート調査より—, 第32回日本医学看護学教育学会学術大会, ハイブリット開催, 2022. 3. 5

5) 吉村千草: 女性潜在看護師および女性復職看護師の職業的アイデンティティに影響する要因の検証, 一般社団法人日本看護研究学会第48回学術集会, ハイブリット開催, 2022. 8. 27・28

6) 川口賀津子, 高木良重, 吉村千草, 宇治田さおり: プラチナナースの就労に関する研究動向, 第12回国際医療福祉大学学会学術大会, 2022. 8. 28

7) 高木良重, 吉村千草, 宇治田さおり, 川口賀津子: 看護師が行う臨床場面での体位変換技術に関する研究の動向, 公益社団法人 日本看護科学学会 第42回学術集会, 2022. 12. 3・4

研究費取得:

公的研究費

若手研究 2018. 4. 1~2023. 3. 31 (再々延長)

研究代表者 吉村千草

研究課題名 女性潜在看護師のライフスタイルに着目した復職支援に影響する要因の検証

学内研究費

一般研究 A 一般

研究代表者 吉村千草

研究課題名 職業継続支援に向けた女性看護師のトランジションを捉えたキャリアに関する研究

社会的活動:

地域活動への参加・協力

その他: 九州・沖縄ケアリングアイランド大学コンソーシアムの会議に参加し意見交換とかんたま祭企画委員を担当した。

所属職能団体: 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会



22) 池添貴子 助教

学歴：佐賀大学医学部看護学科 卒業

佐賀大学医学系研究科 修士課程看護学専攻 卒業

職歴：国立病院機構奈良病院（現市立奈良病院） 看護師

佐賀大学医学部 地域医療科学教育研究センター 教務補佐員

国際医療福祉大学 福岡看護学部 専任教員

福岡国際医療福祉大学 看護学部看護学科（前述施設より移管） 専任教員

資格：看護学（専門士、学士、修士）

看護師・保健師・第一種衛生管理者・養護教諭Ⅱ種

学会発表：

- 1) 池添貴子、梅本直子、楠葉洋子：第12回国際医療福祉大学学術大会. リハビリテーション病院における高齢患者のスキンケアに関する実態調査. 2022年8月28日
- 2) 梅本直子、岩倉真由美、池添貴子：日本老年看護学会第27回学術集会. コロナ禍における老年看護学実習の実践報告—模擬患者を用いたオンラインでの看護過程の展開—

研究費取得：学内研究費 一般研究A

研究代表者 池添貴子

研究課題名 介護老人保健施設における要介護高齢者のスキンケアに関する実態調査

社会的活動：福岡国際医療福祉大学主催 第3回地域公開講座 令和4年11月26日（土）

老年看護学講座より「フレイルの予防」の講義

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護老年学会

日本看護福祉学会、日本看護家族学会

23) 宇治田さおり 助教

学歴：佐賀大学医学系研究科 修士課程看護学専攻 卒業

職歴：潤和会 記念病院 看護師

筑紫看護高等専修学校 専任教員

国際医療福祉大学 福岡看護学部 助手

福岡国際医療福祉大学 助教

資格：修士（看護学）

研究費取得：

文部科学研究費 研究分担者 基盤研究費C 研究代表者：菊原美緒 防衛医科大学校

研究課題名「XR（仮想空間技術）を活用した虐待予防教育プログラムの開発」

学会発表：

- 1) 川口賀津子、高木良重、吉村千草、宇治田さおり：プラチナナースの就労に関する研究動向.  
第12回国際医療福祉大学学術大会. 2022年8月28日
- 2) 高木良重、川口賀津子、吉村千草、宇治田さおり：看護師が行う臨床場面での体位変換技術に関する研究の動向. 第42回日本看護科学学会. 2022年12月4日
- 3) 大坪航希、宇治田さおり：女性患者のケアにおける男性看護師の強みに関する文献研究.  
第26回看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 2022年1月29日
- 4) 木下実咲、宇治田さおり：認知症高齢者を対象とした意思決定支援の実態についての文献検討.  
第26回 看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 2022年1月29日

社会的活動：

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

24) 生駒千恵 助教

学歴：広島大学医学部保健学科看護学専攻卒業

福岡県立大学大学院看護学研究科基盤看護学領域看護教育学専攻修了

職歴：済生会八幡総合病院（看護師）

医療法人はまゆう会相生リハビリテーションクリニック（看護師）

医療法人和仁会福岡和仁会病院（主任保健師）

福岡県立大学看護実践教育センター（助教/主任教員）

医療法人社団誠和会牟田病院（糖尿病看護認定看護師）

福岡国際医療福祉大学（助教）

資格：修士（看護学）、看護師、保健師、介護支援専門員

糖尿病看護認定看護師、日本糖尿病療養指導士、福岡糖尿病療養指導士

学会発表：生駒千恵, 楠葉洋子. COVID-19 パンデミック下における看護師の蓄積疲労とストレス対処に関する研究. 第12回国際医療福祉大学学会. (福岡, 大川市) 2022年8月28日

賞罰：生駒千恵, 楠葉洋子. 第12回国際医療福祉大学学会. 優秀演題受賞 2022年8月28日

社会的活動

地域活動への参加・協力

その他：福岡国際医療福祉大学Covid-19ワクチン職域接種への看護職としての参加（計1回）

所属職能団体：

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本糖尿病教育・看護学会（評議員）、  
日本糖尿病学会、国際ケアリング学会

一般社団法人日本糖尿病療養指導士認定機構（試験委員）、公益社団法人日本糖尿病協会

公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

福岡糖尿病療養指導士会、糖尿病看護実践力開発研究会（世話人）

25) 伊東香織 助手

学歴：九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科 卒業

九州看護福祉大学大学院看護福祉学研究科看護学専攻 修了

職歴：財団法人聖路加国際病院（看護師）

福岡赤十字病院（看護師）

学校法人精華学園精華女子高等学校 看護科・看護専攻科（常勤講師）

資格：修士（看護学）、看護師、高等学校教諭専修免許状（看護）、養護教諭専修免許状

学会発表：

1) 古江佳織, 伊東香織, 松岡聖美, 二宮球美, 柴田恵子. 看護学生の学校への適応感からみた職業意識のプレ調査結果報告. 日本看護研究学会第48回学術集会. 愛媛・ハイブリッド開催、2022年8月27日・28日

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：福岡国際医療福祉大学Covid-19ワクチン職域接種看護職として参加（2022年8月9日）

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

26) 横山光稀 助手

学歴：長崎大学医学部保健学科看護学専攻卒業

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻修士課程修了

職歴：長崎大学医学部整形外科教室骨微細構造解析プロジェクトチーム リサーチアシスタント

長崎大学病院 看護師

資格：看護師、保健師、修士（看護学）

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：福岡国際医療福祉大学 Covid-19 ワクチン職域接種看護職として参加

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人長崎県看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護研究学会

## 8.6 言語聴覚専攻科

### (1) 教員紹介

教員：平島ユイ子（教授・専攻長）  
吉永明史（助教）、豊嶋明子（助教）、池下博紀（助教）

#### 1) 平島ユイ子 専攻長、教授

学歴：国際医療福祉大学保健医療学専攻言語聴覚分野博士課程修了

職歴：福岡国際医療福祉大学教員

福岡国際医療福祉学院教員

福岡市立義務制学校教職員

資格：保健医療学分野（博士）

教育学研究科（修士）

原著：

1) Ikuyo Masuda-Katsuse, Yuiko Hirashima. Development and Evaluation of Remote Articulation Test System to Support Collaboration Between Special Education Classes and External Experts. Information. Engineering Express International Institute of Applied Informatics. 2022, Vol. 8, No. 1, IEE627

2) 平島ユイ子, 城間将江. 難聴児は表情と身振りをどのように合致させるのか - アイトラッキングを用いた検討. 教育オーディオロジー研究第15巻13-18, 2021 (2022、3月発行)

学会発表：

1) 難聴児の表情認知と語彙力. 第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会福岡大会. 北九州国際会議場, 1月29日30日

2) 通常学級における難聴児と聴覚障害児のグループ会話に関する要因. 第48回日本コミュニケーション障害学会, 愛媛大学, 5月28日29日

3) 絵本を読み聞かせるときに幼児はどこを見ているのか? 視線表示の効果. 日本特殊教育学会第60回大会, つくば国際会議場, 9月17-19日

研究費：

自閉症を伴う難聴児のコミュニケーション手段と関係する要因 ～2023年3月主18K02798

聴覚情報処理障害児（APD児）への聴覚訓練プログラムの開発 ～2022年3月部分18K02768

聴覚障害者の社会参加を促進するための手法に関する研究 ～2022年3月部分21dk0310107s0502

難聴幼児は絵本の読み聞かせ時にどこを見ているのか。～2023年3月主学内研究

社会的活動：

地域活動への参加・協力

地域ボランティア活動：PTA研修（聴覚特別支援学校・アスター幼稚園・発達障害親の会たけのこ）

地方自治体の事業への協力：福岡県専門家活用事業・療育相談（福岡聴覚特別支援学校、福岡高等聴覚特別支援学校、福岡中央特別支援学校、福岡東特別支援学校、若久特別支援学校、太宰府特別支援学校、福岡盲学校、直方特別支援学校、大宰府通級指導教室、筑紫地区中学校校長会、熊本聾学校）  
就学相談事業（福岡市教育委員会）

#### 2) 吉永明史 助教

学歴：長崎リハビリテーション学院 言語聴覚学科卒業

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 修了

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程満期退学

職歴：誠愛リハビリテーション病院

柳川リハビリテーション学院 教員

福岡国際医療福祉学院 教員

資格：言語聴覚士、修士（保健医療学）

社会的活動：

地域活動への参加・協力

地方自治体の事業への協力：

福岡市、古賀市、みやま市の地域ケア会議助言者

古賀市、八女市、筑紫野市の地域ケア個別会議運営アドバイザー

所属職能団体：福岡県言語聴覚士会（副会長）

国、自治体、公的機関の役員・委員等

自治体：福岡県介護予防活動普及展開事業アドバイザー、福岡県災害リハビリテーションチーム委員、  
福岡県災害福祉援助チーム派遣員

### 3) 豊嶋明子 助教

学歴：国際医療福祉大学 修士課程 修了

職歴：恵光会原病院、畏敬会井野辺病院、弘医会福岡鳥飼病院、

福岡国際医療福祉学院、福岡国際医療福祉大学

資格：言語聴覚士、修士（保健医療学）国際医療福祉大学

講演：

吃音を持つ子どもたちへの支援 福岡国際医療福祉大学 地域公開教室（言語聴覚専攻科編）2022年2月

子どものお口・お顔の発達—マスク生活の中、考えてみよう— あたごはま幼稚園 2022年8月

社会的活動：

所属職能団体：福岡県言語聴覚士会

地域活動への参加・協力

中間市立療育センター 言語発達相談、支援

### 4) 池下博紀 助教

学歴：国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程満期退学

職歴：吉備高原医療リハビリテーションセンター

佐賀大学医学部附属病院 先進総合機能回復センター

脳神経センター大田記念病院急性期リハビリテーション課

福岡国際医療福祉大学言語聴覚専攻科

資格：言語聴覚士、修士（言語聴覚学）

学会発表：

1) 生活期失語症者に対する意味素性分析を用いた呼称訓練の効果. 第46回日本高次脳機能障害学会学術集会、口述、山形テルサ、2022年12月2日・3日

研究費取得：

1) 健常高齢者における言語流暢性課題の検索方略と実行機能との関連性. 2020年度若手・女性研究者奨励金（繰越し金を含む）：2022年1月～3月

2) アルツハイマー型認知症患者の潜在記憶. 2022年度若手・女性研究者奨励金：2022年4月～12月

3) 時間推移およびクラスターに注目した言語流暢性課題の質的分析. 2022年度学内研究費

報告書：

1) 健常高齢者における言語流暢性課題の検索方略と実行機能との関連性. 2020年度若手・女性研究者奨励金研究レポート

講演：

1) 認知症の症状と言語聴覚士の関わり：福岡国際医療福祉大学 地域公開講座. 2022年9月3日

社会的活動：

所属職能団体 福岡県言語聴覚士会 西ブロック世話人

## 9. 大学・関連施設

(2023年3月1日現在)

### 9.1 学校法人 高木学園

- 1) 福岡国際医療福祉大学 医療学部 (理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科)、言語聴覚専攻科  
(〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-40 TEL:092-832-1200)
- 2) 専門学校柳川リハビリテーション学院 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科  
(〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 116 TEL: 0944-72-1001)
- 3) 大川看護福祉専門学校 看護学科、介護福祉学科  
(〒831-0016 福岡県大川市大字酒見 391-5 TEL: 0944-88-3433)

### 9.2 学校法人 国際医療福祉大学

- 1) 国際医療福祉大学 保健医療学部 (看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科)、医療福祉学部 (医療福祉・マネジメント学科)、薬学部 (薬学科)  
(〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1 TEL : 0287-24-3018)
- 2) 国際医療福祉大学 医学部 (医学科)、成田看護学部 (看護学科)、成田保健医療学部 (理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科、放射線・情報科学科)、臨床工学特別専攻科  
(〒286-8686 成田市公津の杜 4-3 TEL : 0476-20-7701)
- 3) 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 (心理学科、医療マネジメント学科)  
(〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26 TEL : 03-5574-3900)
- 4) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 (看護学科、理学療法学科、作業療法学科)  
(〒250-8588 小田原市城山 1-2-25 TEL 0465-21-0361)
- 5) 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 (理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科)  
福岡薬学部 (薬学科)  
(〒831-8501 大川市榎津 137-1 TEL : 0944-89-2000)
- 6) 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科、薬学研究科、薬科学研究科、医学研究科  
(〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26 TEL : 03-5574-3900)
- 7) 国際医療福祉大学塩谷看護専門学校 看護学科  
(〒329-2145 栃木県矢板市富田 77-6 TEL : 0287-44-2322)
- 8) 国際医療福祉大学病院 (〒329-2763 栃木県那須塩原市井口 537-3 TEL : 0287-37-2221)  
西那須野町井口 (大学から車で約 15 分) に、平成 10 年 7 月に開設、平成 14 年 2 月には新しい棟を増やし、産婦人科を含んだ総合病院として再スタートした。病床は 353 床である。平成 25 年 3 月に栃木県では初めて手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Si」導入した。各診療科目とも最新の診療と専門スタッフが揃っている。
- 9) 介護老人保健施設 マロニエ苑 (〒329-2763 那須塩原市井口 533-4 TEL : 0287-36-6622)  
国際医療福祉大学病院の隣に平成 5 年に開所した 200 床の老人保健施設である。苑内には温泉をひいた大浴場があり、快適な環境と、最新の設備とともに、PT・OT・ST のスタッフによるきめ細やかなリハビリテーションを実施している。

- 10) にしなすの総合在宅ケアセンター（〒329-2763 那須塩原市井口 537-3 TEL：0287-39-3303）  
国際医療福祉大学病院・マロニエ苑と隣接し、開所した総合在宅ケアセンター。通所リハビリテーション・通所介護・にしなすのマロニエ訪問看護ステーション・ホームヘルプステーションがある。マロニエ苑同様、天然温泉を利用した浴室・リフト浴槽等もあり、楽しみながら受けられる基本的な介護プログラムや機能的リハビリテーションを実施している。
- 11) 国際医療福祉大学クリニック（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6 TEL：0287-24-1001）  
大学敷地内にある病院で、健康管理センターと言語聴覚センターがあり、健康管理センターは学生の健康診断や健康相談、診療などを行っている。言語聴覚センターは、数多くの検査室・治療室を持ち、精密な聴覚機能検査機器や言語治療に使うマルチメディアシステムなどで、言語および聴覚に障害がある子供や成人の治療にあたっている。
- 12) 国際医療福祉大学塩谷病院（〒329-2145 栃木県矢板市富田 77 TEL：0287-44-1155）  
平成 21 年 4 月に厚生連塩谷総合病院から継承して、塩谷病院としてオープンした。病床は 240 床である。平成 23 年より回復期病棟を開設し 365 日体制のリハビリテーションを実施している。
- 13) しおや総合在宅ケアセンター（〒329-2145 栃木県矢板市富田 77 TEL：0287-44-1155）  
国際医療福祉大学塩谷病院に隣接し、栃木県北（塩谷郡市地域）の通所サービス、訪問サービスの拠点として平成 26 年 4 月に開設された総合在宅ケアセンターである。
- 14) 国際医療福祉大学熱海病院（〒413-0012 熱海市東海岸町 13-1 TEL：0557-81-9171）  
平成 14 年 7 月に国立病院から承継し、新病院が平成 17 年 7 月に開設した。病床は 269 床である。リハビリテーション室からは海が望め、すばらしいオーシャンビューや熱海ならではの温泉がある。平成 24 年 8 月に回復期リハビリテーションセンターを開設した。
- 15) 国際医療福祉大学三田病院（〒108-8329 東京都港区三田 1-4-3 TEL03-3451-8121）  
平成 17 年 3 月に東京専売病院から継承して三田病院としてオープンした。乳腺センター、頭頸部、腫瘍センター、呼吸器センター、予防医学センターを開設し、新たな外来を開設した。病床数は 291 床である。
- 16) 国際医療福祉大学市川病院（〒272-0827 千葉県市川市国府台 6-1-14 TEL：47-375-1111）  
昭和 41 年、結核に対する化学療法研究所の附属病院として開設。今後は結核のみならず、肺ガンなどの呼吸器疾患全般を診療体制の柱とするとともにがん全般に渡る化学療法の研究にも取り組む。平成 19 年 2 月に新病院が完成した。平成 29 年 9 月化学療法研究所附属病院から市川病院に名称が変更になった。

### 9.3 社会福祉法人 邦友会

- 1) 国際医療福祉大学リハビリテーションセンター（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-7 TEL：0287-20-5200）  
国際医療福祉大学リハビリテーションセンターは大学の敷地内にあり、平成 12 年 4 月に開設。重度心身障害児施設であるなす療育園と身体障害者療護施設であるサポートハウス那須、那須デイサービスセンターからなる総合施設である。なす療育園と那須療護園はそれぞれ 50 床の施設である。なす療育園では外来リハビリテーション診療も行っており、現在栃木県北部地域の小児リハビリテーションの中核となっている。
- 2) おおたわら総合在宅ケアセンター（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6 TEL：0287-20-2501）  
おおたわら総合在宅ケアセンターは大学の敷地内に、平成 15 年 4 月に開所した総合在宅ケアセンターである。通所リハビリテーション、通所介護、グループホームがある。
- 3) おおたわら風花苑（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6 TEL：0287-20-2230）  
入所定員 40 名、短期入所定員 30 名の全室個室・ユニットケア型の特別養護老人ホームである。各ユニットは 7～10 名の構成で、利用者同士のふれあいの場がもてるよう、団欒や簡単な調理、食事なども楽しむことができる居住環境を重視した空間を提供している。

4) 特別養護老人ホーム柘の実荘（〒329-2763 那須塩原市井口 533-11 TEL：0287-37-1160）

国際医療福祉大学病院・マロニエ苑の隣に、平成6年に開所した77床の特別養護老人ホームである。ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど様々なサービスを提供している。平成11年には在宅介護センターが開設され、介護保険に関連したサービスを提供できる。

9.4 医療法人財団 順和会

1) 山王病院（〒107-0052 東京都港区赤坂 8-5-35 TEL：03-3402-3301）

東京の赤坂に立つ昭和12年創立の歴史ある病院である。高度化・専門化する医療に対応し得るスタッフをそろえ、大学病院とも連携を取りながら最新の診療を行っている。都会型の病院であり、平成12年11月に新病院が完成した。特に、リプロダクションセンター（不妊治療）が有名である。

9.5 医療法人社団 高邦会

1) 高木病院（〒831-0016 大川市酒見 141-211 TEL：0944-87-0001）

506床の急性期病院。ICU、HCUを有する。医師やコメディカルと連携しチーム医療を行っている。脳血管疾患、神経難病、整形外科疾患、呼吸器疾患、心疾患、悪性新生物、小児など多岐にわたる疾病に対して理学療法を行っている。

2) 柳川リハビリテーション病院（〒832-0058 柳川市上宮永町 113-2 TEL：0944-72-0001）

平成2年に開設した、240床のリハビリテーション専門病院である。回復期病棟は120床と近隣では最多の病床数を誇る。西日本屈指の面積（1,230㎡）を持つ広い訓練室を持ち、約90名のリハビリテーションスタッフが在籍している。医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ソーシャルワーカーなどのチーム連携により、365日質の高いリハビリテーションを提供している。病院内には通所リハビリテーションを併設し、生活期のリハビリテーションを支援している。

3) みずま高邦会病院（〒830-0416 三潞郡大木町大字八町牟田 1621-1 TEL：0944-87-8880）

平成12年に開設された120床の療養病床を持つ病院であり、病院内に通所リハビリテーションセンター及び居宅介護支援事業所を併設している。治療・ケアのための設備、休息のための安らぎのある病室、語らいながら食事ができる空間などを機能的に配置し、病気の治療と生活リハビリテーションを実践できる環境を整え、自宅で療養されている高齢者及びそのご家族に対する在宅支援の機能も備えている。

4) 福岡山王病院（〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-45 TEL：092-832-3061）

福岡国際医療福祉大学、総合ケアセンターももちに隣接し、平成21年5月に開院した199床完全個室の病院である。通所リハビリテーションも併設している。

5) 福岡中央病院（〒810-0022 福岡市中央区薬院 2-6-11 TEL：092-741-0300）

1926年に熊本通信病院福岡支所として、福岡市で診療を開始、1951年に福岡通信病院として現在地に移転した。2019年4月、医療法人社団 高邦会 福岡中央病院へと変わった。福岡市の中心に位置し、他の医療機関との連携も密であったこれまでに加えて、あらゆる医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を目指す国際医療福祉大学・高邦会グループの充実した医療・福祉施設と連携している。

6) 介護老人保健施設 水郷苑（〒832-0058 柳川市上宮永町 269 TEL：0944-74-4001）

平成5年に開設した、入所100床の老人保健施設である。苑内には通所リハビリテーションを併設している。柳川の温かな風土を背景に、天然温泉を利用した浴室や、リフト設備等安全に配慮した設備の充実により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の他、他職種連携のもと、生活リハビリを基調にきめ細やかなADLアプローチや活動を支援している。

7) 有明クリニック（〒831-0016 大川市酒見 215-1 おおかわ交流プラザ3階 TEL：0944-85-8081）

平成27年5月、「在宅療養支援診療所有明クリニックと通所リハビリテーション」を開院。有明クリニックでは、通院が困難な方に対して訪問診療を行う。併設する通所リハビリテーションでは、トレーニングマシンを使ったパワーリハビリテーション、ご利用者の日常生活機能の改善をより計画的に支援してい



く生活行為向上リハビリテーション、認知症予防や記憶力改善を図る脳活性化リハビリテーションを柱に、専門職による充実した個別・集団リハビリテーションを行う。また、多様な入浴設備を導入し、自宅での入浴が困難な方でも安心して入浴できるサービスを提供する。

8) ケアサポートハウス大川 (〒831-0022 大川市榎津 160-1 TEL : 0944-87-0018)

平成 12 年、高木病院の南側に開設された総合在宅ケアセンターで以下の施設を配置している。グループホーム・高齢者向け賃貸アパート・通所介護・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・訪問介護ステーションがある。「利用者が住み慣れた地域社会において、その人らしい生活ができるよう、個性に応じた適切な援助を行う。」を運営理念に、関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している。

9) 有明総合ケアセンター (〒832-0058 柳川市上宮永町 277-2 TEL : 0944-75-1670)

水郷苑の南側に平成 12 年に開設した総合在宅ケアセンター。居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・通所介護がある。「利用者が住み慣れた地域社会において、その人らしい生活ができるよう、個性に応じた適切な援助を行う。」を運営理念に、関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している。

10) 総合ケアセンターももち (〒814-0001 福岡市早良区百道 3-6-40 TEL : 092-831-1901)

福岡山王病院、福岡国際医療福祉学院と同一敷地内に平成 20 年に開設した、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援の、在宅介護を支援する 3 事業所を併せ持つ複合福祉施設である。グループ内だけでなく、福岡市内の病院、施設などと連携し、利用者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるように、利用者の個性にあったサービスを提供している。

## 9.6 社会福祉法人高邦福祉会

1) 社会福祉法人高邦福祉会 柳川療育センター

(〒832-0813 福岡県柳川市三橋町棚町 218-1 TEL : 0944-73-0039)

平成 28 年 5 月、入所を 110 床、短期入所を 10 床へ増床し、移転オープンした重症心身障害児(者)施設である。移転後の敷地内には、児童発達支援センター「あいりす」と国際医療福祉大学神経発達症研究センターが併設され、総合的な医療・福祉・教育施設へと規模が拡大した。現在、リハビリテーション室には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が 34 名勤務し、入所・外来利用者に対して、質の高い療育を提供している。

2) 社会福祉法人高邦福祉会 デイサービスセンターりはらいふ

(〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 284 番地 2 らいふサポートセンター柳川 1 階 TEL:0944-75-1130)

平成 28 年 9 月、機能訓練特化型デイサービスとして開設。午前 3 時間、午後 2 時間とそれぞれ短時間利用となっている。利用者の自立に向け、運動機能の訓練(マシン等を利用した有酸素運動)を中心としたサービスを提供。「活動」や「参加」を目標に、楽しく体を動かすことで運動の常習化を図り、健康・自立を促している。

ザ・フクオカ 情報誌：2022 年度自己点検・評価資料集

---

2023 年 6 月 1 日 発行 4 号

福岡国際医療福祉大学  
自己点検・評価委員会  
福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40  
TEL：092-832-1200 FAX：092-832-1167

---